

からぼり川

がたろう通信

第41号

2004年11月30日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ : <http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail : k_hiroharu@nifty.com

発行責任者 : 小林寛治 TEL/FAX 042-391-4003 (東村山市美住町 1-13-14)

「子どもの水辺」に登録完了

かねてから「子どもの水辺」再発見プロジェクトに参加を希望し、手続きを行って来ましたが、この度窓口になっていただいた北北建から「子どもの水辺サポートセンター」へ申請が渡り、国土交通省・環境省・文部科学省の確認を経て「子どもの水辺登録証」が子どもの水辺サポートセンターから届きました。

登録水辺名は『WAKUWAKU ひろば』です。

登録した水辺の場所は空堀川浄水橋を中心とした上下流です。

(本文 11 ページ参照)

子どもの水辺サポートセンター Center for Supporting Children's Water Activities	
子どもの水辺登録証	
登録番号	13-16-008
登録水辺名	WAKUWAKU ひろば
登録場所	
都道府県名	東京都
市区町村名 (郡名)	東村山市
河川名 (水系名)	空堀川 (荒川水系)
上記を「子どもの水辺」として登録いたします。	
登録年度	平成 16 年度登録
発行年月	平成 16 年 10 月
交付年月	—
 子どもの水辺サポートセンター センター長 山寺 雅史	

ななくさの咲く秋を夢見て

正路 妙子

吹く風に爽やかさが感じられ、日当たりのよい土手や草地にススキの穂がなびく光景が見られる季節になりました。わが国に現存する最古の歌集、万葉集のなかで、ススキの穂は尾花と称されています。その万葉集の巻第八に、「山上臣憶良の秋野の花を詠む歌二首」として、「秋の野に 咲きたる花を 指（および）折りかき数ふれば 七種（ななくさ）の花」、「萩の花 尾花葛花なでしこが花 をみ なえし また藤袴 朝顔が花」があげられています。「朝顔」は、「木槿（むくげ）」の別称ともされていますが、現在は「桔梗」との説が有力です。これらの花は数々の秋の歌に詠み込まれて、万葉びとの繊細なこころの動きを私たちに伝えています。

ススキやハギ、クズはいまも健在ですが、野生のフジバカマやオミナエシ、キキョウを目にすることはほとんどなくなりました。古くは蘭（らん）とも称されていたフジバカマ（藤袴）は、キク科の多年草で、薬用に使われました。また、少し乾燥させるとクマリンの香気が立つために、香草としても利用され、鎌倉時代の武将たちはこの香りを身にまとって出陣したといわれています。中国でも、古くから香草として栽培され、浴用や香袋に重用されたとのこと。キキョウは、根茎にサポニンが含まれており、薬用・食用に利用されてきました。

このフジバカマとキキョウは、現在、「絶滅の危機が増大している種」として、レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類（VU）にランクされています。フジバカマやキキョウが生息していたのは、頻繁な洪水や野焼き・草刈りなど、人間の適度な介入によって森林の形成が妨げられた河川敷や草地であったと考えられています。それが、最近数十年の人間の活動にともなう自然の改変と、人間の生活習慣の変化とによって急速に生息場所を失うことになりました。

生物の多様性という観点から自然を眺めると、人間の手が一切入らない自然より、森林のなかで木のまばらな個所、林縁、河原、田畑の土手など、十分な光の入る空間の方が、より多様な生物に生息空間を提供しています。では、大雨や定期的な草刈りによる攪乱を受ける空堀川の河川敷は、長いスパンで見ても、どんな植生となって安定するのでしょうか。興味深い点です。

この「がたろう通信」は、隔月に発行しています。東村山中央公民館、

「自然」とは

小林寛治

私たちは緑や樹木、昆虫や生き物が多いところを自然がある、自然が豊かだといっています。また林や森も杉や檜の人工林には自然がない、むしろ街中の雑木林の檜やクヌギの林の方が自然度が高いと評価しています。また、草や木が多いこと、田んぼや水路の多いところを自然があるとっています。

一方、人為・人工の加わったこのような自然は自然ではないと主張する人もたくさんいます。このように自然に対する個々人の理解は主観的で多様です。

それでは自然とはどのように理解したらいいのでしょうか。

広辞苑による“自然”は、「おのずからそうになっているさま。天然のままで人為の加わらないさま。あるがままのさま。」となっています。次いでに“天然”の項を引いてみると「人為の加わらない自然のままの状態。人力では如何ともすることのできない状態。」とあります。

どうやら自然とは本来「天然のままで人為の加わらないさま」を云うようです。

狩猟生活から文化を持って農耕・牧畜生活に変わってきた人の生活は、自然に人為的な破壊を加えることによって成り立ってきました。気が付いてみれば、私たちの周りに字義どおりの自然はどこにもありません。

私たちが住んでいる東京都の「東京における自然の保護と回復に関する条例」では自然を次のように定義しています。(自然の定義) 第二条『この条例において「自然」とは、大気、水、土壌、及び動植物等を一体として総合的にとらえたもので、人間の生存基盤である環境をいう。』とあります。人為・人工の加わらない純粋な自然の定義と社会生活上の自然の定義とは大きな乖離があります。

現在、私たちが望ましい自然といっているのは手つかずの自然ではなく文化をもって定住し、そこで林野を切り開き生活しやすいように家を建て、水路を切り開いた先人が築き上げてきた「里地」「里山」的なものを望ましいもの、自然が豊かだといって守るべき自然といっているように思われます。

私たちはどこかで、手つかずの自然と里山的な自然を混同しているような気がしてなりません。狩猟生活から離れた人は自然と対話しながら手つかずの自然を長い時間をかけて破壊してきたものが今、自然といって評価している里地・里山なのです。自然と共生し、なじんできた自然をこれ以上無秩序に変えられたり、今まで共生していた生きものが失われていくことは悲しいことです。条例にあるような人間の存在基盤である環境を守るためには常にモニタリングしながら度を越した環境破壊から地域を守っていく必要があります。

空堀川の草木 ⑬

つゆくさ (つゆくさ科)

有川 栄子

道端や畑地にはえる一年草。茎は根ざわで分枝し、下部は横にはい、節から根を出して草むら状になる。6月～9月に茎の先に貝殻のような包が付き、中に数個のつぼみができて、一個ずつ伸びて青色の花が咲く。日本名で“つゆ草”は露を帯びた草の意味です。

7月中旬と8月に空堀川の植生の調査をしたところ、去年は多くの群落を見ることが出来たのですが、今年は水不足のせい、つゆくさはあまり見られませんでした。



空堀川の植生

「空堀川の草木」については「がたろう通信 第29号」から佐々博子さんに代わって有川栄子さんが引き継いで紹介しています。空堀川の草木は全くのサラ地から一本ずつ草が芽生え、現在の植生になったものです。

1997年の明治大学農学部・飯田さんの卒業研究での植生調査では70種の植物が確認され、その46%が外来種でした。それから7年後の今年(2004年10月)、法政大学人間環境学科の神山さんが調べた結果では167種の植物が確認され、その35%が帰化植物でした。すべてが分かったのではないと思いますが、貴重な資料です。“こんな花、このような植物を見つけたがリストにあるかどうか”ご照会ください。リストにないものは新たにリストアップしていきたいと思ひます。

空堀川の豆知識(4)

空堀川の流れのなぞ

— 分流式流域下水道と雨水排水幹線路 —

小林 寛 治

空堀川は年間を通して一部の地域にしか水は流れていません。源流があっても流れ出る水は極端に少なく、かろうじて中流域からの工場排水で流れが維持されています。この水も数キロ流れて消えてしまいます。水の流れない範囲は年とともに広がっています。一方、雨が降ると数分も経たないうちに川に流れ出しあつという間に川は増水してきます。また、雨が止むと、1、2時間のうちに水は引き、元通りの姿になってしまいます。空堀川流域に下水道が整備される前には大量の水が流れ、悪臭と水質汚濁は公害といわれたものでした。

空堀川流域に分流式下水道が整備され、各市は公共下水道を整備し、生活排水を下水道に流すようになりました。昭和54年東村山市を最初に、56年清瀬市、60年東大和市、61年武蔵村山市と流域各市が次々と共用を開始し、空堀川の流量は次第に減ってきました。流域各市が整備した公共下水道(荒川右岸処理区)は、東京都が運営する流域下水道(東大和幹線、柳瀬幹線、東久留米幹線、黒目幹線)に集められ、清瀬処理場に運ばれた後処理され、柳瀬川に流されています。一方、雨水は同じように流域各市が公共下水道計画(雨水)を整備し、各区域の雨水を川に流す排水処理区を設けました。東村山市で言えば、この区域は北川右岸・左岸、ここは前川右岸・左岸、空堀川右岸・左岸と、道路や公共の空間に降った雨水はどこかの川に流れるように排水幹線を整備しています。一般の家の敷地に降った雨はすべて自分の敷地内で処理して、道路面に流さないのが原則なのですが、殆どの家は道路面より高くなっているため雨水は公共面に出ていきます。路面に降った雨水は道路の側溝に流れ、すべてが川に流出しています。道路は川となり、川は雨水の排水路になっているのです。東村山市に限って言えば、市全域の50%以上の地域からの雨水が空堀川に排水されるように排水路が整備されています。市街化が進むほどに雨水の排水幹線は延長され、空堀川に流出する雨水は多くなる一方です。下水道法によれば、環境基本法によって流域下水道を整備する時には河川流量や地形・降水量その他の自然的条件、汚水の量や水質の見通し、当該水域における水利用の見通しなどの基本計画を定めなければならないことになっています。この法律が適用されれば、流域下水道の整備によって河川の流量はどうなるのか当然予想され、少しは変わっていたでしょう。残念なことに、都市計画における空堀川の河川工事と同じく、環境基本法制定以前のことであり、ということによって一切の環境影響調査がなされていないのです。

—環境税を語る会—

“環境大臣と語るタウンミーティング 2004” に参加して

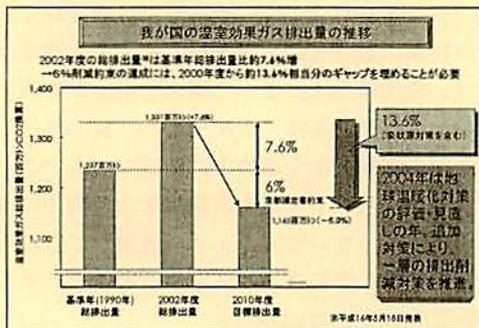
小林 寛 治

11月6日(土)虎ノ門パストラルで行われた小池環境大臣と「環境税を語る会」に参加してきました。

少し前までは水と空気はタダだというのが常識でした。水質は年を追って悪くなり飲料用ミネラルウォーターの消費量はうなぎ上りに増えています。タダで飲める水は遠く山奥に行き探さなければ見つけれないほど貴重なものになってきました。今度は空気がタダでは吸えなくなってくるようです。地球温暖化は止まる様子はなく、気候変動を抑え現状を維持していくには国をあげてCO₂の発生を抑えていかなくては持続可能な地球環境が維持できなくなっているということです。

1997年京都会議(COP3)で決まった気候変動枠組み条約「京都議定書」がこのたびロシアの締結によっていよいよ2005年2月発効されることに決まりました。2010年度には1990年の総排出量の6%減を達成するのが京都議定書の約束になっています。約束を守らなければペナルティを支払うことになります。

環境省はこの約束を守るために、平成17年度(2006年1月)から国民に負担を求めることを決めたのです。課税対象はすべての化石燃料と電気に対してです。税額は1世帯あたり月額250円、年間3000円程度の負担となります。これによって徴収された税額、約4600億円は温暖化対策として、環境設備支援と環境産業の育成、豊かで環境に優しい生活の実現、グリーンな交通の実現、森林対策、地方公共団体への税収の配分、社会保険料の軽減等に使い、地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しを踏まえ、家庭やオフィスなど幅広い主体の取り組みを支援していこうというものです。



良い、悪いはともかく、今までの規制を主とした様々な排出規制から税という新しい仕組みに変わっていくという時代の転換となる新しい税だと思えます。

第6回 空堀川・川まつり

安岡 建 依

前日の予報とはうって変わって快晴となった5月30日、東村山市内では第6回の川まつりが催されました。 当会も例年通り第一会場（からぼり広場）を中心に様々な企画をもって参加しました。

恒例の魚の放流から始まり、売店では憐森永乳業様より寄贈されたジュース270本に加え、発泡酒・竹とんぼを販売しました。31℃を超える、この時期としては記録的な暑さもあって、ジュース・発泡酒は文字通り飛ぶように売れ、あっという間に完売。竹とんぼも強力な助っ人（土曜子ども講座に参加している小学生数名）の協力でこれも見事に完売。さらに売店脇には会のPRコーナーを設けました。「内野吉之助みどりの基金」の広報パネル（その趣旨・実績を写真と共に明記したもの）と募金箱を設置。その横に空堀川で捕れた魚の標本・会報・入会案内等を並べてみました。お祭りという華やかな場の中で、果たして興味を引く事が出来るだろうか？という懸念もあったのですが、決して大勢とはいえないものの、立ち止まり熱心にパネル・標本に見入る方、さらに踏み込んで説明を求めてくる方が複数おられました。また募金の方も合計3,641円も集まりました。

今回初めての試みとしては、フリーマーケットへの出店を行いました。これは当会員の神山様のご息から寄贈された衣類（原宿にあるお店のオリジナル・ブランド品・新品）約210点を有効に使わせていただくという考えからのものです。売り子になっていただいた会員・ボランティア（皆さん未経験の方ばかり）の方々の奮闘があって約半数の品数を販売することが出来ました。売店の売り上げと共に今後の活動におおいに使わせて頂きたいと思っております。

浄水橋上流では段ボールポートを実施しました。ここには東村山市立第三中学校の生徒さん数名がボランティアで参加してくれました、またSKセッケン様には昨年引き続き「手作りセッケン」のコーナーを設け、ご協力いただきました。

いったいどれだけの人数がこの川まつりに集まったのかは不明なのですが、からぼり広場はあふれんばかりの賑わいでした。この人並みを見て感じたことは、やはり水辺空間は貴重であり、必要なのだなあ、ということでした。同時に、この人の多さに比べて川の水量の乏しさを改めて実感しました、あまりにも淋しく情けない。

「不確定かつ多数のものの利益の増進に寄与する」—NPO法人である当会の存在の意義とその重さを感じた一日でもありました。

上橋上流の調整池の河川工事に伴う 跡地利用についての市民同士の話し合い

空堀川の改修工事に伴う西武多摩湖線橋梁架け替え工事が終わると、河川工事は標記の暫定調整池にかかってきます。東京都の住民説明会につづいて市民同士の話し合いが7月24日から10月23日まで計4回行ってきました。

暫定調整池は河道部分を除いて9000㎡の残地が残ります。これを東京都の提案は、埋め立てて緩傾斜護岸にするというのです。先に(1月)私たちは東京都から意見を求められ、現状を生かした河川公園(ピオトープ)を既に提案してありました(このことは前号でお知らせしました)。市民同士の話し合いの中で、私たちの提案を理解してもらうために進んで参加してきました。その中で緑を増やすことについては大まかな合意が得られました。しかし、他の部分については多様な意見があり、合意を得ることは困難なことと思われます。

近隣自治会が纏めた要望(案)は、1. 氾濫を防止する。2. 生活の安全を妨げない。3. 老人・子どもが憩える場所とする。ということで、時間雨量/50mm以上の対応を要求しています。生活道路化とプライバシーへの配慮、公園への車椅子のアクセス等バリアフリーからユニバーサルデザインへ方向付け、公園の用具・遊具の設置場所の確保等々を求めています。

東大和流域住民・東大和市民の意見は、既にある「都市計画マスタープラン」を一顧だにせず、“昔は林であったのだから当然埋め立てて雑木林に戻すべき”という案です。

両方とも自分たちの都合のいいように纏めた案で、現状認識に欠けたものがあるように思えます。この場所は東京都が買収した河川敷であり、洪水調整池として機能してきたところです。これから時間雨量50mmに耐える護岸をつくり、暫定的に1時間30mmの雨量に対応する河道を造るといっています。さらに時間雨量30mm以上の降雨は年間3回程度は避けられない、3年に1度は時間50mmを超える降雨を想定している、というのが北北建の説明でありました。温暖化が進行する中で統計的にはもっと多くの頻度で多量の雨が降ることが予想されています。自分たちの住む地域は空堀川流域の中でどのような場所にあるのか知っておく必要があるのではないのでしょうか。氾濫を防止することとの矛盾はないのか、理解が難しいところです。

国土交通省河川局の総合治水三訓では ・空き地をみたら掘って遊水地に。
・谷をせき止め貯水する。 ・雨水は地下に浸透させる。 という原則を持って都市型災害を予防しようとしています。

このような中で、川の氾濫は迷惑だ、安全度を高めてくれ、といいながらも折角有効に機能してきた調節池を埋め立てて、生活道路や遊具を置いた公園にするというのです。洪水からより安全度を高めるには、一時の洪水を溜めることの必要性を認識すべきではないでしょうか。国有財産である河川用地には河川法やその他の施行規則によってできることと出来ないことがあるはずです。河道の治水機能をここだけ 50 mm 以上に対応しろ、500m も橋が無い無橋地帯を解消しろというのは地域エゴといわれても仕方がないのではないのでしょうか。

また昔は河畔林であり、以前は防風林であったのだから全部を雑木林にしろという、東村山中央公園の林を想定しているようですが、河川敷内には林を形成するようなたくさんの樹木は植えられるのでしょうか。

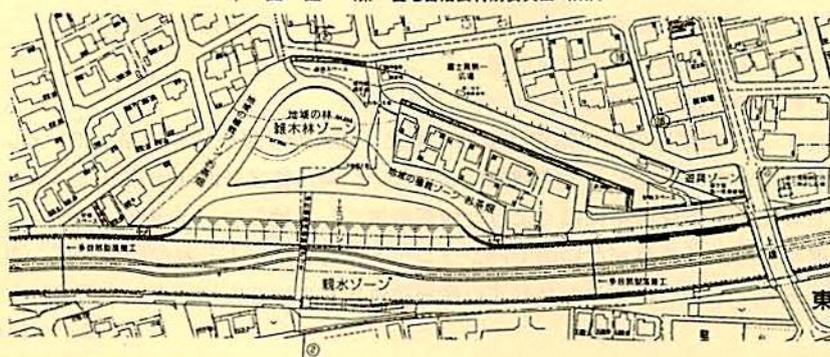
その他もっといろいろな問題についても温度差があり、まだまだ話し合う時間が必要なかもしれません。しかし、あえて多様な意見を一本化する必要はないと思います。何故なら、一本化した市民案を東京都が受け入れる、という保障はどこにもないからです。

私たちは、空堀川流域全体としてこの調整池のあり方を考えてきました。将来のため、また地域の人々のためにも治水機能も高め、好ましい河川空間が出来るように話し合い、その中で共有できる良い方法が見つけれられると信じて参加してきました。

遠いところにある消火栓から万一の時に水が引きづらいのでは、緊急自動車が入れるような都市計画道路の抜け道の確保、消防水利としての調整池の活用等を提案してきたつもりです。

水が臭い・汚い、迷惑なものであるという、かつてはそうであったかも知れない川ですが、流れる水に対する見方、想いの違いが意見の相違に現れているようです。

平面図 (第一住宅自治会特別委員会(案))



第 11 回 柳瀬川・空堀川流域連絡会のあらまし

11月5日第11回「柳瀬川・空堀川流域連絡会」が立川の北北建で行われました。今回の議題は、7月11日第10回流域連絡会で提示され意見を求められた「柳瀬川流域河川整備計画（素案）」に対する回答でした。多くの質問に対して東京都河川部計画課の太田課長補佐より丁寧な回答と説明がありました。

「柳瀬川流域河川整備計画（素案）」は平成9年改正された河川法に基づく柳瀬川・空堀川・奈良橋川の今後30年の予算の裏づけのある工事实施計画そのものであり、法律に基づいて市民の意見を求め手続きを踏んで決定するものであります。

新河川法が施行されてから7年、ようやく待っていた空堀川の整備計画ができたのです。空堀川は水量が極端に少ない、既に施行済みの区間は市民が望む川づくりになっていない、という欠点はありますが、今後計画通りに整備されれば素晴らしい川に蘇るものと思います。

河川整備計画策定までの今後の実施事項は下記のようになっています。

- (1) 都予算部局、国土交通省等との調整
 - ・予算上の調整
 - ・関連計画等との調整
- (2) 河川整備計画（原案）の縦覧
 - ・都のホームページで公表 （一般市民が意見を言える。）
 - ・都及び関係市町村で原案の掲出 （ここでも原案が見られる。）
- (3) 学識経験者からの意見聴取
 - ・都で依頼した水理、環境、生態系等の学識経験者に他河川の整備計画と合わせて意見を聴取
- (4) 水道・環境・農水等関係機関との調整 （書面にて確認）
- (5) 市町長への意見照会 （書面にて確認）
- (6) 国土交通省への認可申請

これらの縦覧は17年2月頃になりそうです。

※最後に、「空堀川の河川情報は少なく市民が個人的な思い込みで語っている。したがって温度差があり共通の認識にならない。河川整備計画が出来ればパンフレット等にして市民の手に届くような情報提供をして欲しい。」と要請しました。太田課長補佐は「予算がないのでパンフレットは難しいかもしれないが、インターネット等で出来るだけ分かりやすい情報提供をしていきたい。」という答えでした。

（文責：小林）

インフォメーション

空堀川見学会・交流会

去る10月16日(土)、第3回「空堀川見学会」が行われました。新河岸川流域で川づくりのために活動している団体・個人の方々30数名は国土交通省荒川下流事務所が用意したマイクロバスに乗り込み、朝9時30分～16時20分まで時間をかけて源流部から柳瀬川の合流点までの見学と、清瀬市立芝山小学校での交流会まで熱心に話し合われました。

川の案内人は上・中流部は「空堀川に清流を取り戻す会」小林が、下流部の「せせらぎ公園」と清瀬橋の架け替え工事については「川づくり清瀬の会」神澤会長が案内人をつとめました。主な行政側の参加者は国土交通省荒川下流河川事務所から調査課長榊氏他、東京都河川部、北北建から野村課長他4名、埼玉県川越工事事務所から2名、コンサルタント(株)日本能率協会が事務方を仕切られました。

「子どもの水辺」再発見プロジェクト 登録完了

「子どもの水辺」は東村山市教育委員会の賛同も受けられ、河川管理者である北北建の同意を得て、河川管理者から事務局である「子どもの水辺サポートセンター」へ10月末送付しました。現在、「子どもの水辺サポートセンター」から文部科学省、環境省、建設省に書類が回り、確認が成されました。11月25日、表紙のような登録証を受け取りました。

空堀川の植生調査

河川敷の草刈りを前にして7月13日、8月10日の2回、北北建東村山工区の向山さんと業者・当会有志の三者で植生調査を行いました。最近オオブタクサが河川敷にはびこり、花粉による苦情も出ています。例年なら10月の草刈り頃はオオブタクサも結実し実をこぼしています。これでは退治できません。今年は夏休み前から河川敷の雑草を刈り取ろうということになりました。オオブタクサが駆除された所では菜の花が勢いを盛り返すことがわかってきました。来年は再び菜の花の空堀川になるでしょう。



久しぶりのクリーンアップ

度々の雨で中止されていた空堀川のクリーンアップを11月21日(日)、有志の人たちで行いました。台風の影響で増水し、発泡スチロールやビニール、ペットボトルなどが目立っていました。下流部は南秋津橋、上流部は浄水橋上流の2箇所で行ないました。ゴミの回収は東村山市環境部にお願いました。軽トラックで2回、約200kgのゴミが回収されました。

新入会員です。どうぞよろしく

10月13日入会 正会員

実川 圭子さん (東大和市)

◆これまでの経過◆

(2004/5/1~2004/10/31)

- ◎5月8日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎6月6日(日) 身近な水の一斉調査。
東村山市立第三中学校自然科学部。
- ◎7月1日(木) 第10回柳瀬川・空堀川流域連絡会。北北建にて。
- ◎7月10日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎7月13日(火) 河川敷植生調査。
- ◎7月17日(土) 土曜子ども講座。
- ◎7月24日(土) 土曜子ども講座・落合川
- ◎8月4日(水) NPO 入門講座・ボランティアセンター 19時~21時
- ◎8月10日(火) 河川敷植生調査。
- ◎8月28日(土) 49池について市民の話し合い。清水集会室
- ◎9月11日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎9月14日(火) 緑の市民会議。市役所501会議室。
- ◎9月15日(水) 子どもエコ探検隊打ち合わせ。美住サウザンウッド。
- ◎9月18日(土) 土曜子ども講座。空堀川の昆虫採集。
- ◎9月25日(土) 子どもエコ探検隊。遊ぶ調べよう空堀川。子どもエコ広場。
- ◎10月1日(金) 荒川下流・空堀川見学会下見。神澤、小林、(株)日本能率協会近藤他。
- ◎10月9日(土) 定例会。東村山中央公民館会。
- ◎10月16日(土) 土曜子ども講座。

◎10月16日(土) 第三回空堀川見学会◎10月23日(土) 49池の話し合い。~~~~~
ヒガンバナ(彼岸花)を

植えました。

11月21日(日)のクリーンアップ終了後、浄水場前の緩傾斜護岸にヒガンバナの球根を300個植えました。来年春の彼岸の頃には茎の長さ30cmくらいの赤い花が咲くでしょう。ヒガンバナは多年草です。里地で人と共生している植物です。

球根は清瀬の自然を守る会・宮澤さんの案内にて清瀬市内で採取しました。



会 員 募 集

「空堀川に清流を取り戻す会」の活動に参加・支援ご希望の方をお待ちしております。会員制です。お問い合わせは下記までお願いいたします。

お申込み および お問い合わせ先

東村山市美住町1-13-14 小林まで

TEL/FAX: 042-391-4003

会費振込み先

郵便振替 口座名: がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

この冊子は再生紙を使用しています。

からぼり川

がたろう通信

第 42 号

2005 年 2 月 21 日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ : <http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail : k_hiroharu@nifty.com

発行責任者 : 小林寛治 TEL/FAX 042-391-4003 (東村山市美住町 1-13-14)



第 3 回 内野吉之助「みどりの基金植樹祭」盛大に・・・

2月13日(日)、雪の予報が見事にはずれ、風もなく温かい日差しに恵まれ、3回目になる植樹祭が内野吉之助さんも参加され賑やかに行われました。

東村山市みどりと公園課から植付けを依頼されたドウダンツツジ 100 本、当会が準備したサツキ 100 本の合計 200 本を本町 4 丁目 14 番地先の「ふれあい広苑」河川敷に植えました。
豊島区環境保全課から係長他 4 名の応援もいただきました。

みなさん、ご苦労さまでした。

「Edel sei der Mensch (人間よ、気高くあれ)！」 ゲーテより

正路 妙子

1月末、銀座の街路樹のシダレヤナギが、あおあおとした葉を風に揺らしている光景に出あいました。通常ヤナギは、早春に淡い緑の新芽を出し、秋には落葉します。落葉は、気温の低下に伴って、樹木が寒さから身を守るために生じる現象ですから、銀座界隈はヤナギにとって、落葉する必要がないほど暖かいということになります。ヤナギは、樹木の中でもっとも特色のある属で、湿潤から乾燥、低温から高温までの幅広い条件に適応するのだそうです。銀座のシダレヤナギは、冬でも気温の下がらない都心の環境に適応して、常緑性になっているようです。

20世紀100年間の年平均気温は、東京都心部で3.0℃、福岡市で2.5℃上昇したといわれています。都市におけるヒートアイランド現象は、かなり早い時期から取り上げられていて、最近では、屋上緑化やビルの壁面緑化などの対策が提案されていますが、東京の都心部には、それらすべての努力を帳消しにしてしまうように、高層ビル群が次から次へと誕生しています。それらの建物は、爽やかな風もビル風に変えてしまい、自然の温度調節を利用せず、冷暖房機器の使用によるエネルギーの多消費を前提としています。

都市は、自然の植生地を切り開くことによって、蒸発散機能を失い、その構造自体が、エネルギーを多量に消費しなければ機能できないようになっていきます。地球は、生物も含めたすべての物質が相互に依存するひとつのシステムを構成していますが、都市という巨大な熱の発生源によって、風の流れにも、水の循環にも人工的な改変が加えられています。ヒートアイランド現象を抑制するためには、エネルギーをさらに投入するのではなく、自然界の原理のなかにその対策を探し求める必要があるでしょう。

世界のあちこちで、相次いで発生する、前例のない規模の自然災害。巨大な地震や集中豪雨、強風や豪雪は、私たち人間の慢心を成めているようです。

人間にとって本当に大切なものは何でしょう。夜間も煌々と灯りのともる都会で、高層ビルからの夜景を楽しみながら、ペットのロボットと暮らすことでしょうか。私たちが便利なものとしている先端的な機器類やあふれる情報は、実は私たちの欲望を限りなく煽り立て、忙しく動き回らせて、幻想の充足を与えてくれるだけではないでしょうか。今焦眉の急となっている化石燃料の消費削減問題。私たちは、この問題と向き合い、まやかしの充足を捨て去り、本当に大切なものを手に入れることができれば、「edelな(気高い)存在」に近づくように思われるのですが...

参考文献：辻井達一「日本の樹木」(中公新書)

この「がたろう通信」は、隔月に発行しています。東村山中央公民館、

地球温暖化と京都議定書

小林 寛 治

前号で報告しました環境税は見送られ、再来年度以降の話題となるようです。広く浅く税までかけて実施しなくてはならない地球温暖化問題とはどういうことなのでしょう。

地球温暖化問題とは『大気中のCO₂など温室効果ガス(グリーン・ハウスガスという、[二酸化炭素CO₂、メタンCH₄、一酸化二窒素N₂O、ハイドロフルオロカーボンPFC、パーフルオロカーボンPF₆、六フッ化硫黄SF₆の六種類のガス])濃度の上昇によって地球が温暖化し、地球の気候が変わり、生態系のバランスに大きな影響を与え生態系の一部である人間の存続が危うくなっている』という問題です。

私たちは1997年11月、COP3(温暖化防止京都会議)に先立ち、東村山市民文化祭において気候フォーラム(気候変動・地球温暖化を防ぐ市民会議)よりデモ用パネルを借りて地球温暖化の影響についての展示を東村山中央公民館で行ないました。(「がたろう通信」第6号に詳細を掲載)1997年12月、京都において決まったことを「京都議定書」といいます。京都議定書で重要なことが二つあります。一つは、大きな話題となっていますが、主要参加国に1990年を基準年とした第一約束期間、つまり2008年から2012年の5年間に平均5.2%の温室効果ガスを削減することです。このため、日本は6%の削減目標を受け入れたのです。

もう一つは、「京都メカニズム」といって温室効果ガスの排出権取引であります。排出権取引とは、他の国で削減してもらい、その排出量を自国の量に上乗せで取引してもいいということ。すなわち、温室効果ガスの排出権を国際取引出来ること。京都メカニズムには相手国で温室効果ガスの削減プロジェクトを実施してその削減量の何割かを購入して自国の削減割当量に加えてもいいという共同実施、クリーン開発メカニズムも含んでいます。

京都議定書はロシアの批准によって2月16日に発効しますが、最大の排出国であるアメリカが議定書から離脱しています。それは、中国・インドなど開発途上国に削減義務はない。そもそも温室効果ガスで、はたして地球温暖化が進むかどうか不確かである。企業の国際競争力には不利である等という理由からです。

温暖化問題は100年間の取組みであり、いま、対策を取らなければ1.4~4.5℃の気温上昇がある、という不確実性の前提にたっています。一旦温暖化してしまったら取り返しができないということを締結国は認めているのです。

今、地球温暖化になんの手も打たないでおくことは、経済開発が持続可能な態様で進むことが出来ないという世界共通の認識に立っているからです。

「地球温暖化推進大綱評価・見直しに関する中間取りまとめ」中環審を参考。

「空堀川子どもの水辺協議会」準備会を立ち上げ！

前号(41号)でご案内しました「子どもの水辺」が国交省・文科省・環境省の3省からなる「子どもの水辺推進会議」の審査を受けて、空堀川の「馬頭橋から第二砂川橋までの区間」を子どもの水辺「WAKUWAKU 広場」として登録しました。

「子どもの水辺」を実効のあるものにするためには、登録するだけではダメで、構成者としての教育委員会を中心に、子どもたちのために何をするか協議会を立ち上げ、討議する場を作らなければなりません。

この協議会が去る2月14日(月)午後1時から東村山市民センター第九会議室で行われました。参加者は河川管理者である東京都北多摩北部建設事務所から吾妻工事係長、霜島氏、丸茂維持係長、管理課から須崎氏、東村山市教育委員会から神山指導主事、小林社会教育課長、今氏、東村山市都市整備部道路交通課から田中課長、須崎課長補佐・柿沼氏、環境部環境管理課から大越管理係長・木村氏、社会福祉協議会ボランティアセンターから立河センター長、当会から小林・友保・有川・平田と合計17名の出席によって開催しました。東京都から吾妻工事係長の挨拶に続き、各自自己紹介の後、河川管理者から「子どもの水辺」再発見プロジェクトについての説明がありました。当会の小林が司会者となって、「空堀川子どもの水辺協議会」規約(案)および活動内容の説明があり、質疑の結果、次回4月上旬に協議会を立ち上げることで一致しました。次回の話題となる人事については、東京都は市民団体から会長・副会長を出して各構成委員はこれを盛り立てていったらどうか、行政は裏方に徹した方がいいと考えている、との提案がありました。

教育委員会からは、当面は当会が行なう行事が「子どもの水辺協議会」の承認のもとに行っているという位置づけで考えればいいのか、という話があり、全員が同意しました。



東京都内の「子どもの水辺」登録状況 9 団体（登録順）

登録名称	市区町村	河川名	事務局
西水元水辺の楽校	葛飾区	利根川水系・中川	葛飾区都市整備部公園整備課
下平井水辺の楽校	江戸川区	荒川水系・荒川	中土手に自然を戻す市民の会
もっと知ろう、楽しもう多摩川	府中市	多摩川水系・多摩川	府中市立四谷小学校
福生子どもの水辺	福生市	多摩川水系・多摩川	福生市生活環境部環境課
府中市子どもの水辺	府中市	多摩川水系・多摩川	府中市環境案全部緑のまちづくり推進課
「境川・鶴間子どもの水辺協議会」	町田市	境川水系・境川	NPO 法人境川緑のルネッサンス
平井川子どもの水辺	あきるの市	多摩川水系・井川	河原で遊ぼう会
WAKUWAKU ひろば	東村山市	荒川水系・空堀川	NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会
せたがや水辺の楽校	世田谷区	多摩川水系・多摩川	せたがや水辺の学校連絡会

2005 年 2 月現在まで東京都で「子どもの水辺」を登録している河川と団体は、以上です。全国では 192 団体が登録しています。

菜の花の種を蒔きました

ここしばらく、空堀川河川敷の菜の花の話題は耳にしません。これはオオブタクサがはびこり、菜の花の成長を阻害していたものと考えていました。

12 月 18 日（土曜日）、第二砂川橋から上流馬頭橋までの間に菜の花の種を蒔きました。昨年は河川敷の草刈りが早く終わったので、年が明けた河川敷には菜の花の芽吹きや、中には早くも菜の花が咲き出しているのが見られます。今年は上流部も下流部も一帯に見事な菜の花が見られると予想しています。この予想が当たれば、河川敷の草刈時期と菜の花の関係が明らかになると考えられます。（一般に菜の花のことをアブラナと言っています）

空堀川の豆知識(5)

空堀川の調整池

小林 寛 治

空堀川には多数の調節池があります。このお陰で今まで大した溢水もなく安全が保たれてきました。

以前の空堀川は上流から柳瀬川の合流点まで、細く蛇行の激しい河道を同じ幅で三面張りにしたため、早く流れるようになったのですが、反面、川の収容能力が決められてしまい、長雨や一時の豪雨の時には決まって溢水していました。その後、都市計画決定で新しく河道が決まり、下流から川を広げ、掘削する工事が始まりました。工事に先立って東京都は主要な場所に大きな調節池を整備しています。上流からは武蔵村山調整池、上砂・神明調整池（河道内調整池）、芝中調整池（多目的広場がついている）、庚申橋調整池（河道内調整池・未共用）、狭山・高木調整池、上橋上流調整池（49池）、この他最上流部の青梅街道・新薬師橋から新砂新道の中砂橋にいたる新河道は、複断面で調整池の機能を備えています。

このように幾多の調節池が台風や長雨・集中豪雨にも溢水することなく、空堀川流域の安全性を高めてきています。昨年10月の度重なる台風による大雨にも、これらの調整池が機能して下流の安全を保ってきたことは意外に知られていません。空堀川では現在、西武多摩湖線橋梁架け替え工事が行なわれており、これからは上流部の未整備区間にかかっていきます。河川工事が調整池にかかるようになると、いろいろな意見が出てくることは否めません。上橋上流の調節池が最近の事例です。

空堀川をよく見ると、東京の都市河川としては河川用地がある程度確保されています。この河川用地の有効利用と、調整池が河川のために生かされ、一体となって流域市民の安全性が高められるよう望みたいものです。



芝中調整池



上砂・神明調整池

空堀川の草木 ⑭ おおいぬのふぐり (ごまのはぐさ科)

有川 栄子

越年草、ヨーロッパ原産の帰化植物で、春の代表的な雑草となっています。陽だまりの地面にルリ色の小さな花を見つけたとき、春に出会えた喜びを感じます。

空堀川では乾いた地面に、四方に広がり成長しています。

愛らしいが、名前は嫌いという人も多いようです。果実の形から名前がついたといわれています。ある地方では“星の瞳”という名称もあるとか。



空堀川の植生調査報告

前号でご紹介しました法政大学人間環境学科の神山みつ江さん（富士見町在住）が、またまたレポートを届けてくれました。

「改修河川—ゼロからの出発—」と題するA4判本文66ページもの力作です。ただ、このなかの概要にある空堀川の紹介は当会のホームページから引用されています。空堀川の河川敷に、少なくとも46科176種の植物が存在していることが明らかになりました。



東村山浄水場の「よう壁」工事が始まります

「よう壁」とは一段高く土盛りしてある浄水場の壁面のことで、工事の目的は、
○施設が古くなり（昭和 33 年着工、35 完成）大規模地震を想定した現在の耐震基準で再評価すると、安全性を一部満足できない状態にある。このため安全性確保を目的に工事を行なう。

○東京都水道局では、お客様に安全でおいしい水をお届けするため、東村山浄水場に高度処理を導入することとし、平成 17 年度より実施する。

○東村山浄水場においては、洗浄排水池、排泥池を取り囲むよう壁のうち、空堀川に接する箇所について補強工事を行なう。

○空堀川河川用地の一部を占有する。この期間は 2 年が必要。
というもので、昨年 12 月 6 日、東京都東村山浄水場会議室において東京都水道局建設部設計課設計第二係より私たちに説明がありました。

当該工事にあたり水道局では、ここを活動の拠点としている当会に事情を説明するよう北北建からの示唆があってこの説明会が行われたものと思います。

当会としては、これは必要な工事であって、東京都東村山浄水場所有の地であり、占有する河川敷も東京都が管理する用地であるため、何らの阻止理由はありません。しかし、従来のかかわりから下記事項について要請しました。

◎当該箇所には北北建と覚書を取り交わして植樹したソメイヨシノがあり、他の樹木についても河川工事にあって私たちの意向に沿った樹種を植えてもらった経緯があるので、河川用地を占有し樹木を移動する場合は、工事終了後に元に戻すこと。

◎浄水場用地と河川敷との間に空地が出来たら、この空間を草置き場（堆肥を作る場）として貸して欲しいこと。

◎ISO14001（環境マネジメントシステム）を取得事業所として地域の環境改善（主として景観）に一層の努力を要望しました。

これらの要望に対して、年末の 28 日、東京都水道局建設部設計課第二係・大森氏から概ね当会の考え方に添うような返事を口答で得ました。

工事概要

1. 工事件名：東村山浄水場高度浄水施設築造に伴う既存設備撤去及び仮設工事
1. 施行場所：東村山市美住町 2 丁目 20 番地（東村山浄水所場内）
1. 予定工事期間：

高度浄水施設工事 平成 16 年度～平成 21 年度

よう壁改造工事 平成 16 年度～平成 21 年度

河道が整備されます

北多摩北部建設事務所によると、来年度の工事として（56 工事）、上砂一の橋から 49 池までの区間（東大和市内）を平成 17 年度（10 月頃から 18 年 3 月まで）に整備されます。現在は両側や片側に鋼矢板が打っており、直線的ではなく蛇行しています。このため河道は狭まり、一方にコンクリートの古い護岸を砕いたものが詰めています。工事は鋼矢板を引き抜き、河道内の碎石を取り除き下流と同じにする工事です。

河道の整備については注文があります。上砂一の橋から 49 池の区間は、鋼矢板は河道の中心打ってあるのではなく、写真のように蛇行して打ってあります。水路は鋼矢板に従って蛇行していますが、従来の流れに沿って鋼矢板が打ってあるといったほうが正確のようです。したがって、河床は安定しています。まさか河道工事にあたって碎石を取り除き、河床の真ん中に新たに低水路を造り直線的に水を流すようなことはしないと思いますが、改めて建設事務所に要望します。現在の流れを保全した工事をお願いします。

このようにお願いするのは、

- 新たに低水路を真ん中に造ると、河道内から地下透水が起きて、現在でも少ない流水が減ってしまう。
- 流れを生かすということは、河道の蛇行をそのままにする、ということです。

折角意図して蛇行させた河道を真っ直ぐにすることは無いと思います。蛇行を生かし、水衝部には搬出する碎石の一部を蛇籠に詰め、若干の杭を打って底固めを行い洗掘を防止する。このことにより、河川内に濁が出来、生き物の生息環境が確保されます。事例は西武新宿線久米川橋梁前、久米川橋上流にあります。水は濁れることがなく魚が棲みつき、格好の釣り場になっています。（文責・小林）



内野吉之助みどりの基金植樹祭

友保邦弘

2月13日、快晴のもと「みどりの基金」第三回目の植樹イベントが行われた。空堀川ふれあい広苑周辺の遊歩道3箇所約60mに、市みどりと公園課より提供されたドウダンツツジ100本と東村山グリーンプロジェクトから調達したサツキ100本の合計200本を補植した。メンバーは一般公募の市民ボランティア、豊島区環境保全課のグループ、当会会員などの老若男女約30名で小中学生も大勢参加した。顔合わせ挨拶のあと植木生産業者のプロ・内海さんによる植え方の悪い見本と良い見本の説明で一気に気分が盛り上がり、穴を掘る人、苗木を運ぶ人、植える人、バケツリレーで川から水を運ぶ人・・・お互い役割分担を交替しながら作業は快調に進行した。基金の主、90歳の内野さんが元気な足取りで苗木を運んでおられる姿を見て若者達もハッスルハッスル、一時間少々のアツという間に見事に仕上がった。全員で記念撮影のあと都営住宅の集会室で弁当とトン汁に舌鼓を打ちながら歓談。一仕事終えた満足感に浸りながら次回の再会を約して解散した。

ここで植栽した後の管理について若干触れておきたい。ツツジ・サツキ類は浅根性の樹木であるため比較的浅植えにしているため夏の高温に曝されると根が傷んで枯れる心配がある。その対策として当会が委託されている下堀・ふれあい広苑の手入れで発生する草や剪定枝を断熱材として苗木の根元にマルチングする。この方法は根の保護、堆肥効果、土壌の改良、土壌流出と雑草の抑制、地温上昇の抑制、ホコリの防止など実に多くのメリットがある。それに加えて、剪定枝や草の焼却処分を止めてリサイクルすることにより税金の無駄遣いをやめ、ダイオキシンや温暖化ガスの排出軽減にもつながるという実に一石二鳥三鳥の処方箋なのである。

今年の秋には今回の方式で第四、第五回目の植樹祭を予定しています。詳細が確定しましたら市報などでお知らせしますので是非大勢の皆様に参加して頂きたいと期待しております。

(写真・上が植樹前、下が植樹後)



流域連絡会・水量確保分科会の中間まとめ（案）

小林 寛 治

市民団体の請願によって立ち上げた柳瀬川・空堀川流域連絡会「水量確保分科会」は平成16年3月29日の第1回より12月7日まで4回の話し合いが持たれ、この度事務局が中間的なまとめをすることになりました。

この分科会は、流域連絡会として実行可能なことを関係行政機関に提言するものであります。第5回の分科会で審議して頂きたいと思います。

空堀川に適正な流量を確保するためには

1. 環境用水として地下水を汲み上げ、河川に注入することが出来るか？

地下水を環境用水として池、水路へ注入している実例がある。

環境確保条例「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」平成12条例第15号で規制されている。地下水は誰のもの？ 地下水は公共のものである。

地下水の利用状況 合理的な理由があれば都知事の許可で可能。

2. 雨水の地下浸透により河川流量が確保できるか、水循環の視点で検討する。

3. 唯一の水源としてMの工場の排水を公認する。

現在M工場の排水が空堀川唯一の水源になっている。空堀川の水量確保を議論する上では避けて通れないものである。

この分科会において「特免」を下水道管理者である東大和市の市長に要請する。

4. JR 武蔵野線、構内地下水の河川放流について。

河川法に基づく「地下鉄の漏水等地下水の河川放流に係る取扱い方針について」JR 武蔵野線構内排水は東京都河川部の基準を満たしたものであり、この実施を積極的に多摩環境事務所並びに河川部に働きかける。

5. 最上流部の流量確保について。

武蔵村山市が経営する「カタクリの湯」は地下水を汲み上げ温泉水と水道水を混合している。汲み上げた地下水1000m³/日を脇の空堀川に流すことにより上流部の流れを最低限維持する。新たに井戸を掘ることなく、汲み上げ量を増やすことで解決する。

6. 多摩川上流処理場で高度処理水を増加処理し2000m³/日 空堀川に流す。

7. 水源地域の緑を増やす事業を立ち上げ、樹木による保水力の増強に努める。

8. 空堀川の適正流量を検討する。

以上を流域連絡会・水量確保分科会で16年度中に検討し取り纏めを行い、年度中に関係箇所へ提言する。

◆これまでの経過◆

(2004/11/1～2005/2/20)

- ◎11月5日(金) 第11回 柳瀬川・空堀川流域連絡会。北北建。
- ◎11月6日(土) 環境大臣と語るタウンミーティング。虎ノ門パストラル。
出席：小林。
- ◎11月9日(月) 東村山市環境審議会。
東村山市役所第二委員会室。
- ◎11月13日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎11月29日(月) みどりの市民会議。東村山市役所4階会議室。
- ◎11月30日(火) 柳瀬川ネットワーク懇談会。清瀬市民会館
- ◎12月6日(月) 東京都水道局建設部設計課と打ち合わせ。東村山浄水場会議室。小林、有川、正路、安岡出席。
- ◎12月7日(水) 柳瀬川・空堀川流域連絡会水量確保分科会(第4回)。北北建
- ◎12月10日(金) みどりの市民会議。東村山市役所601会議室。
- ◎12月11日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎12月18日(土) 菜の花の種まき。
WAKUWAKU広場。
- ◎1月8日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎1月28日(金) 柳瀬川ネットワーク幹事会。野塩市民センター。
- ◎2月8日(火) みどりの市民会議。東村山市役所601会議室。
- ◎2月12日(土) 定例会。東村山中央公民館。
- ◎2月13日(日) 第三回内野吉之助みど

りの基金植樹祭。ふれあい広苑。

- ◎2月14日(月) 「子どもの水辺協議会」準備会開催。東村山市市民センター。
- ◎2月19日(土) 「土曜子ども講座」次年度打ち合わせ。

インフォメーション

身近な水の一斉調査

今年の調査は、6月5日(日)に決まりました。空堀川では武蔵村山市内を除いて柳瀬川合流点までは、私たちが行なっています。ご協力のほどお願いします。

昨年6月に実施しました全国身近な水の一斉調査の概要版「身近な水環境の全国一斉調査——調査結果概要2004」が手許に届きました。関心のある方はご連絡ください。10部あります。A4判20ページ、カラー刷りです。オプザーバーに当会会員小堀先生の名前があります。

会 員 募 集

「空堀川に清流を取り戻す会」の活動に参加・支援ご希望の方をお待ちしております。会員制です。お問い合わせは下記までお願いいたします。

お申込み および お問い合わせ先

東村山市美住町1-13-14 小林まで

TEL/FAX : 042-391-4003

会費振込み先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

からぼり川

がたろう通信

第 43 号

2005 年 5 月 19 日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ : <http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail : hiroi83@nifty.com

発行責任者 : 小林寛治 TEL/FAX 042-391-4003 (東村山市美住町 1-13-14)



第 16 回 空堀川クリーンアップ行われる

4 月 17 日 (日)、今回はゴミの収集は第一会場 (上流部)、第二会場 (下流部) の 2 か所、さらに第一会場を、浄水場前・からぼり広場前・野口橋～久米川橋間と 3 箇所に分けました。

特記したいのは、第一会場では近所の方から冷たい飲料の差し入れがあったことです。ありがとうございました。

当日秋水園に持ち込まれたゴミの合計は、不燃物 770 kg、可燃物 190 kg でした。他に秋水園で処理できない電気製品等がたくさんありました。

身近な緑

正路 妙子

市内の保存林のなかに不燃物・可燃物を問わず、絶えずゴミが投げ込まれている光景には、胸が痛みます。それに加えて、野火止用水のほとりの、自然に形成されてきた林を伐採するようにとの要請が、周辺の住民から行政に寄せられていると聞くと、反対しなくてはならないのではないかという思いが湧き上がってきます。

地球の生態系のなかで、植物は唯一の生産者であり、すべての動物は、植物の作りだした有機物と酸素によって生かされています。つまり、エネルギー源として、また酸素を呼吸する生き物として、私たち人間は植物に依存しています。「高木、亜高木、低木、下草層と立体的な階層を成す、その土地本来の森は、芝生などの 30 倍の緑の表面積をもっていて、防音、防塵、空気の浄化、保水、水質浄化など環境保全機能も 30 倍、二酸化炭素を吸収・固定する能力も 30 倍以上になる」とのことです（宮脇昭：「いのちを守るドングリの森」）。アスファルトで舗装された都会の、無機的な材料でできた建物群の中で私たちが生活していられるのは、そこに緑地があり、樹木があり、さらに周辺に緑の山々があるからです。

このように考えると、森林のみならず街路樹や庭木は、パブリックな役割をもち、個人の恣意のままに処分してはならないものであると言えるでしょう。樹木が日陰をつくり、葉を落とし、虫や鳥を集めることを、迷惑に感じる人がいます。しかし、それこそが、私たち人間も、地球の生態系の構成員であり、植物に依存し、他の多様な生き物たち（たとえそれが人間にとって不快な生き物であろうとも）と共生していることの証なのです。私たちがこれからも持続的に生きていくためには、このことを共通の認識としてもつ必要があるでしょう。



この「がたろう通信」は、隔月に発行しています。東村山中央公民館、

身近な緑

正路 妙子

市内の保存林のなかに不燃物・可燃物を問わず、絶えずゴミが投げ込まれている光景には、胸が痛みます。それに加えて、野火止用水のほとりの、自然に形成されてきた林を伐採するよにとの要請が、周辺の住民から行政に寄せられていると聞くと、反対しなくてはならないのではないかという思いが湧き上がってきます。

地球の生態系のなかで、植物は唯一の生産者であり、すべての動物は、植物の作りだした有機物と酸素によって生かされています。つまり、エネルギー源として、また酸素を呼吸する生き物として、私たち人間は植物に依存しています。「高木、亜高木、低木、下草層と立体的な階層を成す、その土地本来の森は、芝生などの 30 倍の緑の表面積をもっていて、防音、防塵、空気の浄化、保水、水質浄化など環境保全機能も 30 倍、二酸化炭素を吸収・固定する能力も 30 倍以上になる」とのことです(宮脇昭:「いのちを守るドングリの森」)。アスファルトで舗装された都会の、無機的な材料でできた建物群の中で私たちが生活してられるのは、そこに緑地があり、樹木があり、さらに周辺に緑の山々があるからです。

このように考えると、森林のみならず街路樹や庭木は、パブリックな役割をもっており、個人の恣意のままに処分してはならないものであると言えるでしょう。樹木が日陰をつくり、葉を落とし、虫や鳥を集めることを、迷惑に感じる人がいます。しかし、それこそが、私たち人間も、地球の生態系の構成員であり、植物に依存し、他の多様な生き物たち(たとえそれが人間にとって不快な生き物であろうとも)と共生していることの証なのです。私たちがこれからも持続的に生きていくためには、このことを共通の認識としてもつ必要があるでしょう。



「セブン-イレブン みどりの基金」助成決定！

空堀川沿川の緑化に取り組んでいる当会の今年度事業に「2005年度(平成17年度)セブン-イレブン みどりの基金 環境市民ボランティア活動助成【活動助成】事業」が決定しました。

当会が企画した事業規模は976,960円、助成申請金額は863,960円でした。査定の結果663,960円(76.8%)でした。

助成対象事業名は

- 1. 空堀川の河川流域の景観の改善のための植花活動
- 1. 活動事業名 からぼり川グリーンフェスタ
- 1. 助成金額 663,960円
- 1. 当会事業支出 100,000円(内野吉之助みどりの基金より支出)
- 1. 総事業費 763,960円

事業の概要

事業計画概要は、東村山市が東京都から管理委託を受けている河川敷「ふれあい広苑」の植栽が枯れたり抜かれたりして放置してある箇所の植栽の補植、「第三仲よし広場」の築山にヒガンバナの球根を植え、浄水橋上流部とヒガンバナでつなぐ事業です。

浄水場前にはすでに200個のヒガンバナの球根を植えています。

「ふれあい広苑」にはツツジを270本、ドウダンツツジ430本、みどりと公園課提供(予定)のツツジ100本を植えます。「第三仲よし広場」築山には600個のヒガンバナの球根を植えます。

「ふれあい広苑」には今年2月ドウダンツツジ100本(東村山市みどりと公園課提供)、サツキ100本を植え付けましたが、いずれも見事に咲いています。

私たちがこれらの場所に植樹するのは、この場所の草刈や植木の手入れを行政から委託を受けているからです。収益をこの事業にあてているのです。

植樹に関する同意書は東村山市から受けており、私たちの活動は行政と共同の事業に位置付けています。

これからの事業展開はすべて公開の市民参加で行っていきます。

空堀川の豆知識(6) 水環境から見た空堀川のありかた

小林 寛 治

空堀川の河川工事は昭和 47 年に下流から始まり、護岸は 50 mm/時間の降水に耐えられる設計になっており、護岸から護岸の間の水の流れる部分は東村山地域から下流はグランドレベルから約 2 m 低くなっています。現在 30 mm/時間の河道から近い将来は河道を掘り下げ 50 mm 対応の川にするそうです。将来はさらに掘り下げ 70 mm 対応の深い河道になるようです。似たような川に残堀川があります。

空堀川の東大和市から上流の出来上がった部分を見ると 2 m の高水敷からさらに 3 m の深い河道が造られ、複断面、それも三面張りの護岸が出来上がっています。武蔵村山市内ではすでに 8 m 近い深さの河道が用意されています。最終目標の 70 mm 対応の川を一挙に造り上げているのだらうと想像されます。これでは、たとえ水が上流にあっても下流には流れてきません。

新河川法の下、行政地市民が川づくりを話し合う流域連絡会では最初から水量が課題でした。水量確保分科会までつくり、如何にしたら流れが確保できるか問題にしているのに、当事者である河川管理者が議論を無視した設計・施工しているのはどういうことでしょうか。

地域の水環境からみると、空堀川流域の生活排水はすべて下水道に流され、雨水の殆どは何ら利用されることなく空堀川に流される仕組みになっています。住宅地として開発が進み、里山といわれる雑木林や畑が減少し、裸地の被覆化がすすんで、地下水位が下がり今まであった湧水は極端に減少しています。

多摩地域の緑の減少はいまや深刻な問題になっています。川に水が流れていないことは、一見私達の生活に何の関係がないことのように思われますが重大な問題を含んでいます。川の流れは地表を冷やし、夏の気温上昇を防ぎます。地域の防災にも役立ちます。川の中の生き物にも命を与えてくれます。河川は一帯となって上下流の生き物も往来ができる今では唯一の場所になっています。

江戸時代、この地域にはたくさん水路があり、多くの水田がありました。また、多くの溜池もありました。空堀川は大きな川ではなかったが、細かく、くねくね蛇行した川でした。蛇行部分には淵があり、そこには多くの魚がいました。いま、空堀川は河川改修によって当時より 3 km 近くも短くなり、直線化したために命のない川になってしまいました。水の循環が正常でなくなるとそこに住む人の生活にもうるおいの欠けるものとなってゴミ捨て場と化していきます。

今こそ、川があることを「まちづくりの基本」にすえて見直さなければなら時にきていると思います。空堀川は都市計画河川なのですから・・・。

空堀川の草木 ⑮ オオカワジシャ (ゴマノハグサ科)

有川栄子

水田の畦道、川の岸边など多湿の場所に生育する越年草です。茎は太く直立して高さ40~70 cm位となり、葉は対生し、長楕円形で先が尖り、縁に細かいきよ歯がある。5月~6月には上部の葉のわきから総状花序を出し、泡紫色の多数の花を開く。小さな花は、がくは4片にさけ、花冠は6~7 mmに4裂し、紫色の条がある。雄しべ2本、雌しべ1本がある。果実は球形のさく果で径3 mm、細かな多数の種子をもつ。川べりに生えるオオカワジシャの意味です。別に少々小型のカワジシャがある。



春あさく 空堀川岸集う吾ら
ツツジサツキと 植樹の行事

踏みしめる 植樹のもりつち
若き子ら 未来の扉よ開け青晴

横川喜峰さん (2月の植樹祭に
参加された時の感想を短歌に託
して送っていただきました。)

空堀川の菜の花だより

今年も空堀川に黄金色の帯のように菜の花が満開です。昨年より少し遅れて開花しました。しかし、菜の花の分布が去年と大分違います。秋の草刈が影響していると思われます。河川管理者はオオブタクサ(花粉症の原因)が繁茂しないうちに一回目の草刈をしました。刈った直後に菜の花が発芽し、葉を広げそのまま越冬するはずでした。ところが一部大沼田橋から上流800m位の区間のみ二回目の草刈を実施したのです。その時点ではしっかり葉を広げていた菜の花の幼苗がきれいに刈られてしまったのです。ただ、いつものように水際1mは残りましたので、その部分のみ昨年同様花は咲きましたが、物足りない花の数です。

今年の見所は下堀橋~野行橋間で素晴らしいです。秋の草刈は翌春に開く花のことも考慮して実施して欲しいものです。

第16回 空堀川クリーンアップ

友保 邦弘

4月17日、第16回空堀川クリーンアップが行われた。昨年から数回雨天中止が続いた後しばらくぶりであったため、過去最大クラスのゴミの量であった。しかも4月としては気温が22℃という異常な暑さのため参加者はみんな汗だくの大奮闘であった。結果の概要は次の通り：

	参加者	燃えるゴミ	燃えないゴミ
浄水場前	10名	3袋	10袋
第一会場（上流部）	56	15	25
第二会場（下流部）	39	19	33
	合計105名	37袋	68袋（計105袋）

この他に粗大ゴミとして、自転車、ラジカセ、パソコン、電子レンジ、ふとん、マットレス・・・などなど。

ゴミは70リットル入り105袋、参加者も過去2番目に多い人数で偶然にも袋と同じ数の105名。2トトラック2台分という信じられないような量である。

ゴミの大半はプラスチック類でいわゆる燃えないゴミである。ゴミが有料化されたり容器包装リサイクル法とか家電リサイクル法が整備されたために不法投棄が増えていると聞く。風に吹き飛ばされて川に落ちたゴミもあるかもしれないがこれとて誰かが何処かにポイ捨てしたものである。自動車リサイクル法ができたので自動車を捨てる人がいないとは言えない。情けない話ではある。

ある種の生物の中には異常繁殖してエサを食い尽くし、自分の排泄物で窒息して絶滅するものもあるという。人類もその一種であろうか？人類が減亡するシナリオは三通りあるといわれている。

一つは核戦争、もう一つは異常気象による大災害や難病の蔓延、三番目は環境破壊である。あまりピンと来ないかもしれないが一番確実なのは実は三番目の環境破壊である。化石燃料や森林を食い尽くし、地球温暖化によって生態系を攪乱し、核のゴミをはじめとするありとあらゆるゴミで大地や海や空を汚染し、その結果ゆっくりとはあるが間違いなく人類は滅びるでしょう。



確実にやってくる大地震に対して有効な対策を実施せずに放置し、確実にやってくる環境破壊に対して有効な対策を実施せずに放置しておればシナリオは現実のものとなる。今まさに人類の英知が試されているのです。

「はじめの一步」

—「空堀川に清流を取り戻す会」に入会して—

実川 圭子

私が初めて「ビオトープ」という言葉を聞いたのは、もう、10年以上前になります。きれいに整備された公園や、季節ごとに植物を植えかえるようなガーデニングには疑問を感じていたので、“生き物が住める自然”という考え方に「私の探していたものはこれだ!」と思いました。しかし、実生活の中で（特にまちづくりという観点からいくと）なかなか理解されにくい考え方のだと、子どもを育てながら、つくづく感じました。目の前に川がありながら、子ども達に川遊びの体験をさせてあげられないのは残念なことです。わざわざ遠出をして河原に遊びに行き、近くの川は用水路のよう…では悲しい、と思います。

その後「空堀川に清流を取り戻す会」の存在を知りました。日頃感じていることをこの会では実践しているということがすばらしいと思い、入会することになりました。最近感じることは、「自然は何もしなければよい、ということではない」、竹林でも、雑木林でも、里山でも昔から人が関わってこそ、美しく守られてきたのだと思います。何もしなければ荒れ放題になってしまいます。まして、排水を流され、コンクリート張りにされた川は、人が再び手を加えていかなければ、生き物が住めるような“自然の川”にはならないとわかりました。

たいていの大人の方には、川で生き物を捕って遊んだ思い出があると思います。今の子ども達も、川がどんなに汚くても、川に入りたくて寄ってきます。空堀川をただの用水路でなく、川の生き物が、子ども達が、そして大人達も集まれる、ビオトープになってほしいと思います。

入会してからは、クリーンアップや植樹祭に参加させていただきました。会の活動の範囲が広く、まだわからないことだらけで、何に協力できるかわかりませんが、まずは、参加して、声を挙げるのだと思い、子ども達を引き連れて、できるところでやらせていただいています。

河原に行くと、子ども達は「はいいい?」「泳げる?」とききます。私の子どもが大きくなるまでには無理かもしれませんが、せめて孫の頃には、安心して入れる川になってほしいと思い、はじめの一步を踏み出したところです。これからよろしくお願いたします。



公園や広場の維持・管理について

友保邦弘

空堀川の管理用道路に沿って大小いろんなタイプの広苑や広場がある。これらは近隣の住民やウォーキングを楽しむ人達の憩いの場所として利用されている。我がNPOは市から委託されてこれら一部の広苑の植栽や芝生の維持管理を行っており、その委託費は貴重な活動資金となっている。

数年前に我々が管理している広苑付近の一部の住民から市に対して苦情が寄せられたことがあった。その内容は「これまでの業者は剪定枝や草を全部集めて秋水園に運んでいたのに、今度の業者は刈り取った草を植え込みの中に押し込んでいる」というものであった。住民の言わんとしたのは「今度の業者は手抜きしている」ということであつたらしいが実はこの処置は広苑管理の方法に関するある種の「実験」であつた。正確な名称は失念したが市では「剪定枝の堆肥化推進協議会」なるものが立ち上がっておりこれまでに何度か検討会が行なわれたが未だ軌道に乗っていないようだ。公共事業や農家、個人邸から発生する剪定枝や草などの大半は焼却処理されていると聞いている。河川の管理道路に植栽されているサツキ、ツツジなどの植栽の一部は枯れて地肌がむき出しになっている。原因は夏の高温によって根が乾燥し水切れによるものが大半である。刈り取った枝葉や草は地面に還元されることなく持ち去られて焼却処分されている。降雨による流出も加わって土が減ってへこんでおり地力も低下して植え込みの植栽は枯れ、樹木も枯れるのである。これを防ぐ方法が株元へのマルチングである。草や枝葉を堆肥化して植栽の株元に敷き詰めれば地温の上昇が抑えられ表土の流出や地力の低下も防げる。施肥の手間や費用もかからず雑草も生えにくい。焼却処分の経費が削減出来る上に温暖化ガスの排出も抑制できるのでまさに一石三鳥、四鳥である。例えば公共事業の草刈り作業についても同様の指摘ができる。5センチ以下に刈るといのが標準仕様になっていてほとんどの業者が刈払い機で土煙を巻き上げながら作業をしている。夏の直射日光で地温が上昇しミズが這い出して干からびて死んでいる。雨が降れば表土が流出し日照りが続けば土埃が舞い上がり散歩している犬も人間も青息吐息である。これならばむしろ草がこんもりと生えている方が快適である。草が生い茂っているとゴミが捨てられ放火される危険があるという。これは公共道徳の欠如であつて草のせいにするのは本末転倒である。草は刈れ、虫は殺せ、ゴミは燃やせ・・・嘆かわしい風潮ではある。そんな訳で我々は草葉を堆肥化して植栽のマルチング材として利用する方法を提案し、市のみどりと公園課で検討してもらっている。この方法を全国規模で採用すればその効果は絶大であろう。早急に着手したいものである。

からぼり川 川 ま つ り

今年で第7回目になる「川まつり」を5月29日に開催します。

天王橋から浄水橋までの間約900mに新河道が完成し、これを記念して毎年5月末の日曜日にこの「川まつり」が行われるようになりました。

東京都から私たちに参加を求められ、鯉のぼりのポールを立てることを条件に初回から参加してきました。空堀川のことを多くの市民の皆さんに知ってもらいたい、当会の目的である清流復活に協力してもらいたいという願いもありました。

町会・自治会・商店会・市民団体から郵便局・警察・消防署等の参加で始まったおまつりも、フリーマーケットの出店を受け入れるようになって参加される人々も多くなり、最近では10000人を超える人出にもなっております。

順調な人出に比べ、非常に残念なことは、この「川まつり」の主役である川に殆ど水が無くなってしまったことです。そのため恒例のカモレースは流れがなくて出来ないでしょう。魚の放流をしても、やがて死んでしまうことが分かっているのはかわいそうです。

驚いたことに、多くの人は川に水が無くなることと川まつりは、無関係なことのように平気です。市役所の幹部の人たちも、空堀川の川まつりのことは東京都はもちろん建設省にまで届いていると、北北建とともに喜んでおられる有様、いったい現状の川をどのように思っておられるのか聞いてみたいものです。

来年はこの区間は完全に干上がってしまうでしょう。そのとき、市民の皆さんはどん反応を示すでしょう。空堀川だから仕方がない、というのでしょうか？

4月29日に鯉のぼりをあげました。鯉のぼりも川に水が流れていてこそ映えるのです。



空堀川の事態はすべてが人災だから……。

皆さん！ この実態を見て今一度「川」のこと考えてみてください！

からぼり川グリーンフェスタへのお誘い

来る6月19日(日)「セブン-イレブンみどりの基金」の助成を受け、第一回目の植花活動を行います。

6月15日の市報に募集案内を載せました。ぜひ参加してください。

日 時：6月19日 10時から12時まで小雨決行、
集合・植花場所：「からぼり広場」わき、第二砂川橋前、第三仲よし広場
植花後、集会所で親睦会を行います。

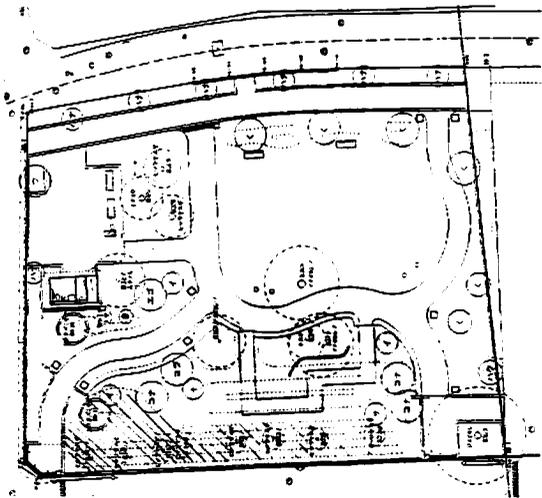
第一回目は第三仲よし広場築山に600個の“彼岸花(ヒガンバナ)”の球根を植えつける予定です。

ヒガンバナは中国原産といわれ、日本へは早く導入された史前帰化植物の一つではないかと言われています。種子植物ですが有性生殖を放棄した植物と言われています。このヒガンバナは人為的な環境を好んで増えている人と共生する植物です。

昔から、ヒガンバナは毒がある植物といわれていました。今回の植え付けに関して大手の種子メーカーに問い合わせしてみました。球根は毒性があるが、茎や葉にはほとんど毒性はないということでした。早茎を大量に採取し、お浸しにして食べる人なら気をつけなければならないが…ということでした。

植え付け方法は簡単、球根を埋めるには球根の二倍の深さくらいまで掘り、間隔は10センチ程度がよいとのことでした。

ヒガンバナは日当たり等はあまり関係がなく、施肥等手入れする必要はないようです。植えつけた後は、紐で周囲を囲み、ヒガンバナの球根を植えた旨を知らせる看板を出しておく必要があると思います。



◆これまでの経過◆

(2005/2/21～4/30)

- ◎3月3日(木) 東村山社会福祉協議会
ボランティア活動委員会会議。
- ◎3月9日(水) 都水道局とサクラの木
移植について打合わせ。出席：小林。
- ◎3月12日(土) 定例会。東村山中央公
民館。
- ◎3月14日(月)「49池」について都の
方針を聞く。小林、宮下、平田出席。
北・北建。
- ◎3月22日(火) “第七回川まつり”の
実行委員会(1回目)。東村山市庁舎。
小林、宮下出席。
- ◎3月26日(土) 柳瀬川流域シンポジウ
ム。於・明治薬科大学。会員7名参加
- ◎3月28日(月) 第12回柳瀬川・空堀川
流域連絡会。北・北建。出席：小林。
- ◎4月7日(木) 16年度第一回NPO役
員会。
- ◎4月9日(土) 定例会。東村山中央公
民館。
- ◎4月14日(金) 第二回川まつり実行委
員会。東村山市庁舎。
- ◎4月17日(日) 第16回空堀川クリーン
アップ。
- ◎4月29日(日) からぼり広場に鯉のぼ
り掲揚。

インフォメーション

身近な水の一斉調査

今年の調査は、6月5日(日)に決まりました。今回の全国一斉水質調査のマニュアルの表紙は、東村山市立第三中学校の木村先生と自然科学部の生徒たちが

一面を飾っているそうです。

★注意したい不法投棄！ その1

ペニシリン、インシュリンの注射が家庭でも出来るようになり、この注射器処理の不徹底が問題になってきました。

「川づくり清瀬の会」の人から、注射器がたくさん川に捨てられてあった、という話がありました。私たちのところにもあったと言ったら、それなら清瀬のものの上流から流れてきたのではないかと。東村山市の注射器等医薬品の処理はどうなっているのか、と詰問されました。早速東村山市環境部に確認したところ、指導課から返事があり、東村山市では医師会と薬剤師会が協力し、注射針はケースに入れ器具と一緒に販売店に持ち込むことになっている。したがって一般の廃棄物には出されないことになっている。環境部にも一切持ち込みはない。清瀬市ではまだ医師会と薬剤師会の協定ができていないのでは、と言われました。とすると、浄水場前に捨てられていた注射器類は東大和から流れてきたものだろうか？それとも、このようなシステムを知らない人が故意に捨てたものなのか？

★注意したい不法投棄！ その2

2001年4月から家電四品目(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン)を対象に家電リサイクル法が施行されました。処理責任は生産者が負うことになっています。しかし処理費用はそれぞれ消費者が負担しなければなりません。予想していたよりこの四品目は少ないのですが、パソコンやオーディオ等、あるいは車のバッテ

リヤや自転車等の不法投棄が目立つようになりました。

清瀬市では市で回収していますが、東村山市ではしてくれません。産業廃棄物として、北北建の業者に頼んでいます。不法投棄禁止を根本から啓蒙することが必要ではないでしょうか。「河川に捨てれば何とかなる」ということを許してはならないと思います。

定期通常総会 開催のお知らせ

5月21日(土)10時から第6回定期通常総会を開きますので会員皆さまのご出席をお待ちしています。また午前引続き午後1時から勉強会を開きます。会はオープンにしますのでどなたでも参加することが出来ます。

勉強会の議題は、

- 「子どもの水辺」プロジェクトとは。
- 都市計画河川空堀川の東村山市の取り組み姿勢について。
- 中小河川の多自然型川づくり…とは。
- 質疑応答

以上を予定しています。

終了時間は4時頃の予定です。

「鯉のぼり」有難うございました。

市報の影響は大きく、5月4日までに20件30匹の鯉のぼりが集まりました。今はお孫さんもお子さんに買ったという鯉のぼりを、丁寧にしまっておいたものを物置から出してきてくださった方、わざわざ送ってくださった方、持ってきていただいた方々、有難うございました。たくさん集まりましたので、やむなく次の機会にお断りしてしまった方もあり

ました。

紙上を借りて寄付して頂いた方、お断りしてしまった方に感謝とお詫びを申し上げます。

29日の川まつりには、是非お子様連れで鯉を見にお出かけください。

「がたろう通信」編集・発行責任者が交代します

1997年1月、「がたろう通信」第1号から9年間第43号まで発行に携わってききましたが、今回で交代することになりました。

この会報が、会員の皆さま・ご支援して下さる皆さまとを繋ぐものにしたいの思いから、微力ながら頑張ってきました。都市計画で造る空堀川についての情報を提供し、清流復活に努力してきたつもりです。編集者が変わることで新鮮なものに生まれ変わることを期待しています。長い間ご支援ご協力有難うございました。(小林寛治)

会 員 募 集

「空堀川に清流を取り戻す会」の活動に参加・支援ご希望の方をお待ちしております。会員制です。お問い合わせは下記までお願いいたします。

お申込み および お問い合わせ先

東村山市美住町1-13-14 小林まで

TEL/FAX: 042-391-4003

会費振込み先

郵便振替 口座名: がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

がたろう通信

からぼり川

第44号

2005年7月30日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail:k_hiroharu@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



第1回“からぼり川グリーンフェスタ”が開催される

6月19日(日)、「からぼり広場」わきの第三仲よし広場において、ヒガンバナの球根の植え付けが行なわれました。「セブンイレブンみどりの基金」の助成を受けたものです。

ヒガンバナはたくさんの呼び名を持っており、昔から人間の暮らしと密接に結びついてきたことがうかがわれます。鱗茎にはアルカロイドが含まれており、モグラやネズミがトンネルを掘るのを防ぐために、土手や畦に植えられたといわれます。

9月の開花が楽しみです。

欧州化学物質規制

正路 妙子

ドイツ環境自然保護連盟 BUND が設立されたのは 1975 年。今年の 7 月 20 日には、設立 30 周年を迎えるそうです。1989 年に国際的なネットワーク Friends of the Earth と統合し、会員数 40 万人の、ドイツ最大の環境団体です。多くの支持者の力を背景に、エネルギー、廃棄物、自然保護、交通などの分野について十分な知識を持つ専門家が、日々研究・調査を行い、その結果を出版や広報活動を通じて発表し、行政や企業に対して提言をおこなっています。

最近、BUND は、母乳に含まれる化学物質についての調査を発表しました。それによると、DDT、ダイオキシン、PCB による汚染は、使用の禁止が広く行き渡ったために減ったものの、柔軟剤や難燃剤、香料のような、新たな危険物質による汚染は増加の一途を辿り、300 以上もの化学物質が母乳から検出されているとのこと。なかでも、目下使用されている難燃剤と柔軟剤は、発癌性があり、男性の不妊の原因となる恐れのある、とりわけ危険な化学物質とされています。たとえば PBDE (ポリ臭化ジフェニール) は難燃性を与えるために、家電製品、プラスチック、繊維に使用されています。世界中で一年間に消費される PBDE は、70,000 トンで、70 年代から、母乳に含まれる PBDE は、5 年ごとに倍になっていると報告されています。

また、とりわけ PVC (ポリ塩化ビニール) のかたちで使用される柔軟剤は、血液とミルクのなかに濃集され、子供には一般的に大人の 6 倍の負担がかかっているとのこと。

40 年代から 1980 年までの間にヨーロッパの市場に出回るようになった化学物質は 106,000 種類。1981 年になってようやく、当該物質のリスク評価を要求する法律が発効しました。しかし、それ以前に開発された 97% の化学物質については、なんのリスク調査も行われていないと BUND は警告し、予防原則に則った EU の化学物質政策を遂行するように要請しています。秋に、EU 議会は、REACH (欧州化学物質規制) について決定をくだす意向です。

北極圏のシロクマやアザラシの体内からも PCB が検出されていると報道されています。分解されにくい化学物質は、食物連鎖の頂点にある人間に、いずれ集まってきます。REACH の成果が期待されます。

身近な水の一斉調査

小林 寛 治

去る6月5日(日)、全国に広がった「身近な水の一斉調査」を今年も東村山市立東村山第三中学校・自然科学部と共同で行いました。当会は東大和市内から浄水橋までを小倉氏が、ふれあい橋から柳瀬川の合流点までを三中の生徒26名と理科担当の木村先生他1名、当会会員の小林、友保、宮下の三人、合計31名で行ないました。

三中の生徒が、それぞれ測定項目ごとに分かれて測定しました。気温・水温、pH、COD、NH₄-N、NO₂-N、電気伝導度(EC)、透視度の項目を測定し、結果を木村先生に報告し先生がまとめる、という方法で行ないました。上流部の測定は小倉氏が採水し、小林が測定しました。

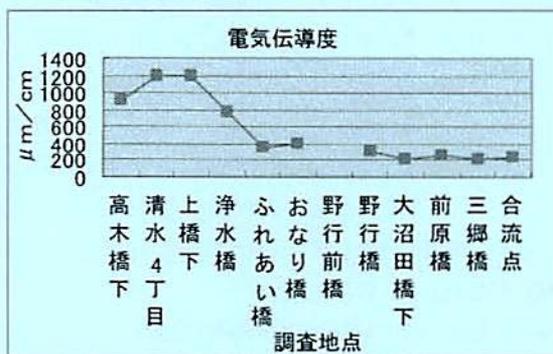
当日は、昨年と同様に暑く、生徒26人のうち1人が草のアレルギーで苦しみましたが、最後まで頑張りました。空堀川は前々日に雨が降ったおかげで、ようやく測定ができたという状態でした。途中、測定不可能な箇所がありました。幸いにも調査ポイントではありませんでした。

この調査では、汚れを表すのにバクテスタ試薬CODを使ってきましたが、実際には難しく、*電気伝導度(EC)を機械で計測した結果を報告します。

*~~電気伝導度[EC]~~は水中に溶け込んでいる無機イオンの総量を表す指標で、例えばカルシウムが溶けてカルシウムイオン、マグネシウムが溶けてマグネシウムイオン等になっています。自然水の中には通常塩分がありません。塩分の混じった生活排水が入ると、塩素がマグネシウムやカルシウムの元素と化合した塩化マグネシウム等の塩化物イオンが水中に出てきます。電気伝導度は、塩分濃度に応じて高くなります。

つまり、生活排水の量を示しています。

普通：雨水 10～30 μ s/cm,
50～100 μ s/cm 河川の上流水,
200～400 μ s/cm 河川の下流水



空堀川の豆知識(7) 都市計画でつくる川

小林 寛 治

空堀川では、都市計画で区域を線引きし、現河道を除いて総ての用地を買収し大きな流量に耐える川づくりが行われています。

都市計画とは、さまざまな都市問題を解決するために都市計画区域を定め、法律をもって問題解決していこうとするものです。都市問題の中には道路や住宅、交通や都市公害のほか、台風や集中豪雨による河川の氾濫、水質汚濁、緑地の喪失、生態系の破壊、不浸透域の拡大等居住性の悪化等があり、それらを解消するために、都市計画法に基づいて空堀川の都市計画が決まりました。空堀川では昭和46年11月5日、前述の区間が決定しました。

本来、都市計画は市町村が計画し都道府県知事が認可して行うものですが、空堀川は、大都市四市にまたがる計画であり、一級河川である国の利害に重大にかかわる河川の都市計画は大臣の認可事項でしょうか。

いずれにしても都市問題を解決するため理想をもって行う空堀川の改修が、水の枯れた、雨水排水路でいいわけはありません。これまでに魚をはじめ多くの生き物が死に絶えました。本来、アメニティの向上を目的に、法律をもって強制的に行われている河川工事が、これでいいわけがありません。今では、いつ終わるかもしれない水無し川、空堀川の工事の地域環境への影響は、限りなく拡大しています。

新河川法では治水・利水の歴史的な過程に環境という柱が加えられ、市民参加の川づくりが久しく叫ばれています。河川環境の確保は単に人間だけの問題ではなく、いろいろな生き物と共生していくことが持続可能な社会をつくっていく根幹だといわれています。

また、空堀川には総合治水区間が定められており、これは降水をできるだけ流域内に確保し、一気に河道に出さない方策です。そのために調整池を設置し、学校・公園・団地などに雨水貯留施設をつくり、透水性の舗装などで降水をゆっくり河川に流すことになっています。どうでしょう、空堀川では全く正反対のことが平気で行われ、行政のリーダーシップはなく、市民の代表も都市計画河川と真っ向から取り組んだ人はなく、巨額な公共事業に関心がないように見えます。

多くの都市では川を街づくりの根幹にしています。国もそれなりの条件がそろえば必要なお金を出しています。「ふるさと川の整備事業」がそれです。都市計画河川がこんな状況では街づくりはできません。

空堀川の草木 ⑯

ヒルガオ (ヒルガオ科)

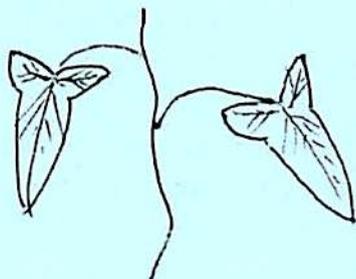
有川 栄子

道端、空き地、河川敷などに普通にみられる多年草です。地中に長い地下茎があり、ところどころから芽を出し、茎はつるになって地表を這い、他のものからみつく。葉は長い葉柄があり、互生する。矛(ほこ)形の葉で、基部は耳形で尖る。6~8月に朝顔形の淡紅色の花をつける。花は、日中に咲き、夕方にしぼむ一日花です。ヒルガオの名前はこれに由来する。

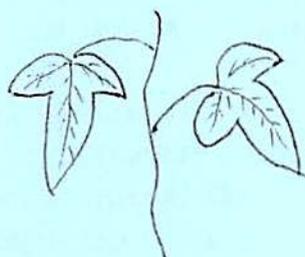
幼い頃、道端のヒルガオの花を摘み取ると、「雨が降るからいけません」と言われたのを思い出します。別に、コヒルガオもあります。

(写真の葉は、左がヒルガオ、右がコヒルガオです)

ヒルガオ



コヒルガオ



第7回 空堀川川まつり

安岡 建 依

5月29日、第一会場となったからぼり広場をはじめとして計3つの会場を舞台に、7回目となる「川まつり」がとり行われました。例年のごとく、当会も、事前の鯉のぼりの準備から当日のテント設営、売店並びにPRコーナー、フリーマーケットへの出店、魚の放流等、積極的に参加しました。天候にも恵まれ、各会場は大勢の人でにぎわい、大成功、ばんばんざい!・・・と、言いたいところなのですが、ところがどっこい、です。この「川まつり」には何か足りない。片方の主役たる「人」のにぎわいは大変結構です。しかし、もう一方の主役であるはずの「川」は? 当会のホームページをご覧になっている方は御存知かと思いますが、メニューのひとつに「栗木橋たより」があります。ここには栗木橋を定点とした水量の観測データがのっています。これは、当会会員がほぼ毎日、目測で観察した記録を過去2年以上に渡ってカレンダー形式で表記しているものです。これを見てみると一目瞭然、年をかさねる毎に「赤枠」、つまり「水量なし」の状態が増えていきます。栗木橋は川まつりの会場よりかなり下流の場所ではあるのですが、そこは同じ「空堀川」。上流がまったく無関係とは言い切れないのではないのでしょうか。現に今回も、会場付近は水量が乏しく、藻が大量に発生し、魚の放流も果たして可能なのか、危ぶまれるものでした。

果たして「川まつり」とは、そもそも何を目的として行われるものなのか? その果たすべき本来の役割とは何なのか? と、こう大上段に構えてしまうと身動きとれなくなってしまうのですが、単純に考えれば、「人と川との関わり」無しには成り立たない、というのが結論であると思います。未だに「空堀の名の通り、昔から水なんて無かった云々」といった意見を耳にすることがあるのですが、ここでの「昔」とはいったい何のことなのでしょう。既に人為的に直線化され周囲をコンクリートで固められてしまった「今」の空堀川にとって、この様な言葉は、ただひたすら空しく感じられます。人と川との関わりがあってこそ「川まつり」と考えるならば、「今」から、人の方から川へ、主役にふさわしい姿になってもらうために働きかける時ではないのでしょうか。現在の空堀川は、自ら姿を変え力を既に奪われてしまっているのですから。

近未来・・・大勢の人々でにぎわう「川まつり」。しかしその川には一滴の水も無い・・・こうなったら、ハ・ハ・ハ。あな、恐ろしや。

石ころから見た空堀川

田中 開

空堀川の源流は武蔵村山市野山北公園の低地の僅かな湧水で、岩間の溪流ではない。東村山市上流の上橋は上流端から約6km、下流の大沼田橋は約12kmになる。河川の勾配は0.5/100と言うから、上流に岩石があれば市内の川にも多少丸い石ころが見られるわけだが、人工河川・空堀川にあるのは、表土が剥されながらでてきた石である。さらに、各所には撤去されないままに放置されたコンクリートの塊と鉄骨の一部が、石ころの流れを遮っている。

ここに石ころから見た空堀川の嘆きがある。深い山の岩間を流れる溪流を源流とする一般の河川で起こることは、空堀川では望むことはできず、譬えを借りて表現すれば、「石に花咲く」である。

石に関しては、数々の表現や諺があるが、「空堀川に清流を取り戻す会」の活動を通して、寸考してみたい。

「石が流れて木の葉が沈む」

これは物事の有様が逆になっていることである。本来蛇行し、ワンドや淵のあるべき川が、河道が直線化されたり、フェンスで囲まれて下に降りにくくなっていることがこれにあたるだろう。

「石に枕(まくら)し、流れに漱(くちすす)ぐ」

山野の景色のよいところで生活することであり、私たちの活動の目指すところはこれである。

「石に漱ぎ、流れに枕す」

これは、無理な理屈をつけてでも自論を曲げない事である。立場を替えてみれば、「できる筈のないことをしようと言っている」ことになる。提案や交渉をしていく上で一考させられる逆説である。

古人は「石屋の転宅はおもいおもい」と言った。人の考えは、「思い」か「重い」で違ってくる。

私たちの環境重視が「重い」にならず、「思い」を貫き、「雨垂れ石を穿つ」ことを念じつつペンを擱く。

空堀川の流量確保について要請

小林 寛 治

7月5日(火)午後4時から、会員の渡部尚市会議員の紹介で、市長応接室において澤田助役と面談し、下記のことを要請しました。出席者は、当会から小林、友保、有川の3名、東村山市から澤田助役、小島都市整備部長、須崎道路交通課長と紹介者の渡部議員の7名でした。最初に渡部議員から紹介のいきさつ、当会の活動を紹介され、会を代表して小林から、当会が最初から活動目的としている清流復活の本旨である流量確保について説明しました。

●要請事項

1. 空堀川の流量確保の一つの方法として、現在進行している多摩湖線橋梁工事にあわせて管理用道路下に貯留施設を設けてほしいこと。

理由：○ここは総合治水区間である。○馬頭橋～第二砂川橋の区間は国が制度化した“子どもの水辺再発見プロジェクト”に則り、「子どもの水辺WAKUWAKU広場」として登録、認定を受けた区間である。また、水辺環境整備などをこれから行なっていくと考えている区間である。○川まつりのメイン会場である。○護岸整備に伴う旧川の基盤整備である。

2. JR武蔵野線構内湧水を柳瀬川からの排水を御成橋から排水するようにJR三鷹工区に申し入れしてほしいこと。理由：この場から下流の水枯れは解消する。
3. 上記1の場所は、将来空堀川を代表する区間になると考えている。子ども達が安心して遊べるように、この維持管理は、東村山市が、東京都から移管してもらい、当NPO法人に委託してくれるよう要請した。
4. 川まつりの区間にある旧川の整備を早急に実施するよう“市民懇談会(仮称)”を立ち上げ、民意を集約してほしい。早く整備し、市民に開放することによって空堀川本川と一体になった街づくりができるようになるだろう。

●行政側の答弁

1. については工事が進行しているので直ぐに申し入れをする。
2. については萩山・御成橋・柳瀬川には出ている。調査して適切に対処する。
3. についても市から要請する。
4. については検討する。

澤田助役は私たちの要請に対して「基本的には理解できる。これから環境抜きに街づくりはできない。」と理解を示されました。

からぼり川グリーンフェスタ（第一回）

友保 邦弘

6月19日（日曜日）、セブニーイレブンみどりの基金の助成を受けて「第一回からぼり川グリーンフェスタ」が行なわれました。美住町の第3 仲よし広場にヒガンバナの球根 600 個を植えるというかなり大掛かりなイベントでした。市報で公募した有志の方々や当会の会員に、浄水場の擁壁補強工事を担当している鹿島・西松JVの社員7名の皆さんも加わり総勢約30名が参加しました。特に細かい打ち合わせをした訳ではないのですが、三本鍬やツルハシで地面を掘り返して球根用の用土を鋤き込むグループ、球根を埋め込むグループ、水遣りのグループ、ロープを張るグループなどに分かれてビックリするほど手際よく快調に作業が進みました。

ヒガンバナは曼珠沙華（まんじゅしゃげ）ともいわれ大昔に稲作が始まった頃に中国から入ってきたと言われています。秋の彼岸頃に花が咲き終わるとやがて葉が出てきて冬を越し翌年の3月頃に枯れてしまいます。そしてまた秋に花を咲かせるのです。花が咲いている時には葉が無く、葉が出てくるときには花は咲き終わっている・・・別名「ハミズハナミズ」とも言われているのはこの為です。

さて、順調に植え付け作業が終わった後で今度は、15本のカナメモチを広場の東側道路沿いに移植しました。この作業も大勢で行なったのでアツという間に終わりました。植え付けた苗木の高さを揃えるために切り取った枝を20本ばかり挿し木をしました。水遣りを終えてすべての作業



が予想以上に順調に終了し、記念撮影のあと集会所で昼食。一汗かいた後の飲み物で喉を潤し大満足のイベントは終了しました。

二週間ほど経ってから広場をのぞいてみてビックリしました。挿し木したカナメモチがほとんど根付いており新しい葉っぱまで出ているのです。気温も暑過ぎず雨も適当に降ったおかげでしょう。来年の春には新しく出来たこの苗木を植え替えて生垣に仕立てることが出来ます。今年の秋には第二回、第三回のからぼり川グリーンフェスタを予定しております。ふれあい広苑の管理用道路にツツジの苗木を1000本ぐらい植えるビッグイベントです。近づきましたら市報などでご案内致しますので大勢の市民の皆様のご参加を期待しております。

ご協力いただいた皆様、有難うございました。

のぞいてみようからぼり川

土曜子ども講座が始まりました

環境学習支援のひとつとして行なっている「土曜子ども講座」が今年も始まりました。「土曜子ども講座実行委員会」が主催するこの講座には、当会は発足当初から積極的に関わってきました。4年目を迎えた今回は、男子1名、女子10名と言う、これまでにない受講者の構成です。また、これまでにないと言えば、今年は毎回、多数の父兄が参加されていることがあげられます。講座内容を実際に見ただけのことに加え、子どもたちの安全確保の面で大いに助けられています。また、子どもも大人も一緒になって大勢で自然とふれあうことで、楽しさが一層増しています。

7月末現在で、全7回の予定講座のうちすでに5回が終了しました。8月の夏休みのあと、9月にあと2回の講座を予定しています。皆さまの参加をお待ちしています。



第3回柳瀬川

水が豊でうらやましー、です。



第4回落合川

うーん、やっぱり水が…で、うらやましー

回数	月・日	テーマ	場所	備考
1	5月28日	空堀川へいってみよう	浄水橋付近	終了
2	6月4日	ヤゴ救出作戦	南台小プール	終了
3	6月25日	空堀川の終点までいってみよう	柳瀬川	終了
4	7月2日	落合川にいってみよう	落合川	終了
5	7月16日	空堀川の源流にいってみよう	野山北公園	終了
6	9月17日	水のふしぎをしらべてみよう	ポリテクカレッジ	小平市
7	9月24日	空堀川の生き物をさがしてみよう	浄水橋付近	

(もちろんですが、全て土曜日です!)

◆これまでの経過◆

(2005/6/1 ~7/21)

◎6月5日(日) 身近な水の一斉調査。東村山市立第三中学校木村先生、写真部の先生、自然科学部部活の生徒。小林・友保・宮下。

◎6月10日(金)「川まつり」反省会。小林・宮下・友保参加。

◎6月11日(土) 定例会：出席10名。中央公民館。

◎6月19日(日) セブン-イレブンみどりの基金助成による第1回「からぼり川グリーンフェスタ」実施。第三仲良し広場にヒガンバナの球根600個を植える。鹿島・西松共同企業体東村山浄水場JV工事事務所から7名の作業協力を受ける。

◎7月2日(土) 「土曜子ども講座」を落合川で行う。東久留米・ホテルを守る会の支援を受ける。

◎7月5日(火) 渡部市議の紹介で東村山市助役面談。小林・有川・友保出席。水量確保他について要望書提出。

◎7月6日(水) アミューにて九州大学島谷先生の講演会。清瀬市主催。「川づくり清瀬の会」からの招請で当会から4名参加。

◎7月9日(土) 定例会：出席10名。中央公民館。

◎7月16日(土) 「土曜子ども講座」空堀川の源流に行ってみよう。

◎7月16日(土) 東村山市「一般廃棄物処理基本計画」の見直しと「秋水園再生計画」説明会に会を代表して小林出席。

◎7月19日(火) 東村山市社会福祉協議会第一回ボランティア活動推進委員会。会を代表して小林出席。

◎7月21日(木) 第一回理事会。総会の決定事項に基づく執行体制各理事の担当分野を決める。

8月の定例会はお休みします。替わりのイベントを考えています。決まりましたらご連絡いたします。

インフォメーション

◆新河岸川フォーラム開催のお知らせ

8月27日(土) 13:50, 新河岸川フォーラムが早稲田大学所沢キャンパス115教室で行われます。テーマは「新河岸川から狭山丘陵を考えてみよう～」です。

基調講演は早稲田大学自然環境調査室大堀聰氏、パネラーに恵小百合氏、正田浩司氏、相馬和彦氏、当会から小林が出席します。司会は永石文明氏です。午前中はA、Bの2組に別れて湿地見学です。

◆アルカリイオン水

飲み水が安心できない、おいしくない、さらに、湯水対策にと、市販の飲料水を買う人が増えています。普通、水道水のpH7前後の中性ですが、不思議なことに煮沸するとpH9.5前後のアルカリに変わります。市販のアルカリイオン水と同じです。ボトルウォーターは原水を煮沸した水ですが、原水は水道水でも良いことになっています。

◆注射器の不法投棄のその後

7月16日(土)2時から、秋水園ふれあいセンターに於いて「一般廃棄物処理基本計画」のみなおし、「秋水園整備計画準備報告書」の説明が行われました。当会から小林が出席しました。

前号で、「注射器が河川敷に捨てられている。環境部ごみ減量推進課指導係では、『医師会・薬剤師会と協定し、売ったところで責任を持って回収している。当市では自然環境の中に捨てられるはずがない』と言っている」と書きました。ところが、「燃えないごみ」に混ざって捨てられているのが現状です。環境部副部長によると、「透析用の注射器が混ざっている、どのメーカーかわかっている二社のものだけだ。燃えるごみに入れて出すように指導している」とのことでした。

果たして、透析用の注射器でしょうか？

空堀川に捨てられた注射器の写真を添付します。



◆ハザードマップ

東京都建設局は、時間雨量50mmを越える大雨が降った場合、空堀川を含む都内10河川の浸水予想図を作成、公表しました。これに基づいて流域の市は防災課が主体となってハザードマップを作るそうです。浸水地域については、都建設局ホームページをご覧ください。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/suigai/taisaku/index/menu02.htm>

◆新入会員紹介

堀口 剛氏 (東大和市)
垂水 荘司氏 (東村山市)
よろしくお願いたします。

◆下の方々から物品を含めたご寄付を頂戴しました。ありがとうございました。

神山征二郎氏、森永乳業株式会社、嘉手川喜美子氏、今泉稔子氏、小佐信行氏、有川栄子氏。

会員募集

「空堀川に清流を取り戻す会」の活動に参加・支援して下さる方をお待ちしています。会員制です。お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市美住町 1-13-14 小林 まで

TEL/FAX : 042-391-4003

会費振込先

郵便振替 口座名 : がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

がたろう通信

第45号

2005年10月15日発行

からぼり川

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



ふれあい橋（東村山市）から上流を望む
(H.17.5.4に撮影)



丸山橋（東村山市）から下流を望む
(H.17.9.7に撮影)

空堀川の渇水と増水

空堀川のかかえる大きな問題として、水量があります。日常の水量は極端に乏しく、左手の写真の様に水が完全に枯れてしまうこともあります。この状態は近年、年を重ねる毎に増えているのが実情です。しかし、いったん雨が降ると短時間に急激に水位があがります。右手の写真は先の台風14号時（9月7日）に撮影したものです。台風14号は善福寺川・妙正寺川流域で大きな被害をもたらしました。渇水と増水は都市河川がかかえている共通の問題です。これを解決して行きたい、というのが当会の活動の柱の一つです。（本文10ページに関連記事があります）

砂漠の町

正路 妙子

ベッドわきのスタンドのスイッチを切ろうとして手を触れたとたん、弾き飛ばされたような痛みが走る。階段を降りようとして、踊り場に置かれた鉢植えの植物に髪が触れるか触れないかのうちに、パチパチと音がして、髪が立ってしまう。

氷河の残した湖が点在し豊かな森に覆われたカナダ東部から、飛行機を乗り継いで降り立った街、アメリカ合衆国ネヴァダ州リノでの体験は印象深いものでした。海拔 1,500 メートルの乾燥地帯にある街の朝の気温は 10℃。日中は 30℃をこえるものの、日陰に入ると涼しくて、住民の言葉通り、「とても過ごしやすい」。ご自宅に招待して下さった旧知の地質学者 H 先生が、車で連れて行って下さったのは、ピラミッドレイクとヴァージニアシティでした。ピラミッドレイクには、流入する川はあっても、流出するものは無く、乾燥しているために水分は蒸発していき、塩分濃度がかかなり高くなっています。ヴァージニアシティは、鉱山の町としての役割を終えたあと、観光地として甦った町です。道すがら眺められる風景は、和名ヤマヨモギとされる Sagebrush がへばりつくように生えている赤茶色の丘陵、あるいは乾燥に強い樹木であるマツとネズの生えた山並みでした。

リノの郊外に、新しい住宅団地が広がっていきます。道路側から長い塀で区切られている点は、カナダの住宅団地の建て方と共通しています。違うのは、樹木が一本もないこと。やがて住民が生活し始めると、木や芝生を植えて、地下水で灌漑し、緑地が広がっていきます。砂漠を緑化して、人間の居住空間にするという、明るい未来が開けそうに思われます。しかし、これは、やはり、自然の生態系を破壊して人工の生活空間をつくるということであり、生態系が本来備えているバランスを壊すことにつながります。灌漑用の水に含まれている塩類が、水分の蒸発の激しいところでは、急速に土壤に蓄積して、やがては不毛の大地が広がることになります。メソポタミアでも、インダス河流域でも起ったように....

「人間は遠い未来のことを考えることができないのですよ」と H 先生はおっしゃいます。地質学的な年代を視野に入れて事物を見つめることが習慣となっている人の静かな言葉は、諦念に満ちていました。

都の水環境行政に一言

小林 寛 治

私たちが住んでいる地域には、安全にまた安心して暮らすことが出来るように、大気の大気汚染・水質の汚濁・土壌の汚染及び騒音に関わる環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準が定められています（環境基本法第16条1項）。河川の場合には、道しるべとなる水質基準が各河川ごとに定められています。空堀川についても、カドミウムや水銀などの有毒な化学物質が流れていないこと（健康の保護に関する規定）、pH、BOD、浮遊物質等の汚染を規制する健康項目等が昭和45年に定められました。空堀川は都内の中小河川中で一番汚いクラスのE類型に指定されて現在に至っています（類型は水質によってAA、A、B、C、D、Eの6段階あります）。

公共下水道、流域下水道（荒川右岸東京流域下水道・清瀬再生センター、昭和56年11月運用開始）が整備されるに伴い、空堀川の水量は減少しましたが、水質は向上しました。しかし、都営本町住宅2000戸の建替え期間中の汚水の垂れ流しを始め、上堀橋の弁当屋の雑排水、野行橋の野菜加工所の泥と野菜カスの違法排水等、多数の未接続の問題があり、私たちはそれぞれを指摘し、都多摩環境事務所に現場調査を要請し、東村山市には、退職者の再雇用により労力を補充し、接続促進活動を行なうようにと提言してきました。

環境基本法の制定以来、35年が過ぎました。最近になって漸く水質も良くなりましたので、E類型の環境基準を、実態に則して引き上げるよう多摩環境事務所をはじめ東村山市環境部、柳瀬川・空堀川流域連絡会の場で要請してきました。都多摩環境事務所は、流域の市から申請され、漸く重い腰を上げました。けれども、今度は都環境局が、柳瀬川に流入する東川（あずまがわ）が汚いので類型指定を上位に上げられないと言っています。私たちは空堀川の水質を実態に即したものにして欲しいと言っているのです。都もC類型の水質であることを認めています。東川は埼玉県の川であり、技術的にも所沢污水处理場を改善しなければ解決しない問題です。空堀川と柳瀬川は別々の川なのです。これをセットにして類型指定を考える根拠は何処にもない筈です。環境基準は行政上の改善目標であって、C類型へ引き上げなくても何の罰則もありません。放っておいても“環境基準は達成している”と言った方が行政は楽なのです。一体、環境基準は何のために定められているのでしょうか？

(4)

空堀川の水質と水量確保について

渡 邊 勇

都内の中小河川は、大雨が降ると氾濫し、雨が降らないと川に水がなくなる状況（水無し川）になります。特に空堀川は、その代表的な河川の一つと言えます。このような現状を改善するために、空堀川の河川水、地下水、湧水を調査し、更に水質を測定して空堀川の清流復活を検討することとしました。

空堀川の調査地点は、中橋（東村山浄水場 100m 上流）と梅坂橋（清瀬市）、地下水・湧水は、御成橋下から空堀川に放流されている地下水、三郷橋上流の湧水、新秋津駅構内から柳瀬川に放流されている地下水です。

水質の分析結果を表 1 に示します。中橋上流の水質は、電気伝導度、COD、 Na^+ 、 Cl^- 、 SO_4^{2-} 濃度がかなり高く、生活排水が混入しているものと考えられます。中橋よりかなり下流の梅坂橋は、中橋における水質成分の約 1/2 の濃度を示しております。つまり、中橋よりかなりきれいになっております。これは、途中から水量が増加して希釈されるためと思われます。新秋津駅の地下水は、電気伝導、COD、その他のイオン濃度から見て大変きれいな水と言えます。しかし御成橋下から放流されている地下水は、新秋津駅地下水、梅坂橋下流湧水より電気伝導度が高く、 Na^+ 、 Cl^- 、 SO_4^{2-} の無機イオンも比較的多く、新秋津駅の地下水とは異なる水脈ではないかと考えられます。梅坂橋下流の湧水は、量的にあまり多くはないが浅い地表を浸透してきた水と思われます。新秋津駅の地下水と同様にきれいな水であると判定できます。

なんと言っても空堀川の清流復活には、水量を増やすことが最重要課題です。そのためには新秋津駅の地下水（一日 22,000~27,000 m^3 ）が大変魅力的で、現在、柳瀬川に放流されている地下水を空堀川に放流できないか、あらゆる角度から検討する必要があります。また、その他に空堀川の水量を増加させる地下水がないか調査検討することも必要です。

表 1 水質分析結果

	採水日	pH	※ 1	COD	Na^+	Cl^-	NO_3^-	SO_4^{2-}
中 橋	9/1	9.5	826	15	74.6	30.0	12.0	143.8
御成橋地下水	8/31	7.3	406	2	20.6	23.4	25.0	66.6
三 郷 橋	8/31	7.8	406	7	24.9	19.6	14.1	63.3
梅坂橋下流湧水	8/31	6.5	242	3	7.2	13.6	30.3	27.4
新秋津駅地下水	9/12	7.0	245	2	6.0	11.7	33.4	35.6

※ 1 : 電気伝導度 (単位 $\mu\text{S/cm}$)、COD、 Na^+ 、 Cl^- 、 NO_3^- 、 SO_4^{2-} の単位 : mg/L

空堀川の草木 ⑱ ヒガンバナ(マンジュシヤゲ) ヒガンバナ科

有川 栄子

堤防、畦畔、荒地、墓地などに多く見られる多年生の植物。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒い。9月の秋の彼岸頃に、葉もない30cm内外の花茎がニューッと1本出て、先に数個の赤い花をかんざし状につけ、花が終ると線形をした葉がたくさん出る。地下の鱗茎には有毒成分が含まれる。

古くは中国から渡来し、人里近くに群生したものと思われます。風にゆれる細い花びらと長く伸びた雄しべ・雌しべの赤はまことに愛らしく多くの人に好まれたのでしょう。ちなみに、この花には「幽霊花」、「しびれ花」など100以上の別名や方言の呼び名があると言われています。北原白秋の「曼珠紗華」の詩が思い出されます。日高市高麗巾着田のヒガンバナの群落が有名ですが、当会では、からぼり広場近くの第三仲よし広場に600球を植え込みましたので、秋の彼岸の頃には真っ赤な花を見ることができるようでしょう。ヒガンバナの名は、彼岸の頃に咲くから。曼珠紗華は「赤い花」の意という。



6月19日に第3仲よし広場に植えた600個の球根のうち開花したものの一部です。

生き物から見た「子どもの水辺 WAKUWAKU 広場」の水質

9月17日、美住リサイクルショップ・子どもエコ発見隊の小学4年生たちと、東村山浄水橋前の「子どもの水辺 WAKUWAKU 広場」で生物調査を兼ねた魚取りをして楽しみました。

数年前から、空堀川下流域、特に三郷橋から柳瀬川の合流点までは、素晴らしい水質であることが分かっていましたが、この度の調査で東村山浄水場前の水質も改善していることが指標生物（トビケラ類・カゲロウ類・スジエビ）によって証明されました。

環境省が全国統一書式で行っている調査票で判定した結果、この場所の水質階級はⅡの「少し汚れた水」であることが分かりました。

水質階級には、Ⅰ. きれいな水 Ⅱ. 少しよごれた水 Ⅲ. きたない水 Ⅳ. 大変きたない水の四階級があり、それぞれ、最も多く生息している生き物によって水質を判定する方法です。



水の音 石の声

田中 開

「古池や 蛙飛びこむ 水の音」：これは誰でも知っている俳句であり、水に棲む蛙は常々鳴くものであるが、松尾芭蕉は鳴き声ではなく跳んで水に入る時の水の音を表現した。凡人の私は、空堀川の水の音や石の音が、何か別の音の発見につながるか探してみたい。

空堀川は、野山北公園カタクリの里の奥地に源流があり、そのすぐ下の学校水田を潤し、ついで溜まった池から流れる水はコンクリートの水路にチョロチョロと注いでいる。上流端から三面張りの東大和までは、コンクリートの上を流れ、生活排水と産業排水が主体である。当会の水質検査ではこの水の温度はほぼ 20℃だと言うから、年中「生ぬるいぞ」という声が聞こえそうだ。

調査によれば、浄水橋近辺の水量は毎秒僅か 40 リットルであるが、川底が少し傾斜しているところでは、サラサラと清らかな音で流れている。

「三尺下れば水清し」という言葉がある。上堀橋と久米川橋の右岸からは、給食場や食堂街からの汚水が絶え間ない。流量と砂地の少ない現地では三尺は無理としても、三間先は一見澄んだ水のように見える。これは水の自浄作用であるが、川底はどうであろうか。石は茶色になり、ザラザラしている。一方、藻の繁殖も手伝ってヌルヌルした石もあり、石裏からサカマキガイやユスリカの声もしそうだ。

改修前の久米川橋は急カーブで落差も大きかったので、大雨の時はいつも洪水をきたした。今、橋上に立つ古老は「ここは洪水回顧の場所だ」と言う。流域には数々の供養塔があるが、犠牲になった故人たちの念仏が耳に残ると言う。

流域の草刈は、当会の要望が通って、水際の洗掘防止と生息生物保護のため、水際から 0.5~1 メートル刈り残すことが定着し、随所に魚や鳥の営巣が見られ、カルガモの飛び立つときのグエツグエツと鳴く声が聞かれる。スマートなコサギは立って魚を狙っているが、こちらの声はほとんど聞かれない。

「水無し川」の危機は平成 11 年 10 月に実現し、この断水で大量の魚が干上がった。以後濁水期でなくても、日照りが続くと水無し現象が起き、水生生物の雨乞いの合唱が響いてきそう。川祭りも 7 回を迎え、からぼり広場の鯉のぼりの下、魚の放流と魚とりにはしゃぐ子どもたちの大きな声と水しぶきの音は特筆したい。

とき恰も秋。詩をよくする禅師は「秋深く 石がささやく 石の声」と詠むが、空堀川に清流が戻り、石と語る憩いの場を夢みる。

からぼり川グリーンフェスタ（植樹祭）のご案内

（セブン・イレブンみどりの基金）

友保 邦弘

来る 10 月 23 日（第四日曜日）二回目の植樹祭が行われます。これはセブン・イレブンみどりの基金が環境市民ボランティア活動に対して助成しているイベントです。企画の中身が基金の趣旨に合致しているという事でこのイベントが助成の対象に選ばれました。内容は次の通りですので市民の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

実施日時：平成17年10月23日（第四日曜日）

10:00～15:00（小雨決行）

集合場所：東村山市本町4丁目14番（ふれあい広苑 緩傾斜広場）

内 容：ふれあい広苑の遊歩道にオオムラサキツツジの苗を340本植える

植栽する樹種をオオムラサキツツジに決めた主な理由は：

- ♥ 常緑樹で花がきれい
- ♥ 花が長く楽しめる（3～5月）
- ♥ 活着がよくて丈夫である
- ♥ 病害虫や乾燥に比較的強い
- ♥ 樹形が乱れないので手入れが容易
- ♥ 価格が手頃



遊歩道の植え込み樹木は非常に厳しい環境に置かれています。日当たり、風当たりが強烈で夏は乾燥が激しく冬は冷害を受けやすい。また植えた直後は雑草がはびこり水分を奪われて枯れ死するケースが多い。そのため当会では植え方に独特の工夫をしています。公園の草刈や樹木の剪定で出た草や枝葉を堆肥にしておいてそれを樹木の株元にピッシリと敷き詰めるのです。その効果は：

- ♥ 夏の直射日光や冬の寒風から根を護る
- ♥ 大雨で表土が流出するのを防ぐ
- ♥ 雑草が生えにくいので乾燥による枯れ死が少なくなる
- ♥ 有機肥料になるので施肥の手間や費用がかからない
- ♥ 草や枝葉の焼却処分せず有効利用するので環境にやさしく焼却費も削減できる

このように植栽の方法ひとつを取ってみても色々としり錯誤、創意工夫をおこなっておりますので結構楽しく勉強になります。なにはともあれ体を使って気持ちの良い汗をかくのは爽快です。

このイベントに多くの市民の皆様が参加して頂けるのを期待しております。

問い合わせ先：イベント実行委員 友保邦弘

電話/FAX 042-394-9978

「NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会」の 平成 17 年度役員と職務分担について

今年度より定款 13 条 3 項の規定に従い顧問を置くこととし、以下のように決まりましたのでご報告いたします。

顧問	正路 徹也	東京大学名誉教授（地球情報学）
顧問	小堀 洋美	武蔵工業大学環境情報学科教授（保全生物学）
理事長	小林 寛治	会の運営（理事会）と会の活動全体の責任を負う
副理事長	渡部 勇	理事長を補佐し、事故ある場合理事長職を代行する 河川環境調査（水質分析）
理事	有川 栄子	会員の管理、会報の発送、定例会の執行
理事	宮下 博文	イベント担当（イベントの企画と執行）
理事	友保 邦弘	委託業務担当、土曜子ども講座の補佐
理事	安岡 建依	会計・広報担当
理事	実川 圭子	環境学習担当
監事	正路 妙子	理事の業務執行状況及び法人の財産の監査
監事	小倉 安洋	理事の業務執行状況及び法人の財産の監査

空堀川・雨量と水位の観測データ

北 出 篤

下の表は2005年8月8日の午後に短時間に強く雨が降った時の水位の変動です。中流部の丸山橋では10分間で73cmも水位があがっています。この急上昇はとても危険です。すぐに河原からあがらなければなりません。

2005.8.8 空堀川 雨量は10分間あたりmm、水位 cm

時刻	東村山丸山橋			清瀬市中里橋		
	雨量	水位	水位 上昇	雨量	水位	水位 上昇
13:00	0	7		0	23	
13:10	2	10	3	1	24	1
13:20	7	16	6	11	25	1
13:30	<u>14</u>	41	25	<u>20</u>	32	7
13:40	2	<u>114</u>	<u>73</u>	11	58	<u>26</u>
13:50	0	111	-3	0	64	6
14:00	0	97	-14	0	75	11
14:10	0	85	-12	0	76	1
14:20	0	80	-5	0	78	2
14:30	0	74	-6	0	<u>81</u>	3
14:40	0	65	-9	0	<u>81</u>	0
14:50	0	57	-8	0	77	-4
15:00	0	49	-8	0	72	-5

(東京都建設局河川部水防災総合情報システムのリアルタイムデータから)

*この記事は当会ホームページの「問題点」から抜粋・転記したものです。

◆これまでの経過◆

(2005/7/22~10/10)

◎8月16(火)・17日(水) 下堀・ふれあい
広苑の除草作業。

◎8月19日(金) コカ・コーラ環境教育
賞授賞式に参加。参加者：実川。

◎8月27日(土) 新河岸川流域フォーラ
ムに出席。参加者：小林(パネリストとし
て)、小倉、安岡。

◎9月10日(土) 定例会。定例会後、御成
り橋脇およびJR 武蔵野線敷地内の地下水
流出状況を見学。参加者：小林、渡辺、有
川、宮下、友保、垂水、正路。

◎9月17日(土) 美住リサイクルショップ
運営委員からの要請で、「子どもの水辺
WAKUWAKU 広場」にて、「子どもエコ
発見隊」と空堀川の水生生物調査と魚採
り。参加者：運営委員2名、環境部ゴミ
減量推進課2名、当会から小林、宮下、
堀口。

◎9月17日(土) 土曜子ども講座第6回
「水のふしぎをしらべてみよう」ポリテ
クカレッジ(小平市)

◎9月20日(火) 2年前から物置を置か
せて貰っている、コンベンツアル・聖フ
ランシスコ修道会・まりあ幼稚園の草取
りを行なう。参加者：小林、有川、宮下。

◎10月8日(土)

定例会。定例会後、23日のグリーンフェ
スタに向けた事前準備(植栽場所の起耕)
を行なう。参加者：小林、宮下、友保、
小倉、安岡。

◎10月11日(火)~14日(金)

下堀・ふれあい広苑の除草および植え込
みの手入れ。
土地開発公社保有地の除草作業。

インフォメーション

◆河川環境展 2005 の案内

11月29日(火)~12月2日(金)まで、
日本コンベンションセンター幕張メッセ・第
4ホールで「河川環境展 2005」が開かれま
す。時間は10:00~17:00。川の何でも相談
コーナー、川の掲示板、環境教育ミュージア
ムなどのブースがあります。また同時に開催
されるシンポジウムでは、おなじみの九州大
学の島谷先生の講演「自然を活かした川づく
りの課題と展望」等があります。

招待券が3枚あります。行かれる方は声を
かけてください。

秋のクリーンアップのお知らせ

第17回空堀川クリーンアップを以下の要領で行います。皆さんの参加をお待ちしています。

日時：11月20日(日) 10:00～12:00

(小雨決行)

集合場所：天王森橋、下堀橋

◆以下の方々からご寄付をいただきました。
ありがとうございました。

有川 栄子氏

平田 和彦氏

◆びわ湖環境ビジネスメッセ 2005 の案内

びわ湖畔の長浜ドームで、10月19日(水)、20日(木)、21日(金)の3日間、表記のメッセが開かれます。環境産業見本市です。ここには日本企業 204、海外から 20 団体が参加します。会場へはJR 米原駅から無料のシャトルバスが運行しています。詳しいことは以下のホームページへ。

<http://www.pref.shiga.jp/eventnt/messe/>

◆ゴミの不法投棄を減らすために

本町都営住宅跡地の桜並木に、多種多様なゴミが大量に不法投棄され、回収が行なわれると、またすぐ新たに不法投棄されるといういたちごっこが繰り返されています。

10月1日から、粗大ゴミの収集法が変わり、秋水園に連絡した上で、市内の取扱店で「粗大ゴミシール」を購入し、収集日・名前を記入して、品物ひとつひとつに貼付することになりました。以前より手間が掛かるようになった分、それを面倒がる人が増えることが懸念されます。

前もって処理料金を上乗せして販売しているのではない限り、収集方法は単純で分かりやすいほうが、不法投棄を抑制できるのではないのでしょうか？

会員募集

「NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会」は、多様な生物が息づくことのできる環境が人間にとっても望ましいものと考え、空堀川にたくさんの水生生物や水鳥が棲めるようになることを願って活動しています。

私たちの活動を支援し、参加してくださる方をお待ちしています。

◎会費は次の通りです。

個人会員 (賛助会員とも)

年会費 2,000円

法人・団体会員 (賛助会員とも)

年会費 10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名：がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市美住町 1-13-14 小林 まで

TEL/FAX：042-391-4003

がたろう通信

からぼり川

第46号

2006年1月20日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



第3回グリーンフェスタ(H.17.11.27.)

植樹祭が無事に終了しました。

「セブン・イレブンみどりの基金」の助成を受け、3回にわたって行なわれた「空堀川グリーンフェスタ」が無事終了しました。

最終回はオオムラサキツツジとドウダンツツジの苗、計340本を空堀川沿いの遊歩道(ふれあい広苑)に植栽しました。植樹活動は当会の重要な柱ですので、今後も「内野吉之助みどりの基金」をもとに、豊かな緑を空堀川のほとりに増やしていきたいと思ひます。

今大切なことは

正路 妙子

昨年は、アルプスや東ヨーロッパの大洪水、南ヨーロッパの熱波と旱魃、アメリカ南東部のハリケーンなど、激しい気象現象を伝える報道が世界中からもたらされました。今年になっても、日本を含む世界各地での記録的な豪雪、北米カリフォルニアでの大雨による大洪水、ロッキー山脈東側のテキサスでの旱魃と大火災、オーストラリア・ニューサウスウェールズでの 44 度を越える気温と森林火災など、人間生活に大きな被害をもたらす現象が続いています。北極圏では、氷が解けて、イヌイットやヤクートなどの狩猟民族の生活基盤が脅かされています。これらすべては、地球の温暖化のせいであると主張する人も少なくありません。

わが国では 10 数年前の 1993 年、環境基本法が成立しました。それは、エネルギーの多量消費、農薬・除草剤の使用、住宅や道路建設による大地の被覆など、人間の営みによって環境が変化し、人類の生存が危うくなっているという認識が広まった結果です。つまり、私たちが従来どおりの生活を続けたのでは、地球環境が人間の居住に適さなくなってしまうという危機感に後押しされて、環境基本法は成立しました。

ところで、身近な市内に視点を移すと、40 年以上前、つまり環境基本法成立以前に立案された計画を根拠に、僅かに残る雑木林のなかを貫く道路の建設問題が進行中です。また、自然の地形が遊水地としての利用に適しているところを埋め立てて、夜間でも街路灯に明々と照らされた人工的な公園を造ることが行なわれています。

自分たちのしていることと、人類の存続のために望ましいこととの間の整合性を、私たちはいったいどのようにして採るつもりなのでしょう？人間にとっての快適さの追求は、環境の変化を引き起こすだけではなく、子供たちの中に、由々しい結果を引き起している可能性があります。幼いときから、さまざまな生物たちとの付き合いを経てこなかった子供は、生命がどんなに傷つき易く、いとおいしいものであるかを知ることなく、ひ弱さと粗暴さを同時に身につけていくのではないのでしょうか？

「自然を壊し、人工的なもので置き換えると、精神的な成長が阻害される」というレイチェル・カーソンの言葉は、何が大切なものであるかを教えてくれる、私たちへの貴重な贈物といえるでしょう。

この「がたろう通信」は、隔月に発行しています。東村山中央公民館、

第8回川づくり見学会に参加して

宮下博文

この見学会は荒川下流河川事務所が企画したもので、「新河岸川流域川づくり連絡会」および河川に関わる活動を行っている各団体が、黒目川、落合川の河川環境と治水状況、実施されている諸施策や市民による川づくり活動を見学し、他の支川の川づくりの参考とすることを目的として、10月29日(土)に開催された。

東村山駅からマイクロバスで出発。第一見学地「サイカチ窪」は、都営小平公園内の雑木林に囲まれた窪地で、地表面から45°程の法勾配で河床面につながり、河床幅は1m程度。法面は粘土質を多く含む土と小石で形成されていて、雑草は背の高い草が少ない。

次に、徒歩で長福寺のある柳窪保存樹林で湧き水を見学。湧き水は小石を押し上げては流れ出て、小石は元の位置に戻る、こんな作業を繰り返して清流は下流へと流れていく。雨が少ないと、この湧き水も枯れてしまうといわれる。

柳窪天神社に行くと、武蔵野の樹林で陽光は遮られていたが、黒目川の清流は静かに流れていた。ここから、南沢に移動して、落合川付近に到着。この辺りは竹林公園、南沢緑地とともに「東京の名湧水57選」(平成15年発行、東京都環境局)に選ばれた、湧き水の豊かなところである。南沢3丁目では、河川計画線を直線にする計画であったが、氷川神社の北斜面林を保全するために、河川計画線を湾曲にした。この付近の河床は水草が密集し、水草の間を水が流れていると言っても過言ではない。水草にとっては、豊かな湧き水・陽光・小石の径と小石の層厚が好条件をなしているに違いない。

南沢3丁目から下流(東久留米市本町4丁目)にかけて「憩いの広場(水辺)」が整備中である。その面積は3600㎡、南沢3丁目の広場の面積を加えたらかなりの面積となる。

落合川をあとにして、黒目川の妙音沢に移動。大小ふたつの湧水が見られる。湧水量は季節により変動があるが、枯れることなく今日に至っている。江戸時代、妙音沢の湧水は滝となって流れ落ち、滝に打たれに来る人のために茶屋ができたほどの賑わいであったという。バスのなかから見えた市場板橋は、新座市のシンボルのひとつで、「鶴が未来に向かってはばたく」姿をイメージしたものである由。

新高橋・岡橋間では、東武東上線高架下を境として、上流は市民の提案を活かした川づくり、下流は行政主導の川づくりが行なわれている。泉橋・黒目橋間の管理用道路の拡幅については、桜の木の伐採、植え替えをめぐる問題があるという。最後に朝霞調整地を見学し、「朝霞市わくわくドーム」で、交流会が持たれた。そのなかで、市民団体と、専門家のいる行政側が一体となってプロジェクトをまとめることの利点についても話し合われた。

「鳥の目と虫の目」

小 倉 安 洋

去る11月11日、「経営学の父」と呼ばれたP.F.ドラッカーが現役の95歳で死去した。彼と親交のあったセブン&アイ・ホールディングス伊藤雅俊名誉会長の、「ドラッカー氏は市場を見る“虫の目”と“歴史の目”，世界を鳥瞰する“鳥の目”を持っておられた」との談話が、ある新聞の夕刊に載っていた。ソ連の崩壊を予言し、ITバブルや昨今マスコミを賑わしているM&Aの問題点、NPOの重要性なども、ドラッカーは20年前から指摘していたという。

ドラッカーの鋭さにはとても及びもつかないが、一般的にも「鳥の目」や「虫の目」の重要性はよく指摘される。私も日頃の行動やものの見方では、できるだけこの2つの目を持つように心がけている。最近では、社会や組織とうまくつきあうためのもう1つの目として“自分を客観視する目”も必要ではないかと考えるようになった。今回の夕刊では、これらに加えて“歴史の目”（現象を歴史という時間軸で、かつ長いスパンで捉えるということと解釈）の重要性をあらたに認識した。河川を含めた環境問題を考える時も、これらの“目”を使って、一時的な感情や思いつき、経済性だけに左右されないしっかりとした判断力を養いたい。

現在行われている空堀川の整備改修工事をみると、目先の経済性に目を奪われ“水循環”や“総合治水”というすばらしい概念が活かされていないという思いを強くする。基本計画や総合計画などに示された内容は、総花的とも言えるほどに様々なキーワードをちりばめ、いかにもごもつとも思えるものが多いが、いざ具体化となると、とたんにトーンダウンしてしまう。改修工事の問題点として、治水優先の直線化、弱者に危険な親水護岸、見せ掛けの自然調和型護岸、雨水貯留浸透に対する消極性、公園型調整池の不足、景観への無配慮などがあげられる。また、河川工事の本質論と具体論が、もっとデータを使って語られてしかるべきであろう。その上で空堀川のあるべき姿と現状との差を明らかにして対策を講じていってはどうだろうか。

空堀川の草木 ⑱

ギシギシ

タデ科

有川 栄子

道端、牧草地、土手、畦畔、畑のまわりなどに生育する多年生の植物です。地下に黄色い、太い根があり、秋に芽を出して根生葉を広げて越冬します。空堀川の川岸には、草を刈ったあとにたくさんのギシギシが芽を出し、12月初旬には大きく葉を広げています。

葉は長楕円形で先が尖り、基部は心臟形で、縁は波状に縮む。茎は直立し、高さは60cm～100cmくらいになり、5月～7月に茎先の節々に多数の花が輪生し、緑色の円錐状の穂となる。果実には3稜がある。

ギシギシはもと京都の方言であったと言われていています。（「牧野植物図鑑」より）



開花期

花は密につき、黄緑色



生育中期

根出葉は大きく、縁は波うつ

空堀川を通して

垂水 荘 司

昭和 52 年に東村山に越してきてから約 30 年、私は空堀川を健康の維持をはかる場としています。当時の空堀川は小さな川、というよりはむしろ下水路で、小さな丸太の橋を自転車で渡り、不自由しながら通勤路にしていました。やがて、改修工事が始まり、河川改修ののちに遊歩道が整備されました。野鳥が群れ、魚が水面に波形を生じ、草木もあり、空気もきれいな大変良い環境になりました。全面通行が可能になって以来、平日は通勤に、休日は 1 時間程度の散歩にと利用しています。

やがて、利用者も多くなり、河川にはゴミ、遊歩道にもゴミと犬の糞が目立つようになりました。注意書きの看板も見えているはずなのに、自分さえ良ければ、あるいは、他人に気づかれなければ、という気持ちの持ち主が多いことは残念です。何とかしなければゴミの山になってしまうと、ある時は、ひとりでゴミ収集を試みたこともありますが、川の広さ、ゴミの量の多さに限界を感じました。そのうちに、クリーンアップのお知らせが目に入り、主催団体の名前も気にせずに、毎回とはいきませんでしたが、川への感謝の思いから参加するようになりました。これが私にとってのはじめてのボランティア活動です。5 月に「NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会」に入会したのはこのような理由からでした。

もうひとつの理由は、定年退職後に趣味とは別に、何かボランティア活動ができないか、探していたこともあります。現状は、仕事があり、ウィークデー以外の活動となっておりません。

会の活動は、地域の環境問題など多岐に渡っており、専門的な知識が要求されることもありますが、「湧水に関する学習会」に参加し、知識の向上を図れたことは非常に有意義でした。また昨年 10 月、11 月にグリーンフェスタが実施され、若い中学生たちとの植樹活動は大変楽しい行事でした。彼らと同じ頃は、私自身も毎日スコップ持参で学校に行き、学習は二の次で、トラックに土を積み込み、校庭に客土し、グラウンド造りに明け暮れたことを思い出しました。彼らが大人になる頃には、清流がこの川を満たして、ゴミもなく、環境が向上するよう、大人の私たちが責任を果たしていけたらと思っています。

石ころアート

田中 開

空堀川の地質は関東ローム層であるうえ、改修工事で人工川となったため、格好のよい石ころはなかなか見つからない。平成8年「空堀川、誰も知らない川の歴史と現状」の調査で源流から柳瀬川との合流地点までの流域を目的別に何度か調べた折に、落差工に石ころがよく詰まっていた、たまたま人が坐っている形の石を発見、喜び勇んで帰宅し、よく洗い遠磨坐像を描いた。この作品は乞われて某氏に贈ったが、今でも氏の玄関先に飾られている。

これを機に、大雨大水の後は上流から流されてきた石が詰まっていそうな所をねらって石ころ探しに出掛ける。普段は濁水で泥まみれの石が多いので、卵形で立つ石が見つかる、感極まるが、なかなかそのようなものはなく、形が変わったものを採集し、何になるかと考え込む。時には、1ヶ月どころか、1年も2年も狭い我が庭にころがしている。ある日突然、野菜や動物あるいは乗り物にもなると気づくことがある。そうなると、石ころを探す目も変わってきて、石ころの方から何を描いて欲しいと訴えているように感じられる。石ころアートは原則として石をキャンパスにするのではなく、石ころの形を生かしてふさわしい作品に仕上げることであるため、こんな目で探すと、蛙や魚から、胡瓜、ナスあるいは車や新幹線に変身可能な石がある。こうなると、歩いていても目は常に石ころにあり、観光を兼ねての石ころ探しとなる。梅と桜の青梅多摩川、桜と紅葉の飯能川、彼岸花の高麗川にはよく出掛ける。川の起源や立地により、板形の石（長瀨）、青色系統の石（越生の起辺川）等さまざまあり、「拾った石に筆を入れて生命を宿す」とばかり、自奮自励し、描ければ自画自賛で苦勞も吹き飛んでしまう。

禪者なら、「石の声を聴き、石の心を描く」というところだろうが、私には石ころに彩色し生き返らせることで精一杯である。「がたろう通信 12号」で黒田如水の「水五則」を紹介したので、今回は熊沢禅師の「石徳五訓」を紹介する。

1. 奇形怪状無言にして、能く言うものは石なり
1. 沈着にして気概永く土中に埋もれて、大地の骨となるものは石なり
1. 雨に打たれ風にさらされ寒熱にたえて悠然動ぜざるは石なり
1. 賢実にして大層高樓の基礎たるの任務を果たすものは石なり
1. 黙々として山岳庭園などに趣を添え人心を和らぐるは石なり

吉野川第十堰に先人の知恵を見る

小林 寛 治

2005年11月9日、徳島駅に待機していた個人タクシーに案内を頼み、念願の吉野川第十



堰を見てきました。徳島市内を通り抜け吉野川土手を上流に走って、河口堰に着きました。一時の騒ぎは何処へ行ったのか、人っ子一人居ない静寂の中に第十堰がありました。堰は想像していた以上に規模の大きいものでした。

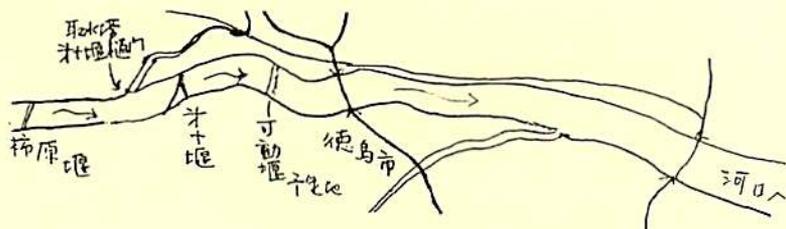
吉野川は、四国三郎とも言われており、上流には2005年8月貯水率がゼロになって一躍有名になった早明浦ダムを持つ川です。

(写真はインターネットより転載)

第十堰は河口から14kmのところであり、幅は50m前後、右岸から左岸までの間、石畳に青石を敷き詰めその前後のテトラポットを鎖で繋ぎ、石畳が洗掘されるのを保護していました。端から端まで歩いてみてその大きさに改めて感嘆しました。上流側から下流に向けては僅かな勾配があり、その落差は5m前後かと思われました。

水量の少ない時期であったためか、上流からの水は完全に遮断されていました。しかし、これでも下流には伏流水が出ていると聞きました。

第十堰は、本流（現在の川は別宮川と呼ばれていました）の農業用水確保のために今から245年前に農民の手によって作られました。海の水がこの堰を越えて遡るのを防ぎ、淡水を旧川に流す役割をもっているものです。現在は農業用水に加えて、飲料用・工業用水にも利用されているとのことでした。





吉野川第十堰 殆ど落差が感じられない

第十堰と呼ばれているのは、吉野川にかかる十番目の堰のためだと思っ
ていましたが、実は徳島県名西郡石井町藍畑の旧地名、第十村からのものでした。対岸の地名は藍住町で、
藍畑の名前が示す通り、一帯は染料の藍の産地だった所でした。吉野川の度々の決壊によ
って、このあたりは肥沃な土地になり、藩政時代から藍の栽培が盛んで、「藍屋敷」には藍
の工程が分かりやすく展示してありました。

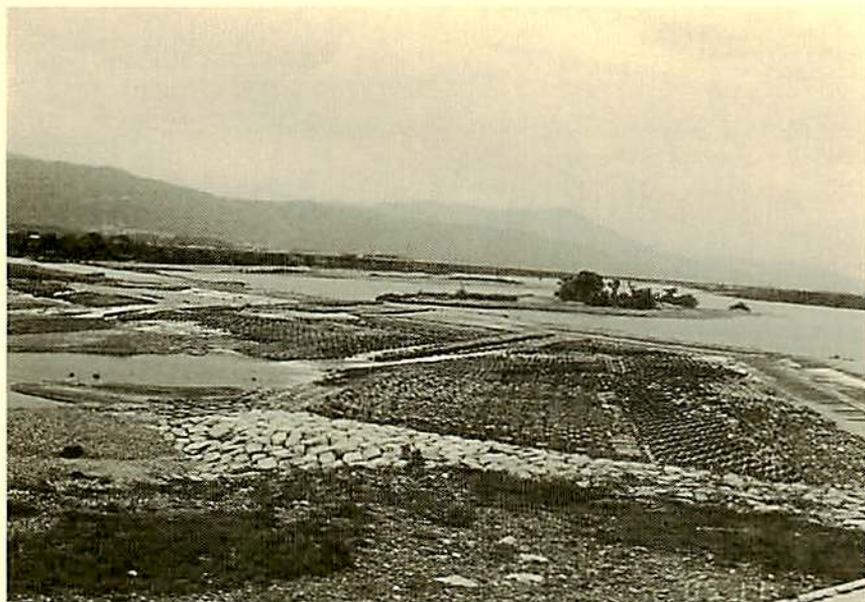
県の要請で国交省が洪水・塩害防止のため現在の堰の下流に開け閉め出来る可動堰を新
たに建設することを推し進めてきたのが吉野川河口堰問題です。一時期の騒ぎは、賛成派



写真は旧吉野川取水口(第十樋門)

反対派が住民投票を行なってまで議
論したものでしたが、果たしてその必
要性があったものかどうか疑問に思わ
れます。河川審議会の答申、新河川法
の施行等があいまって民意が尊重され
る転機になるものでした。今はその運
動も中止となっている状態のよう
です。

第十堰の上流約 10km 付近に柿原堰という、同じような堰があります。万一第十堰が高潮に見舞われても、ここで被害を防ぎ、上流からのいろいろな流下物をストレートに第十堰に流さないようにするために柿原堰が造られたのではないかと思います。



第十堰の上流にある柿原堰

最近では気候の温暖化によって、想像も出来ないような集中豪雨に見舞われることも珍しいことではなくなりました。上げ下げ出来る巨大な構築物をつくり、年間維持管理をしなくてはならない可動堰を造ることより、21 世紀の人の知を働かせ、後世に残る、自然に近い河川を造ってもらいたいものです。川と人や生き物が共存できる、そのような河川改修に掛けるお金は、巨大な構築物にかかる費用を上回ってもいいのではないかと。ハード面よりは、ソフト面を重視する河川工事に、ゼネコンは力を注ぐべきではないかと。吉野川第十堰をみてこんなことを思いました。

インフォメーション

◆美しい街並みとは

東村山市の環境基本計画の中に、「地域の環境と調和した良好な都市景観の形成」「街の美しさの形成」という項目があります。

具体的な目標としては、「奇抜さや違和感を与えるような街並みや、建造物がなく、地域の緑地や河川などの自然景観と調和していること」となっています。1月17日の環境審議会で、「最近、原色に近い赤や黄、緑などの色に塗られた家を見かけるが、違和感がある。地域に調和したものとはいえない。何らかの規制ができないのか?」と発言したところ、多くの委員から失笑を買い、「個人の趣味だ」と決め付けられました。環境審議会委員の景観に対する意識は貧しすぎるのではないのでしょうか?

落ち着いた、居心地の良い美しい街並みをつくるためには、地域の住民の一定の合意は不可欠といえるでしょう。(文責:小林)

◆魚の救出作戦

昨年11月27日、第3回グリーンフェスタ終了後、三中の有志6人、会員5名で大沼田橋の水溜まりから魚の救出作戦を行いました。“いこいの水辺”階段の少し上の僅かな水溜まりにはオイカワの稚魚(6~7cm)数千匹がいました。他に掬いとった

フナ、コイ、大きなオイカワなどと共に、野塩橋の水溜まりに放流しました。水が来たらまた上流に遡る日があるように折りつつ。

◆郵便振替サービス料金改定のお知らせ

平成18年4月3日から、窓口での通常払い込み用の料金が、取扱額1万円以下の場合、現行の70円から、改定後は100円に改定されます。よろしくお願いいたします。

◆西高東低の典型的な冬型の気圧配置が続き、日本海側は例年にない豪雪、太平洋側は晴天の毎日。昨年11月27日の植樹祭で植えられたツツジも、ついにピンチに陥りましたが、会員の友保さんが「エンジン式揚水ポンプ」を購入して水遣りしてくださいました。

◆身近な水の一斉調査

新河岸川水系水循環連絡会から、今年の「身近な水の一斉調査」の日程が決まった旨の連絡がありました。

・5月20日(土)~21日(日)一斉調査リハーサル。場所未定。

・6月4日(日)「身近な水の一斉調査」：全国一斉 当会は空堀川。

・6月25日「身近な水の一斉調査」報告・情報交換。場所未定。

当会は例年通り行ないます。皆様のご協力をお願いします。

◆ご寄付ありがとうございました！

小林 寛治氏, 石黒 文夫氏, 内海園芸
会員有志 (忘年会にて)

◆新会員です。どうぞよろしく！

- ・土橋 雄次 (つちはしゆうじ) 氏
東村山市青葉町
- ・分部 光春 (わけべみつはる) 氏
東村山市久米川町

◆これまでの経過◆

(2005/10/16～2006/1/20)

- ◎10月23日(日) 第2回グリーンフェスタ
- ◎10月29日(土) 第8会川づくり見学会(小林, 宮下)
- ◎11月12日(土) 定例会。富士見公民館。
定例会終了後、職業能力開発大学校において湧水に関する学習会が行なわれた。
- ◎11月20日(日) 第17回空堀川クリーンアップ。
- ◎11月27日(日) 第3回グリーンフェスタ。オオムラサキツツジとドウダンツツジの苗、計340本を植樹。終了後、大沼田橋下の水溜りから魚の救出作戦を行なう。
- ◎12月1日(木) 東大和第4小学校付近の空堀川改修工事に対する要望書を東京都北多摩北部建設事務所に提出(小林, 実川)。
- ◎12月12日(月) 忘年会。久米川駅北口「和楽」にて。
- ◎1月9日(月) 理事会開催される。

禪画家東京創作展のお知らせ

平成18年1月26日(木)～29日(日)
初日13:00～18:00, 最終日10:00～15:00
会場 武蔵野芸能劇場小ホール (JR中央線三鷹駅北口より徒歩1～2分) 当会会員の田中開氏が出品します。

2月の定例会の日程変更のお知らせ

平成18年2月の第2週目の土曜日が祭日のため、公民館が休館となります。定例会は第1週目の2月4日(土) 第1集會室で開催されます。

会員募集

私たちの活動を支援し、参加して下さる方を募っています。

◎会費は次の通りです。

個人会員	
入会金	2,000円
年会費	2,000円
賛助会員	
年会費	2,000円
法人・団体会員 (賛助会員とも)	
年会費	10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名 : がたろう
口座番号 No.00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市美住町1-13-14 小林 まで
TEL/FAX : 042-391-4003

がたろう通信

からぼり川

第47号

2006年4月20日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



ただ今、三分咲き！

一昨年、私たちが浄水場前に植えた「ソメイヨシノ」がただ今三分咲きです。

写真でお分かりのように、対岸の桜は満開です。植えた土が非常に硬く締まっているため育ちが悪いと思われます。この一帯がやがて花見の名所になるかも知れません。

一度見に来てください。

景 観

正路 妙子

国立市内に建設された高層マンションについて、市民が、その高さ 20mを越す部分の撤去などを求めた訴訟の上告審判決が、3月30日最高裁判所で言い渡されました。「高さを除けば周囲の景観の調和を乱す点は認めがたい」として、住民側の上告を棄却するものでした。住民が奇抜な建造物を建てないように配慮し、東京のなかでは比較的落ち着いた佇まいの町となっている国立市の中に建設された 14 階建てのマンション。業者は国立市民が築いた環境のよさを売り物にしなが、つまり、景観のよさから利益を得ながら、自らはその地域に抜き目出る「高さ」の建物を建設することによって、景観破壊への第一歩を踏み出したのです。

日本ほど建築家の自己主張が通りやすい国は世界でも珍しいと言われていいます。とくに、外国人建築家に対しては寛容で、世界の著名な建築家が、形や色彩の点で自国ではとても許されないような建造物を設計し、わが国の都市はまるで建築物の博覧会場のようになっています。こうして、わが国では、多種多様な素材・形・色の建造物が乱雑に並ぶ都市景観が、至る所にできあがりしました。建築主と建築家の気まぐれな好みや、珍しさを求める商業主義がむき出しになっています。首都東京は、まさにその代表で、巨大なカオス（混沌）を成しています。

このようなカオスをつくりだす元凶となっているのが、日本の土地所有のあり方であると思われま。わが国では、敷地の分割は土地所有者の恣意に委ねられており、自分の土地はどのように細分化しようと、上に何を建てようと、他人が口をはさむことではないとされています（その結果生じる、不合理の最たるものは、商店街の建物と建物の間の数 10 センチの無駄な空間です）。

ヨーロッパの諸都市には、そこに暮らす住民が、いかにしたら心豊かに暮らせるかという視点から、「公共のためには私権を制限する」という発想があります。土地も景観も公共的な性格の強いものとして理解されており、建築形態には強い規制が加えられています。

土地も景観も公共のものであるという精神を欠落させたままでは、日本の都市はカオスから脱出できないでしょう。

参考文献：芦原義信「東京の美学」、岩波書店

「吉野川みんなの会」の取り組み—緑のダム—

島崎 よう子

前号記事の“吉野川に見る先人の知恵”は、小林寛治さんの自然を守り残そうという思いにあふれたレポートでした。「あの吉野川可動堰反対運動はどうなったのだろうか」というくぐりがありましたので、その動きを伝えたいと思います。

私はおとし11月に「NPO 法人吉野川みんなの会」の取り組みについて話を聞きに出かけました。吉野川の第十堰を壊して可動堰を造ろうとする国の計画に対して、住民投票の結果、計画は白紙になりました。しかし、国交省はまだまだあきらめてはいません。その後、徳島市を二分するような動きは日増しに衰退し、「NPO 法人吉野川みんなの会」が結成され、会は川遊びや体験活動など、川と親しむ活動をしながら対案作りを進めています。巨大なギロチン可動堰に替わる案の研究をするために「第十堰基金」をつくり、市民からの募金・市からの補助金・高木任三郎市民科学基金・消費生活研究所の助成金等 3,000 万円で、研究者・市民協働の調査をしています。

その構想は「緑のダム」です。「緑のダム」は洪水調整、水源涵養、水質浄化の機能を果たします。吉野川シンポジウム実行委員会世話人代表・姫野雅義さんにかがった当時は緻密な計測を続けている最中でした。

吉野川可動堰計画は、150年に1度の洪水対策です。大雨のとき、水が土に浸み込まなければ川は一気に増水します。地表面を流れる水は早く、地中はゆっくりと進みます。流域の土地利用や植生次第で管理保全が変わることが予測されました。広葉樹林などの自然林と荒れたスギ・ヒノキの人工林を比べると、この浸み込むスピードが違うことを、データにしていきました。その研究結果が昨年、まとめられました。雨水を浸透させる力を比較すると、放置されている人工林：手入れされている人工林：自然林＝1:2:2.5さらに、裸地：自然林＝1:5です。

この「緑のダム」の治水効果を大河川で定量的に把握する研究は日本で初めてだそうです。コンクリートのダムに頼るこれまでの「河道主義治水」を流域の治水機能を反映したものに是正するとともに、森林政策を見直し、可動堰の代替案として河川計画に生かす活動が始まっています。

ここ吉野川で 250 年前の先人が自然に寄り添い川と付き合ってきた生き方・知恵を現代の私たちは受け継ぎ学び、次の世代に渡していきたいと思います。

平成 16 年 1 月に第 1 回目の「空堀川流量確保分科会」が開かれて以来、平成 18 年 1 月までに、計 6 回の会合が持たれました。構成員は東京都・流域 4 市の担当者、流域の環境団体のメンバー、各市からの公募委員等計 9 名です。今回、その成果が以下のようにまとめられました。

* * * * *

水量確保分科会のまとめと提言（案）

水量確保分科会
座長 小林 寛治

空堀川の流量確保について

空堀川は河川改修工事によって大きく広がり、水害からの安全性は以前と比較にならないほど向上しました。21 世紀、都市計画で行なわれている川づくりには安全面の確保はもとより、町づくりの中の川のありよう、持続可能な開発と自然環境への配慮の重要なことは今更申すまでもありません。川や水際、河川敷やその移行帯は動植物が棲息する重要な場所であり、生物として先祖を同じくするヒトにとってもこのような生態系を保全し、回復を図ることは私たちの義務でもあります。

特に瀬切れなく水が流れる川は流域市民の切実な願いであります。

これを受けて平成 16 年 1 月 30 日、流域連絡会の中に空堀川水量確保分科会が設置され、以後勉強会、見学会及び意見交換会を重ねてきました。

分科会では、丸 2 年かけて行なってきましたが、今回で締めくくり、以下の事項について速やかに実行に移すべきと考え、提言として取りまとをいたしました。

水量確保の全体体系として、流域を 3 つのブロックに分け、それぞれに対策をまとめました。上流域の水量の確保、中流域の水量確保、下流域の水量確保、その他流域全体で総合的に取り組むことを提言します。

これら提言は、国、東京都や各市において策定している柳瀬川流域水循環マスタープラン、柳瀬川流域河川整備計画、環境基本計画等を念頭に置いたものです。また、空堀川浄化対策会の要望、環境確保条例や環境基本条例を踏まえたものでもあります。

水量確保は自然循環の基本であることを認識され、一層のご協力をお願いいたします。

提 言

- 1 上流部については自然が豊かであり、水環境にも比較的恵まれています。しかし、水路は必ずしも、水循環に配慮したものとはいえません。暗渠部分を開渠に戻し、出来るだけ水が見えるような川にしたいと思っています。

武蔵村山市は直営のカタクリの湯を経営しています。地下水を汲み上げ、使用しています。現状は僅かの水が河川に流れ出ている状態です。空堀川の上流域は水枯れ状態が激しい所です。水は上流から流れ出て、次第に水量が増してくるのが通常です。使用した排水を浄化して環境に流すことは難しいことと思います。そこで、くみ上げる地下水の量を僅かに増やし、10 m³/日量程度を環境用水として流していただけるよう働きかけをしたいと考えております。

- 2 中流部については、森永乳業東京多摩工場の処理水が空堀川中流部唯一の水源で

あり、この確保は重要であります。この水は、森永エンジニアリング㈱が建設した定評のある排水処理施設で処理した水で、日量 $4,000\text{m}^3 \sim 5,500\text{m}^3$ が東芝中橋付近で放流されております。処理水は平成 11 年東京都公害防止条例改正、東京湾の富栄養化防止に基づく総量規制を受け、規制を遵守した大変きれいな水です。平成 18 年 1 月 25 日の見学会においても委員それぞれが確認をし、共通の理解をもちました。

第 1 回空堀川流量確保分科会に出された『資料 4 空堀川浄化対策会要望活動に係る検討会』（環境局）《下水道法に基づく「特免」について》で検討したように、この水を安定的に空堀川に導水する手段として、この特免は大切な手続きであります。したがって、今後下水道法の「特免」について東大和市に働きかけをしたいと思っております。

- 3 中流部の水量確保については、JR 武蔵野線構内地下水の利用促進を積極的に行いたいと思っております。現在、JR 武蔵野線構内地下水は、空堀川の御成橋付近から日量約 $3\text{千}\text{m}^3$ 、柳瀬川の秋津付近から日量約 $2\text{万}\text{m}^3$ が排水されています。この柳瀬川に排水されている水量は空堀川の全水量の 5 倍になり、空堀川の中流部へ一部分の分水がかなえば、空堀川下流域の水量は格段に改善されます。空堀川の水量不足の地域を潤し、柳瀬川に注ぎます。したがって、今後 JR 八王子支社への働きかけをしたいと思っております。
- 4 下流部の水量確保については、上流部の水量が確保されれば必然的に水量は確保されます。下流部は河畔林がありますが、多くは開発地域になっています。これらを守る方策を考え、東京都の保全林に指定する方向など、下流域の自然を守っていくことを提案します。
- 5 その他流域全体で出来る施策を行なう。空堀川流域の学校にはプールがあり、以前は空堀川に排水を流していました。排水口が消毒した塩素で真っ白になっている光景をしばしば目にしました。現在プールの排水は下水道に流しています。プールの使用が終わった後のプールは防火用水として秋口に水を張り 6 月の再開まで貯水されています。再開時のプール排水は生物が棲める環境にあります。プールに使用した上水を環境に出しても障害があるとは考えられません。学校に働きかけをしたいと思っております。
- 6 河床が安定した中・下流域においては自然石や水制によって河道内に蛇行をつけ、洪水が一挙に流出しないよう、ゆっくり流すように河道の整備をお願いします。このことによって下流の安全確保と共に生き物が生息できる環境が回復します。
- 7 流域の各市は良好な水循環を確保する立場から、適用地域を指定し、条例をもって市及び市民の義務を定義すると共に助成金をもって奨励と啓発するよう施策をお願いします。
- 8 その他、空堀川の現状に鑑み、環境用水としての多摩川上流処理場からの高度処理水の導入を流域市長が連名で、東京都知事に清流復活事業として要請するようお願いいたします。

以上

空堀川の草木 ⑱

アカバナユウゲショウ

アカバナ科

学名: *Oenothera rosea*

有川栄子

アメリカ大陸原産の多年草。明治年間にわが国に入り野生化した。茎は細く、高さ20~40cm。根生葉は羽状に裂け、花期まで残っている。花は7月~9月に葉のわきに淡紅色の径1~1.8cmほどのかわいらしい4弁花を多数つける。花弁4、雌しべ1、雄しべ8があつて、アカバナに似ているのでアカバナユウゲショウとよぶ。アカバナとちがうのは、葉が互生し、花柱の先が4裂、果実が先の方が太く、種子に毛がないこと。空堀川では低水路際に多く見られる。小さな花なので、川において観察するとよい。

この植物の名前について興味深い一文を見たことがある。それによると、花色が紅色で、午後から夕方にかけて開花するので「赤花夕化粧」と名づけられたとのことである。



写真は、<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/>からの転載。

蔵敷公民館、桜ヶ丘図書館に置いてあります。ご覧下さい。

「ラップランド・オーロラ探訪紀行 8 日間」に参加して

土橋 雄次

かねてからオーロラを観たいと思っていた折、標記の案内に接し、胸ときめかせて参加した。午前 11 時に成田からフィンランドに向かい、その日のうちに観察地ユツラに着いた。ここで 4 連泊してオーロラを待つことになった。着いた夜は疲れていたせい、アルコールが入ったらすぐにぐっすり眠り込んでしまい観察できず。2 日目はオーロラがよく見えるという丘にバスで行った。しかし、雲が取れず、オーロラは出現せず（オーロラは地上から 100~500 km 上空に発生する）。3 日目の夜、今夜こそはと 8 時頃より防寒着をしっかり着てホテル近く的一面凍っている湖上に行く。マイナス 40 度近いところで、ジーンと斜め上を見ながら 1 時間、2 時間と待つ。焼酎を友に 11 時まで待ったが、一向に現れないのでガッカリ、うつむいて帰る。この日はグループ 29 人のうち誰も見なかった様子。さあ、4 日目の最後の夜。部屋で本を読んでいると、9 時 30 分ごろ、「出た」と外で大きな声。胸をドキドキさせながら湖上に急ぐこと 5 分。丘の端に白っぽいクリーム色のものが見えたが、テレビや写真とは大違い。あれでもオーロラかとはっきりしながら眺めていると、その上部が緑色になる。青や赤がそのうちに現れるかと待っていたが出現せず、そのまま何もなくなり 1 時間。不満を残して 11 頃ホテルへ帰る途中、湖上に向かう人たちに会ったが、この 6 人は 12 時ごろに緑、青、赤がゆらめくオーロラを見ることができたとのこと。4 晩を費やして、29 人中 6 人が、1 回満足のゆくオーロラを見られただけというように、観察の確率は低く、運と根性が必要なようである。

観察地はフィンランド最北地ラップランド州にあり、北海道宗谷岬より約 2000 km 北方に位置している。マイナス 40 度以下になるところだが、アカマツ、モミ、シラカバが林立している。そんなところで、トナカイの放し飼いが行なわれている。ラップランド州には約 20 万頭いるとのこと。ほとんどが食肉用で、橇（そり）引きにも使われている。私はトナカイ橇に乗ってみた。御者はおらず、客が御者となる。はじめてなので御すことはできないが、トナカイが道を知っていて走ってくれた。怖い思い、爽快な思いの交錯する 30 分、子供のように楽しんだ。

第9回川づくり見学会に参加して

小倉 安洋

去る 1月28日、新河岸川流域川づくり連絡会（国交省荒川下流河川事務所内）主催による見学会に、「清瀬の自然を守る会」の宮沢さんの薦めで参加した。冷たい風が吹く寒い土曜日であったが、熱心な参加者9名による見学バスツアーは、新たな発見も多く、冷たい風を忘れさせるに十分な大変有意義な一日あった。

赤羽駅に9時に集合し直ちに出発、先ず、「綾瀬川・芝川等浄化導水事業」が実施されている埼玉サッカースタジアムが見える綾瀬川放流口へと向った。この事業は、下水道整備により水量が減り水質も悪化した綾瀬川・芝川を、荒川から導水することにより川の復活をさせようとする全長16kmに及ぶ大事業で、内12kmは埼玉高速鉄道シールド内を流れるという今までにない構造となっている。この流域の河川は、上記のほか伝右川・毛長川があるが水源となる山地がなく、もともと水量が少ない上に急速な都市化で市街化率62%、人口90万人となり水環境の悪化が著しかった。事業開始後は、水質・水量とも改善がはかられており、空堀川の現状を知る者からみるとうらやましく、また、やろうと思えばやれるのではないかとの思いを強くした。

次は、草加市内を流れる綾瀬川（旧日光街道松並木）、続いて「足立区立桑袋ビオトープ公園」、流水保全水路（ふれあい松戸川）。最後が春日部市の「首都圏外郭放水路」。この事業は、慢性的な浸水地帯である中川流域（他に倉松川など3河川）の治水対策で、これまで下流域から順次進める方式に加え、被害解消の抜本策として行われている。流域の大雨を地下の放水路を使って江戸川に流す仕組みである。庄和排水機場“龍Q館”には、大量の洪水を一気に排水するためのジェット機のエンジンと同サイズのガスタービンと巨大なプロペラが設置されている。想像を絶する水の威力をコントロールするにふさわしい、まさしく巨龍を思わせる施設であった。

今回の見学会は、丸一日と時間はかかったものの大変勉強になった。多くの河川やさまざまな事業の実態を知ることが、空堀川にも活かせるアイデアや提言を生み出すことにつながるのではないかとの思いを強くした。次回には、より多くの方々の参加をお勧めしたい。

空堀川の四季 —春—

田中 開

昨年、立派な、カラー版の「空堀川の四季のポストカード」ができた。このまま眠らせておくのは勿体ない。「清流を取り戻す会」の活動を交えながら紹介したい。道元は、「春は花、夏はほととぎす、秋は月、冬雪さえて涼しかりけり」と詠んだが、ここで空堀川の「雪月花」を探索してみる。

春のポストカードは、栗木橋一曙橋間の菜の花の黄金の波である。平成10年1月、北風が冷たい中で、「春くれば 空堀川沿い 菜の花に

埋まる夢みて 播種をしにけり (岩切満盛)」と、

有志が下堀広苑近辺の流域に菜の花の種蒔きをしたのを皮切りに、縁あって下北半島横浜町の、日本一の菜の花公園から種を入手して蒔いたりした。その後、秋のクリーンアップと併行して種まきを行なった。菜の花は隔年に咲くとか。花の分布は年々違うが、ふれあい広場方面は当時花一杯で、カメラマンやスケッチの人々が精出す姿がよく見られた。

浄水橋上下流一帯の桜も見事である。上流の改修工事の際、浄水場横の巨大な桑の木の大伐採が問題になった。その際、当会の要望が叶い、伐採の代償として富士見陸橋入口は、公害に強いヤブツバキ等のフェンスにし、管理道路には桜の苗木が植樹された。今春も立派に映えるだろう。下流右岸の桜の大木数本の下は、かつて花見で賑わったが、都営アパート建設で伐採され残念至極だ。今は、カラフルな管理道路と第三仲よし広場となっている。

流域のカタクリの花は、源流の学校水田横緩斜面のカタクリの里、梅坂橋下流の緑地保全林、清瀬せせらぎ公園に続く先の中里緑地保全地域でみられるが、わけても後者は広くて管理もよく、可憐な花一杯で、3月下旬から4月初めにかけて多くの人で賑わう。

平成11年5月、浄水橋～天王橋間完成記念に、からぼり広場対面の街道前「三角の広場」に「ユリの木」が植樹された。その後水辺近くには当会の手で、金山調整池より移植した黄菖蒲も花を添えている。

東村山の市の花はツツジである。管理道路の花壇にはドウダンツツジが植えられているが、その空間を埋めるべく丸山橋～ふれあい橋左岸には当会の手でオオムラサキツツジ344本が植栽された。初夏が楽しみである。

インフォメーション

柳瀬川水循環マスタープラン推進協議会 が開催されました

平成17年3月、柳瀬川流域マスタープランが策定されました。このマスタープランの実現を目指して去る1月30日(月)所沢市水道庁舎3階大会議室において第1回柳瀬川流域水循環マスタープラン推進協議会が開かれました。参加者は国交省から荒川下流河川事務所所長他、東京都建設局河川部・水道局流域下水道本部・都市整備局都市基盤部・環境局自然保護部・北多摩北部建設事務所、埼玉県県土整備部・住宅都市部下水道課・都市整備部都市計画課・環境部水環境課・県土整備部新河岸川総合治水事務所、流域の清瀬市、東村山市、東大和市、武蔵村山市、所沢市、志木市、新座市、三芳市に加え、柳瀬川流域マスタープラン市民懇談会から代表世話人として宮本、正木、毛利、桜井、内山、岡田、小林が参加して行なわれました。この会議で決まったことは、柳瀬川流域マスタープラン推進協議会設立趣意書及び規約の採択に続いて、実現を目指したアクションプラン検討スケジュールの説明が国交省荒川下流河川事務所調査課長からありました。そこでは3つのポイントが了承されました。

《ポイント1》計画理念と3つの基本方針による体系的取り組み

計画理念：人とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり

基本方針1 基本方針2 基本方針3

《ポイント2》市民が提案する「望ましい流域像」のキャッチフレーズ・イメージ図
《ポイント3》流域づくりの進捗を確認するための数値目標の設定

3つのポイントを実現するためモデル地域を定めてモニタリングを行なうことが提案されました。柳瀬川の上流部・下流部、東川、空堀川の4箇所に向けて緑地・農地の保全、雨水浸透施設の普及を図っていくというものです。空堀川のモデル地域は原案では清瀬地域を想定しているようです。

空堀川「子どもの水辺」にゴミの不法投棄防止看板

2月21日(火)、飲食や釣り人などによるゴミの不法投棄が目立っている「子どもの水辺 WAKUWAKU 広場」に北北建・工事第二課維持係によって、不法投棄防止を呼びかける看板がフェンスに取りつけられました。



「川でつながる発表会」 三中、明法中高 等学校が発表

2月25日(土)午後1時から志木市民会館で開催され、東村山からは市立第3中学校自然科学部と明法中高等学校中等部科学部が参加しました。他に大学2校、高校2校、小学校は清瀬第四小学校他1校の発表があり、それぞれ立派な発表でした。国交省荒川下流事務所の講評があり、それぞれの発表が甲乙付けがたいということで、全校が表彰され、全員に記念品が渡されました。



中橋が新しく生まれ変わりました

2月15日(水)東村山市内の上流部に新しく橋が架け替えられました。橋名版は空堀川の橋名に全く使われたことのない丸文字です。一度見てください。橋名板を見慣れた者には違和感がありますが、人さまざま感想があるようです。



「桜の木の植樹」に関する覚書更新

平成16年に東京都北多摩北部建設事務所管理課の許可を受けて、浄水場前に植樹した桜の木維持管理に関する覚書を今年も取り交わしました。

河川敷の掲示板いよいよ実現に

一部メーリングリストでお知らせしましたが、去る3月27日(月)柳瀬川・空堀川流域連絡会で正式に取り上げられました。当日当会の宮下さんが持参された私案をタタキ台に何処に、どのような大きさを、掲示内容はどんなことをとということ、6月までに提案することになりました。当面の取りまとめは小林が行ないます。まだ確定したものはありません。ご意見を小林もしくは宮下までお願いします。

柳瀬川・空堀川合流点付近の川づくり懇談会が立上げられました

蛇行している柳瀬川は空堀川の下流石田橋から、くるまや橋付近で空堀川に合流します。現在の蛇行した柳瀬川をどうするかという懇談会です。現在の柳瀬川は貴重な天然河岸と貴重な植物が沢山あります。流域には埋めてしまえという人たちや生活道路化を主張する人たちも居ます。行政区画が異なり、埼玉県・東京都の両者が近隣住民を集めて半年かけて話し合い、整備は平成23年までに実施する計画だそうです。第1回の懇談会は3月28日に予定されています。

春のクリーンアップ, 4月23日(日)に
決定

第18回空堀川クリーンアップが上記のよ
うに決まりました。例年より30分繰り上げ
て9時30分からです。東村山市市報にも掲
載しました。

◆これまでの経過◆

(2006/1/21~2006/4/20)

- ◎1月24日(火) 緑の市民会議 市民セン
ター
- ◎1月25日(水) 第6回空堀川流量確保分
科会 現場および東村山中央図書館視聴
覚室 出席:小林
- ◎1月29日(日) 第9回川づくり見学会
出席:小倉
- ◎1月30日(月) 第1回柳瀬川水循環推進
協議会 所沢水道会館
- ◎2月4日(土) 定例会 中央公民館
- ◎2月18日(土) ゴミフォーラム 市民セ
ンター
- ◎2月20日(月) ボランティア推進委員会
東村山ボランティアセンター
- ◎2月21日(火) 空堀川東芝中橋下流部
の低水路補修立会い
- ◎2月25日(土) 「かわでつながる発表会」
志木市民会館「パルシティ」で東村山市立
第3中学校他8校が発表
- ◎2月27日(月) 東村山市環境審議会 市
庁舎
- ◎3月11日(土) 定例会 中央公民館

◎3月16日(木) 流域連絡会部会提言の打
ち合わせ他要請 北北建

◎3月23日(木) 川まつり 打ち合わせ 市
庁舎

◎3月27日(月) 第13回 柳瀬川・空堀川
流域連絡会 北北建第一、第二会議室

◎4月8日(土) 定例会 中央公民館

以下の方々からご寄付をいただきました。
ご厚志は「みどりの基金」に繰り入れました。
ありがとうございました。

福島 淑行氏, 岡田 伊沙子氏,
清水 君子氏

会員募集

「NPO 法人 空堀川に清流を取り戻す
会」の活動を支援し、参加して下さる方を
募っています。会員制です。

◎会費は次の通りです。

個人会員	
入会金	2,000円
年会費	2,000円
賛助会員	
年会費	2,000円
法人・団体会員(賛助会員とも)	
年会費	10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名 : がたろう
口座番号 No.00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いします。

東村山市美住町1-13-14 小林 まで
TEL/FAX : 042-391-4003

がたろう通信

からぼり川

第48号

2006年7月15日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



風頭橋～浄水橋

浄水橋～第二砂川橋

WAKUWAKUひろば現況 (いずれも上流より下流を望む)

「WAKUWAKUひろば」に河川整備基金助成決定

空堀川の子供の水辺「WAKUWAKUひろば」が、このたび河川整備基金の助成を受けることとなりました。これは当会が小中学生とともに水辺の自然再生に実践的に取り組んでいきたいという想いから、かねてより河川環境管理財団に助成を申請していたものです。

この助成を活用することで、護岸の植栽・環境学習等の活動が、より活発に行なえるようになります。具体的な活動の中身は、「がたろう通信」紙上で今後随時お知らせしていく予定です。

Succession—植物遷移—

正路 妙子

エベレストやマナスル、富士山で清掃登山を行なっているアルピニスト、野口健さんのことが、マスコミで大きく取り上げられるようになりました。野口さんが清掃を目的とした登山を行なうようになったのは、欧米人に「ヒマラヤは日本隊のゴミだらけ」と指摘されて、「何を！」と思ったことがきっかけだそうです。私たちが年2回空堀川のクリーンアップを行なうのも、ゴミの放置された川をそのままにしておくことは、日本人として恥ずべき行為だという思いがあるからです。

そんな、止むに止まれぬ気持ちからはじめたゴミ拾いですが、空堀川のクリーンアップは、喜びをもたらしてくれる作業でもあります。その第一はもちろん、思いを同じくする人たちと行動を共にすることです。しかし、それ以外に、河川敷の植物たちを間近に眺め、新しいものを発見することも共同作業の楽しみに勝るとも劣らない喜びです。4月の清掃の際には、へビと遭遇して緊張しました。園芸種とみられる3種類のスマイレに、心をなごまされました。定期的に刈り込まれる河川敷は、さまざまな植物の生存をかけた闘いの場で、それを観察するのは得難い経験です。

植物の観察が同じように楽しい場所が、八ヶ岳の森の一角にあります。6年前に樹木が伐採され、土が剥き出しになった時、まず芽生えたのは、明るい開かれた場所を好む植物たちでした。アザミのような花をつけるキク科の多年草タムラソウは、無数といえるほどに芽生えましたが、あとから生長した落葉広葉樹の下でも生息できるタチツボスマイレにやがてその座を譲りました。木本類では、ヤマザクラ、ヤナギ、シラカバ、カラマツがパイオニアとして登場しました。ヤマザクラは周囲の木から果実が落ちたものですが、ヤナギ、シラカバの種はどこからか運ばれてきたものです。ヤナギとヤマザクラは最初、数の上で拮抗していたものの、生長のはるかに早いヤナギが次第に抜きん出て、他の植物の日照を奪っています。それを免れたウルシ科ウルシ属のヌルデは、翼のついた大きな羽状複葉を広げています。昨年はこの翼の部分にアブラムシの一種ヌルデノミミフシアブラムシが卵を産み、タンニンを多量に含んだ大きな虫えいを、いくつもつくりました。

生き物たちが競争しながらつくりあげていく世界を、興味深く見守っています。

河川整備基金の助成決まる

小林 寛 治

1月末の締め切り間際に応募した平成18年度の(財)河川環境管理財団・河川整備基金の助成が、6月初めに決定し、通知をいただきました。助成金額は100万円です。申請に当たっては当会顧問の助言によりソフト面を主体に計画をたてました。ハード面は河川管理者の事前の協力を得ました。

助成の対象になった事業名は「子どもの水辺」における自然再生のための実践活動です。「子どもの水辺」は国策によって出来た制度で、平成16年10月、「子どもの水辺サポートセンター」に登録しました。今回、助成金申請に当たっては河川管理者である「北多摩北部建設事務所」の理解と協力があり、河道部分については、①いわゆる“乱杭”による落差工の改修、②中ノ島様にして流れを“乱杭”の頭から二つに分け、下流部に水深のある部分を造る、③子どもたちが安心して魚取りやボート遊びが出来るように“ボートの発着場”を造る、④ワンドが出来るようにする等を考慮して貰っています。工事は6月下旬から月内または7月上旬までの予定です。

私たちはこの場を環境学習・自然再生の場所として助成金をもって集会用テント、着替え用のプライベート・テント、ゴムボート、自然再生区間であることの表示看板、収納用の物置を整備します。また水生植物を植え付け、川らしい姿に再生します。既に利用が決まっているのは、7月16日東村山市社会教育課の青少年育成活動「輝け!東村山っ子育成塾」68名、7月22日東大和環境学習リーダー連絡会による「空堀川で水辺探検—どんな生き物がいるか—」30名です。また、八坂小学校高学年を対象に、当会企画の「夏休みWAKUWAKU講座」の話し合いが進行中です。学校へ打診したところ、「是非やって欲しい。希望者は沢山いる」とのことで、6年生20名前後、応募先着順で行なう方向です。さらに、三中の自然科学部部員とは、部長の木村先生と調整しながら「花ショウブの植え付け」を千本単位で行なうことを話し合っています。また、浄水場工事JVの協力を得て、自然再生を行なっていくつもりです。花ショウブは東村山市みどりと公園課が責任を持って提供すると約束してくれました。WAKUWAKU講座、青少年の水辺体験、三中の自然科学部による自然再生活動は、最後のまとめとして成果公表のシンポジウムで発表してもらいます。またこの事例を国交省主催、「川でつなぐ発表会」に持っていかうと木村先生と相談しているところです。活動に当たっては皆様のご協力をお願いします。

地下水～飲み水の巻～

島崎 よう子

だいぶ前のことだが、初夏のころ昭島の友人を訪ねた。昭島駅から 10 数分歩いて、汗ばみ、のどは渇き、挨拶もそこそこにいただいたコップ 1 杯の水のおいしかったこと！水道の蛇口から注いだ水なのに、軟らかく、カルキのにおいもなく、八ヶ岳山麓の湧水と同じような味がした。そのときに、昭島市の水道は地下水を 100 パーセント使用していることを知った。わが市の水とは違う。東村山市の水道水は利根川水系がほとんどで、一部地域に多摩川水系が使われている。

昭島の地下水は、水質基準項目のひとつトリハロメタン濃度が極めて低く、浄水場での塩素注入率が 0.3mg/L と少ない。これは、その原水に塩素と反応する物質が含まれていないこと、つまり地下水の水質が優れていることを示している。河川水と比べると地下水は浄水処理が簡単で、塩素を入れるだけで済む。水利権の取得など、川の水に比べて手続きも容易で、自区内取水ができる。

1 月に開かれた「地下水シンポジウム」の利き水コーナーで、昭島浄水、金町浄水場の混合水、ミネラルウォーターを飲み比べたが違いは歴然としていた。ちなみに、金町浄水場の塩素注入率は 5.1mg/L である。

多摩地区では、水道水源の 29% が地下水でまかなわれている。国立市は 6 割、雨水浸透に熱心な小金井市は 7 割、小平市は 18% である。地下水がまったく使用されていないのは青梅市、清瀬市、東村山市の 3 市である。その理由は、1960 年代から水需要が増加する一方で涵養量が減り、日糧 50 万トン程取水するようになって地盤沈下を起こしたこと、さらに、時を同じくして、水道料金が自治体によって違うことが問題となり、都営水道の一元化が始まったことにある。東村山では労働組合の関係もあったと聞くが、元には戻せず、残念だ。(以下次号)

空堀川についての市民アンケート

友保 邦弘

去る5月28日(日曜日)第8回「空堀川祭り」が行われました。朝10時ごろまで雨が降っていて開催が危ぶまれましたが1時間遅らせたところ雨も止んで絶好の祭り日和となりました。

我々の会も「魚の放流」「仮装写真」「フリマ」「ゴムボート遊び」「売店」などなど色々なイベントを盛り込み予想以上の賑わいでした。特にゴムボート遊びは大変な賑わいで親子連れに大好評。7中の一年生男子生徒がフル回転で手伝ってくれてとっても盛り上がりました。

今回初めての試みで「空堀川についてのアンケート」を実施しました。短時間でしたが39通の回答を得ました。10歳台から50歳台まで、男女約半々でした。ちょっと意外なものや興味ある回答のあった項目をピックアップしてみました。[]内は筆者のコメントです。

◆空堀川を良く知っていますか？

- ・川に入って遊ぶことがある・・・9名 [意外に多い。子供の回答でしょうか？]
- ・釣りをすることがある・・・0名 [39人いて釣りをする人が居ない。残念！]

◆今後どのような川になって欲しいですか？

- ・水が常に流れている川・・・34名 [我々の努力が試されています！]
- ・川を埋め立てて公園や駐車場・・・1名 [色々な意見があることを認めることも必要]

◆川の環境を守る活動に関心がありますか？

- ・市民グループに参加して活動したい・・・12名 [多いのにビックリ！会員募集を強化しよう]

◆そのほか自由なコメントで：

- ・何時でも入れて探検もできる [川を探検の場と考えている人がいて、希望が持てる！]
- ・植生がだんだん良くなってきている [うれしい意見。でもオオバクサは多すぎます]
- ・川ではなくて用水路だから嫌い [モットモです。でも諦めたらアカンで。長期戦で行こう]
- ・大洪水で氾濫するとは思わない [でもナメたらアカン。雨を一気に川に流さない工夫が要る]
- ・フィルターを取り付けて水をきれいに [色々な工夫やアイディアに耳を傾けよう]

(6)

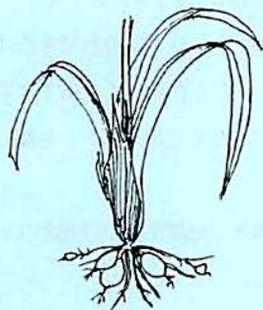
- ・ロップ（ロープのこと？）溺れた時使う [安全第一。川を良くする為の色んな工夫が欲しい]
- ・護岸にもっと植生を [植え込みや草花や木陰も欲しいですネ。植樹祭やグリーンフェスタを企画しますので、大勢の市民の皆様が参加して下さいを期待します]

空堀川の草木⑳

ヤブカンゾウ *Hemerocallis fulva* ユリ科

有川栄子

人里に近い溝のふちや川の土手、草むらに多く生える多年草です。根は茎の基部から多数出て、ひも状で黄色を帯び、根の先端に紡錘状のふくらみがある。葉ははかま状にたくさん出て、左右に開き、先端は垂れ下がる。細長い広線形で厚みがある。7～8月に葉の間から高さ60～100cm位の花茎が伸び、その先端に黄赤色で半八重咲きの華やかな色の花をつける。ギリシャ語では「一日の美しさ」と言われる。つまり、美しい花が一日で萎むことに由来している。雄しべ、雌しべは不規則に花弁化して三～四重になっているので果実はできない。ごく若い芽を摘んで茹で、酢味噌などで食べる。近似種にノカンゾウがあるが、花は一重咲きでやや小さく、果実が出来る。中国ではヤブカンゾウの花を見て憂いを忘れるという故事（詩経）があり、別名ワスレグサ（萱草）ともいう。日本でも古く「万葉集」に大伴旅人らがわすれ草を詠んでいる。他に「枕草子」、「今昔物語」にも萱草を庭や墓地に植えたとある。空堀川に咲くヤブカンゾウを見て、1000年も昔の人々が庭に植えて親賞していたことを思うとロマンを感じます。



写真は <http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp> から転載

蔵敷公民館、桜ヶ丘図書館に置いてあります。ご覧下さい。

空堀川の四季—夏—

田中 開

夏のポストカードは清瀬中里の景観である。梅坂橋下流右岸には、都指定の緑地保全林がある。写真は梅坂橋下流より撮られているが、澄んだ水面に青空と保全林の緑が映え、これが空堀川流域かと、誰も目を疑うだろう。保全林から湧水が滲出しており、この景観がみられるわけである。

初夏には「川まつり」がある。鯉のぼりの下、魚の放流、川辺で遊ぶ子供たちの元気な姿、共催のまつり囃子や出店の多くの人出と、年中行事としてすっかり定着した。

市の鳥は「ハクセキレイ」、花は「ツツジ」、木は「ケヤキ」である。ハクセキレイとツツジが描かれたタイルが野口橋の人道に埋め込まれている。ハクセキレイが白い腹を見せて橋上や樹木の間を飛ぶ姿も見かける。水辺の宝石と言われる「カワセミ」は、菜の花の咲くころ、清瀬の石田橋付近の土手で見られる。最近では浄水橋上流でも見かけられるというが、このチャンスに私はまだ恵まれていない。

清瀬市境大沼田橋付近の「いこいの水辺」の裏は緑地保全林であるが、ここではヒガンバナ科の多年草である「キツネノカミソリ」が樹陰にオレンジ色の花を咲かせている。この花は前述の梅坂橋下流の保全林でも見られる。

石田橋右岸に「せせらぎの流れ」の起点があり、井戸から揚水された清水が循環水として約1m幅の人工川を流れ、水辺には多くの水生植物が清水に生き、計画的につくられた土手や小さな築山には、ネコヤナギやアジサイのほか、湿生植物も植えられ、素晴らしい眺めである。この緑地保全地域には、隣接の第四小学校とボランティアの協働によりホタルの幼虫が放流され、現在はネットで覆ったり、近くの照明を消灯したり、工夫と努力が積まれている。昨夏は効あって、管理センターのホタルカレンダーによれば、19:30~20:00の観測時間帯に、5月中延べ42匹、6月の最多日34匹など、7月15日までの記録がある。春のカタクリ、夏のホタル、「せせらぎの流れ」は一見に値する。古くより「隔水一蛍飛（ミズヲヘダテイッケイトブ）」（向こう岸に青白い光は初夏の光景）と言ったが、「せせらぎの流れ」の対岸は民家と保全林で、ホタルの飛来は関係者の努力の結果であり、水と魚、水と人の交わりがホタルを呼んだことになり、これぞまさに「水魚の交わり」か。

当会では馬頭橋-第二砂川橋間を「子供の水辺WAKUWAKUひろば」として「子供の水辺サポートセンター」に登録し、子供たちの遊びや自然体験の場としている。

ヤゴ救出作戦 2題

友保 邦 弘

去る6月1日は富士見小学校、6月3日は南台小学校とたてつづけにヤゴ救出作戦を行いました。富士見小学校は今年で3回目。今回は低学年の3年生。3クラス合同で90名という大勢に校長先生、担任の先生二人と保護者が数名参加しました。救出したヤゴはほとんどがアカネトンボの系統で、その数実に5300頭(単位は“匹”ではなくてなぜか“頭”をつかいます)。プールに入って捕まえる子、カウントしてトレーに入れる子、記帳する子……皆で手分けして大盛会の内に終了。先生方の指導が徹底していて驚くほどスムーズに進行しました。大半はミニたんぼに放流。残りは教室で飼育、一部は児童が家へ持ち帰り羽化にチャレンジです。

昨年ヤゴイカダを浮かべた成果がありました。ギンヤンマのヤゴを1頭捕まえました!! 捕まえた男の子にみんなで大拍手。盛り上がりました。貴重品のギンヤンマは学校で飼育するそうです。家に持ち帰る児童も大勢いて、羽化するまでのエサやりが大変です。えさの赤ムシは理科教室の冷蔵庫で保管して必要の都度子供たちに渡すそうです。

南台小学校の方は土曜日にも講座「水の不思議探検隊」の二日目のイベントでした。参加者は児童17名、中学生アシスタント1名、父兄やアシスタントなど大人が8名で総勢26名。

なぜヤゴを救うのかを話した後で、「ギンヤンマの一生」という紙芝居。それから、皆で泥だらけになって救出劇スタート。救ったヤゴは、ほぼ全部アカネトンボ系で2840頭。シオカラトンボが2頭いたが、残念ながらギンヤンマやイトトンボはいませんでした。ほとんどをミニたんぼに放流しましたが、予想に反して家で飼いたいという児童が大勢いたので、エサの赤虫は校長先生にお願いすることにしました。



ヤゴ救出作戦は子どもたちが生き物の命を大切にするという貴重な体験であり、大きな成果をあげていることは確かですが、問題点もいくつかあります。短時間で実施するため全部のヤゴを救出できないので救えなかったヤゴのことを真剣に心配する子供もいて説明に窮することもあります。またあまりにも数が多いので放流先の確保が大変です。ミニたんぼに放流できない分は空堀川に放していますがトンボ池のようなビオトープが欲しいところです。

カルガモのお引越し

小林 寛治

去る5月30日(火)朝、8時半ころ八坂小学校の石川校長から「子連れのカルガモが学校の脇で右往左往している。空堀川まで誘導しても大丈夫だろうか?」という電話がありました。私は「空堀川の野口橋が近いのでそこまで誘導してくれば安全です」と答えました。直ぐに様子を見にゆけばよかったですのですが用事があって出向けませんでした。

後日、八坂小学校に行きました。あいにく校長先生は留守で副校長の長谷川先生が応対してくれました。「先日のカルガモの話はどうなったのですか?」とたずねると、「空堀川まで誘導したのは私です。私と用務員の二人で学校前から府中街道に沿って野口橋まで誘導しました。」とのことで、先生のお話を伺いました。

「親も子も見物人に驚いてか、右往左往するので大変でした。府中街道は車が多いので歩道からはみ出ないように、コガモが揃って親の後をついていけるようにと気を遣いました。まさかお巡りさんに頼んで交通止めをしてもらうわけにもいかず、本当に困りました。途中八坂神社の先の家に入りこんでしまったので、その家の人に協力してもらい、ようやく野口橋まで誘導しました。

野口橋のフェンスは高いのに、親ガモはどうするだろうかと見ていたら、先に飛び降り“カウ”と下から一声子供たちに呼びかけました。そうしたら子どもたちは先を争って管理用道路から下の草むらに飛び降り何とか親の元にたどり着きました。飛び降り損ね降ることが出来ずにウロウロしていた1羽の子ガモに親ガモが再度“カウ”と呼びかけるとさっと飛び降りたのですが、草の中に逆さまになってしまい、でもようやく親と一緒に揃って泳ぎ出しました。コガモは全部で7羽いました。

八坂小学校から府中街道沿いに約300mの距離があり、途中大勢の人が携帯電話付きのカメラで親子の姿を撮りはじめ、こちらは必死になって誘導しているのに、『可哀想なことをしている』という人も居ました。事情も知らず勝手なことをいう人がいることを残念に思いました。後日、生徒たちにこの話をしたら、親ガモの愛情に生徒たちは感激していた様子でした。いい教材になりました」

またまた後日談。カルガモ親子は学校のプール育ちだったようです。

インフォメーション

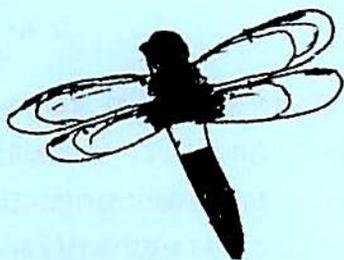
コシアキトンボ現れる

「子どもの水辺 WAKUWAKU ひろば」に今年になって久しぶりにコシアキトンボが現れました。

ご承知かと思いますが、このトンボは真っ黒な姿で胴体と尻尾の付け根に5mm~8mmほど真っ白、また

は黄色の帯があります。子どもの頃何かホタルトンボと呼んでいました。シオカラトンボはオスが白く塩を吹いた状態に見え、メスは黄色いムギワラの色をしていて、ムギワラトンボと呼ぶ所もあります。調べていませんが、コシアキトンボの場合も、白がオスで黄色がメスではないかと思います。丁度、腰の空間に色があるところから名づけられたものと思います。空堀川の改修前にはよく見られたトンボですが約10年ぶりに復活してきました。コシアキトンボの他、

イトトンボも数年前からこの場所で見られます。



カワヤナギの挿し木

4月29日に「子どもの水辺」区間で会員が行なったショウブの植え付け、カワヤナギの挿し木のその後の様子をお知らせします。ショウブは後の度々の出水で流されたものがありますがほとんど根付いています。

カワヤナギは殆どが枯れてしまい、添え木も流出しています。ただ一本の挿し木だけが活着し枝を伸ばしています。その状態を見ますと、太く、節を含んだ枝のようです。今後挿し木をする場合は、枝先ではなく、ある

程度太く、節を含んだものを選びたいものです。

流域連絡会3期終了

新しい河川法の下に誕生した「柳瀬川・空堀川流域連絡会」は、二年の任期を6月30日で終了しました。団体委員（私・小林）（公募委員として宮下さん）は3期6年の期間を皆勤しました。3期目の2年間は「水量確保分科会」の座長として空堀川の水量確保のため、勉強させていただきました。

今後の課題となる、水量確保分科会のまとめと提言、「空堀川の流量確保について」について、行政委員を含め全会共通の認識を得たことは大きな成果であり、今後具体的な活動に繋がるものと思います。

第4期「柳瀬川・空堀川流域連絡会」委員募集！

前述の通り、第3期2年に亘る任期が終わりました。新しい委員（再任可）の募集が9月流域各市の市報で募集要項が掲載されます。空堀川に想いや関心がある方は是非応募してください。ただし、日当や交通費等は支給されません。

掲示板その後

念願の掲示板は北多摩北部建設事務所案では下図の通りです。大きさ縦1m、横1.7m 全体の高さ1.8mでステンレス製枠はブロンズ色、掲示板色ホワイトボード、ガラスの扉と鍵つきで、中身の掲示方法は全部マグネット式になったものです。寸法は少し狭くなりましたが、ほぼ当会の提案に近いものになって

空堀川案内看板（案）



完成イメージ

〔 掲示板：ホワイトボード
枠：ブロンズ色 〕

います。しかし、固定したものとしての流域図や流域の説明文がありません。この点を少し話し合いで詰めて、8月を目途に設置したいものです。

「子どもの水辺」整備始まる

「子どもの水辺」自然再生のため、北北建は理解の上、協力してくれることになりました。乱杭の落差工の改修、籠マットによる護岸の再生、自然石による水際の侵食防止、ゴムボート乗り場の設置等安全に、そして安心して遊べる水辺環境を整備してくれることになりました。当会はこの場所を自然再生のモデル区間として、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

◆これまでの経過◆

(2006/4/21～6/30)

- ◎4月28日(金) 柳瀬川流域連絡会
- ◎4月29日(土) 「からぼり広場」に鯉のぼり掲揚, ショウブ植えつけ, 「NPO 自然環境復元協会」理事第三仲よし広場ピクトーブ現場見学。
- ◎5月11日(木) 川まつり実行委員会
- ◎5月13日(土) 定例会。
- ◎5月15日(月) 川まつり実行委員会
- ◎5月17日(木) 柳瀬川空堀川流域連絡会, 水量確保分科会 北北建。
- ◎5月20日(土) 身近な水の一斉調査説明会, 所沢北高校。
- ◎5月23日(火) 八王子・室岡会計事務所, 決算申告書作成依頼。
- ◎5月25日(木) 鯉のぼり掲揚。
- ◎5月26日(金) 埼玉県加須市水産流通センターにて川まつりに放流する魚を購入(小林・宮下)。からぼり広場に生簀をつくり(友保) 当日まで保管。
- ◎5月28日(日) 第8回空堀川川まつり。
- ◎6月4日(日) 身近な水の一斉調査・全国版も一緒に行なう。東村山市内から柳瀬川の合流点まで(小林, 友保)
- ◎6月10日(土) 定例会。
- ◎6月12日(月) 「WAKUWAKUひろば」実踏。東大和環境学習リーダー連絡会。
- 7月22日(土) 実施の下調べ。

- ◎6月14日(水) 第3回理事会。市民センター
- ◎6月16日(金) 18年度第一回新河岸川流域川づくり連絡会。野塩知己市民センター。
- ◎6月19日(月) 川まつり反省会。実行委員会主催。
- ◎6月20日(火) 総会資料印刷(小林・有川・安岡)。
- ◎6月21日(水) 八坂小学校訪問, 「夏休みWAKUWAKU講座」について。長谷川副校長。
- ◎6月23日(金) 第8回NPO法人空堀川に清流を取り戻す会, 社員総会。
- ◎6月27日(火) 河川環境管理財団助成事業の掲示板用に河川管理柵を利用する件, および物置設置箇所確認のため北北建管理課工事係立会い。(小林, 宮下, 友保)
- ◎6月30日(金) 第14回柳瀬川・空堀川流域連絡会, 及び第9回空堀川水量確保分科会。北北建会議室。

会 員 募 集

当会の活動に参加・支援ご希望の方をお待ちしております。会員制です。有償ボランティアの制度もあります。

お申込み および お問い合わせ先

東村山市美住町1-13-14 小林まで

TEL/FAX : 042-391-4003

会費振込み先

郵便振替 口座名: がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

がたろう通信

からぼり川

第 49 号

2006年 10月 30日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:正路妙子 TEL/FAX 042-393-1953 東村山市恩多町 5-15-7



「WAKUWAKU ひろば」で植物調査

10月22日(日)、「WAKUWAKU ひろば」付近の植物調査を実施しました。河川環境管理財団からの助成を受けた活動のひとつとして、破壊された河川の自然環境を子どもたちといっしょに再生することを目指して行なわれたものです。当日は木村先生に引率された東村山市立第三中学校自然科学部の生徒10人が、図鑑を持って参加してくれました。

美しい日本のために

正路 妙子

9月末、13年ぶりにドイツから来日した友人夫妻といっしょに北海道・東北地方を巡りました。十和田湖に向かうバスに乗るために降りたA駅前の広場でのことです。正面の建物に取り付けられたいくつもの大きな看板が目飛び込んできました。数件の金融業者の看板は、その色彩と大きな文字でひととき目を引きました。統一感のない建物のうえにそれらはそびえ立ち、街の乱雑さと卑猥さを一層きわ立たせているように感じられ、私たちはしばらく言葉を失っていました。

数十分滞在したその街からバスに乗り、蒼野高原を経て奥入瀬渓流に沿っていく頃になってようやく、乱雑な風景によって混乱させられた心も癒されて、友人たちの口から賛嘆の声が漏れました。苔や灌木の生えた石の間を、ときには淵となり、ときにははしぶきを上げる奔流となる流れと、流れに沿って生長したトチノキ、ブナ、カツラなどの落葉広葉樹が織り成すハーモニーはこのうえない静謐感を与えてくれました。トチノキやスギ、ヤナギの巨木に囲まれた十和田湖周辺を夕暮れも早朝も飽きることなく散策しながら、その落ち着いた佇まいと荘厳さに浸りきり、友人たちは「また何時の日か訪れて、できれば何日か滞在してみたい」と繰り返しました。

ヨーロッパでは通常目にするものがない※、屋外看板の氾濫は、A駅だけの問題ではありません。周囲との調和をまったく無視した巨大な企業広告が、日本全国いたるところ、美しい寺院の前にも、自動車道路や鉄道線路に面した緑豊かな田園の中にも立てられています。そこに暮らす人々が、美しさに対する感性を鈍磨させてしまい、その醜悪さに対して平気でいられることは、子どもたちの心にどんな影響を与えるのでしょうか？それが気がかりです。

浄土ヶ浜・龍泉洞へと向かうバスを盛岡駅で待つ間に言葉を交わしたひとりの女性は、数日前にドイツ旅行を終えて帰国したばかりとのことでした。「ドイツはどこともとも美しかった！11月にはまたでかけます」というその女性に、友人は「日本も美しいですよ」と応じていました。しかし、看板が氾濫する光景を「schrecklich(恐ろしい、ぞっとする)！」と形容したときの彼らの表情が、私には忘れられません。

※ 実は、バルセロナで、日本からの進出企業の大きな看板が建築物の上に立っているのを見かけたことがあります。

輝け！東村山っ子育成塾。

「子どもの水辺 WAKUWAKU ひろば」で開催

小林 寛 治

東村山教育委員会主催、当会支援の育成塾を7月16(日)9時から14時まで開催しました。雨のあとで水量は豊富、川遊びに適した絶好の日でした。主催者の挨拶の後、関係者の紹介があり、午前中は魚とり、午後は4人一組で全員がゴムボートに乗りました。ほとんどの子どもたちが初体験、大喜びでした。



参加者は小学生・中学生・高校生の全員50名と、指導の先生がた、役員のかた15名。当会から9人が参加しました。

当会では河川環境管理財団からの助成金でイベント用のテント1張り、プライベートテント2張り、4人乗りゴムボートを購入し、はじめて使用しました。



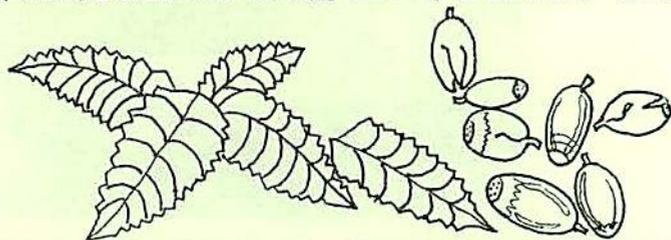
川に命を与える “ホンモノの森”

小倉安洋

昨年、NHK教育テレビの「知るを楽しむ “この人この世界”」で「日本一多くの木を植えた男」として紹介されたのが、植物生態学者の宮脇昭氏である。氏は最初、雑草の研究でスタートしたが、ある論文がきっかけでドイツへ留学した。そこで生涯の恩師であるR・チュクセン教授に出会う。教授から教えられたのが「潜在自然植生」という概念であった。

人間が全く影響を与えていない植生を「原植生」または「原始植生」といい、人間がさまざまな形で干渉してきた植生は「現存植生」という。今、人間の影響を停止したと仮定し、100年、1000年、3000年あるいはそれ以上の時間が経過した時、理論的に「原植生」と「現存植生」の間に「第3の植生概念」が考えられる。これが「潜在自然植生」である。人間の干渉によって、多くの森がその土地本来の緑や樹種からかけ離れた「ニセモノの森」になってしまった。人間が手をかけなくとも厳しい条件に耐えて長生きする強さを持つのが「ホンモノの森」である。「潜在自然植生」という概念を活かすために日本全国をくまなく調査した氏は、それを実現する鍵が「鎮守の森」にあることに気づく。「鎮守の森」は、神のたたりを怖れて人間の干渉をほとんど受けずに“貴重なタイムカプセル”として残された。つまり、「鎮守の森」は、その土地の「潜在自然植生」を知る手がかりとして大事な存在なのである。

川を考える時、「総合治水」や「健全な水循環」が大事なキーワードとして登場するが、それは具体的には、水源や流域の「保水力」に大いに関わる。「保水力」の主役は、「森」、 「ホンモノの森」ではないだろうか。「ホンモノの森」としてあげられる、日本の「潜在自然植生」は、いわゆる“どんぐりの実”をつける常緑広葉樹の「シイ、タブ、カシ類」や落葉広葉樹の「ブナ、ナラ」などであることが判った。1989年、氏によって完成した「日本植生誌」から、川に命を与える「ホンモノの森」について、多くを学びたいものである。



空堀川の草木 21 セイタカアワダチソウ キク科

有川 栄子

北アメリカ原産の多年生の帰化植物で、空き地、河川敷、土手などに群生する。秋に太い茎の上部に多数の枝を出し、直径 5 ミリ程の黄色い頭状花を密に穂状につける。明治年間に観賞用に導入されたとの説もあるが、第二次世界大戦後に温暖地を中心に急速に広がった。大群落を形成することから花粉アレルギーの元凶であるなどとの濡れ衣を着せられたこともあって、嫌われる植物のひとつになってしまったが、晩秋まで咲き続けるセイタカアワダチソウは、蜜源植物として優れていることから、養蜂業者が積極的に広めたとの説もある。花粉アレルギーの元凶ではないことが判明した後も、いったん広がった風評はなかなか改められていないのは残念なことである。川原のススキやセイパンモロコシの中で咲く真っ黄色のセイタカアワダチソウはなかなか美しい。空堀川では新空堀橋を境に群落は上流に多く、中流域にはあまり見られない。地下部で種子発芽を抑制する物質が分泌されることと、このような分布状況は関連があるのか、興味深い。



美住第三仲よし広場にヒガンバナが咲きました！！

2006年6月に「第一回空堀川グリーンフェスタ」で植えたヒガンバナが見事な花を咲かせました。私が見に行きましたのは、10月1日でしたから、盛りは少し過ぎていましたが、まだまだきれいに咲いていました。中に一本だけシロバナマンジュシャゲも咲いていました。しかし、心ない人に花芽を何本も切り取られた跡があり、残念に思いました。来年はもう少し花が増えることを願い、空堀川の植物を観ながら戻りました。

「夏休み WAKUWAKU 講座」

実川 圭子

7月30日に講座を開きました。2年前に馬頭橋から第二砂川橋までの区間が「子どもの水辺 WAKUWAKU ひろば」として登録されましたが、その「WAKUWAKUひろば」を整備し、活用するという目的で、「河川環境管理財団」から助成金をもらい、その活動の一環として開催したものです。夏休みに地元の小学生に思いっきり空堀川で遊んでもらおうと計画をしました。当日は他のイベントなども重なってしまい、参加者6名と少ない人数になってしまいましたが、いろいろなことを体験することができたと思います。

初めに網を持って川に入り魚の捕まえ方を教わりながら、川の中を歩きました。オイカワの稚魚・ドジョウ・ヨシノボリ・ザリガニなど、いろいろな種類の生き物が捕れました。その後、水辺の植物当てクイズで正解の植物を見つけて触ったり、絵に描いたりしました。午後は、ゴムボートに乗りました。ほとんどの子が漕ぐのは初めてだったので、左右にぶつかりそうになったり、なかなか進まなかったりしました。川からあがってから、一日川で遊んで、発見したことや感じたことを書いてもらいました。以下の通りです。

- ・ とても小さい魚がいっぱいた。
- ・ 苔がいっぱいだった。
- ・ 鯉が早かった。
- ・ ゴミをみんなで集めたい。
- ・ 深い所と浅い所があった。
- ・ 川で泳いだ。
- ・ 川がぬるい。汚い。濁っていた。
- ・ 蒲の穂がおもしろい。



子どもたちからは、またやって欲しいという声が多かったのですが、2回目を開催できないまま川の水も冷たくなってしまいました。来年は日程調整をうまくして、よりたくさん子どもたちに身近な空堀川で遊んでもらいたいものです。そして、講座を通して学んだことを生かして、「WAKUWAKU ひろば」を多くの人に活用していただきたいと思います。

空堀川の四季—秋—

田中 開

秋のポストカードは浄水橋の夕焼けで、太陽が西に沈む茜(あかね)さす光景が水面に映え、手前のススキが風情を添えた立派なものだ。ススキの株立ちは大岱小学校の川筋の他、所どころで見られるが、「秋は月」と言われる月、ススキ、水面の立体的な被写体は、なかなか適地がないようだ。「明月清風」で爽やかな秋の夜の景色は流域では堪能できないため、水辺の花、鳥などを探してみたい。

—昨年浄水橋上流右岸に会員有志の手でヒガンバナの球根を植えたのを手始めに、昨年6月のグリーンフェスタでは市民にも参加を呼びかけ、第三仲よし広場の築山に600個のヒガンバナの球根を植えた。今秋は“紅い絨毯”を期待したが、残念ながら疎らに終わった。

「昨夜一声雁」と、古人は秋が近づくと南に飛び立つ雁の鳴き声で秋の到来を知ったが、空堀川は逆に冬鳥のコガモの飛来で秋の到来を知る。初めてコガモの姿がとらえられた日は「初認日」と言われ、9月20日前後であるという。留鳥のカルガモは西武国分寺線橋梁下や、大岱小学校川筋でかつて多く見られたが、最近は少なくなり、落差工の下の水溜まり近くにいる程度で寂しい。こんな中、東大和市境の上橋・清水橋間の調整池は、清水富士見緑地と一変し、水路の拡張工事が完成した。そこは水量もあり、カルガモもみられるのだ。またコサギが水場を求めて飛び動き、足指を震わせながら魚を狙っている光景が目につく。最近はチュウサギが見られるようで、明るいニュースだ。

空堀川の魚、鳥については、市民の関心も深く、東村山短歌会の「たま湖」には
「のどかなる空堀川に白鷺の一羽が鴨にまじりて立てり」(伊藤恭子)と詠まれている。

東大和の高木橋では、空堀川唯一の支流奈良橋川が合流する。上流の奈良橋近くの第一小学校には、大正12年の創立以来の大きな銀杏の木が校庭のまんなか立っていて、日よけの役目を果たし、また葉の色の移り変わりが人々の目を楽しませてきたという。近くの郷土博物館下から空堀川の砂川橋・山王橋間に通じる八幡通りには、プラタナスの街路樹がある。秋冷とともにこれらの樹木が黄変・紅変していくのも楽しみだ。

第10回川づくり見学会・交流会（不老川）

宮下博文

7月1日(土) 本川越駅に8時50分集合、バスと徒歩で不老川を見学した。今回の見学会のテーマは、不老川の総合治水の取り組みと河川環境への配慮について見学し、知識を高めることである。昭和30年代後半からの高度成長期の宅地開発に伴ない、不老川流域は急激に人口が増した。水量の少なかった不老川には生活雑排水が流れ出て、水質は悪化の一途をたどり、3年連続公共用水域水質測定の全国水質ワースト1の汚濁河川となった。その後、不老川水環境改善緊急行動計画である「清流ルネサンス21計画」、「清流ルネサンスII計画」が策定され、住民、行政、河川管理者が一体となって、水環境改善に取り組むための事業や活動が実施され、水質は大幅に改善された。しかし目標水準は達成されず、引き続き「清流ルネサンス計画」が策定され、水環境改善に向けての取り組みが行なわれている。また、慢性的に発生している床上浸水被害を解消すべく、平成17年度より床上浸水対策特別緊急事業が実施されている。

最初の見学地、川越市岸町砂新田では、すでに多自然型護岸工事が完了、いくつかの業者により開発された製品が採用されている。不老川と久保川合流点では、川幅一杯に魚道が施設されていた。砂久保橋付近では、高さ10m、直径1.5m、樹齢数百年と言われる榎を見学。左岸に根を張り管理用道路にはみ出しているこの榎は伐採される恐れがある。

次に狭山市入曾の不老川と西武新宿線鉄道橋の交差付近に案内された。ここでは、新宿線の橋台が河川の流れを阻害し、上流側で床上浸水が発生するために、川幅を広げる必要があるとされる。不老川調整池である入曾多目的広場に移動して昼食、その後下水処理場に案内された。ここでは、球状碎石集合浄化法（水や空気の流れに変化をつけることにより、多様な微生物を生息させ、汚泥物を分解し浄化する方法）により一日あたり4000m³の河川水が処理され、12km上流の不老川還流事業放流口へとポンプアップされている。上流の還流放流口では2本の排水パイプから処理水が不老川に放流されていたが、期待したほどの成果に至らず、再度の「清流ルネサンス計画」を遂行中である。床上浸水対策特別緊急事業として河川整備が予定されている区間を見学したあと、狭山市立中央公民館において見学会及び川作り交流会が開かれた。そこでは、①榎をできるだけ残したい。②次期「清流ルネサンス計画」の名称について。③空堀川に清流が流れるようにするにはどうしたらよいか等がテーマとなった。

地下水は“公水”という発想を

島崎よう子

前号に多摩地域の水道水は地下水をブレンドしている自治体が多いという話を書いたら、3人の方から「知らなかった」と声をかけていただきました。さて、今回は東村山の地下水の活用状況についてのお話です。

東京都は地盤沈下と有機溶剤汚染を理由に、地下水の水道水源としての利用放棄の方針を1985年に出しました。多摩地域では地下水揚水量は1970年ごろがピークでした。地下水汲み上げ規制の結果、地下水の水位は回復しましたが、地盤沈下は戻らなかったといえます。1994年「東京都地下水保全ガイドライン」が策定され、地下水を水道水源から切り捨てる方針へと転換が行なわれ、2000年の「環境確保条例」で地下水保全のルールが示されました。

東村山における地下水の活用は、公衆浴場や病院、学校、工場、畑での使用で、水道取水量の約7%に相当します。畑での使用は、その一部が再び地下へ戻され、すぐれていると思います。また、災害用井戸が104ヶ所あり、指定条件は今後も井戸を使用していくこと、週に1～2回は水を出すことです。これによりポンプ作動の確認ができ、水を出すことで水質を保てるというものです。一番多く設置しているのは久米川町で23ヶ所、次いで廻田町、秋津町と続き、少ないのは青葉町・富士見町の1ヶ所ずつです。災害用井戸指定されていない井戸もいくつかあるようです。

水源の汚染事故が発見されると、水道事業者は安全性を口実にその井戸を封鎖しがちです。有害物は水脈を流れて広がり、取り返しがつかなくなります。工業用水としての地下水には公の水利権もなく、水代を払う必要もありません。このため、工場が“私水”意識で使うのを防ぐため、工業用水の地下水に、取水量に応じてわずかながら料金を課している自治体があります。それにより工場は大幅に水使用量を減らしたそうです。また、多くを使う個所があれば地下水はそこへ集まっていくということです。地下水は“公水”という位置づけが必要だと思います。

ダムによる水資源開発の発想だけではなく、自然の大きな地下ダムの活用と、地下水の涵養を考えていくときだと考えています。

今回は地下水・湧水保全条例の話です。

インフォメーション

◆サナエトンボ現れる

前号ではコシアキトンボが現れたことをお知らせしましたが、つづいてサナエトンボが現れました。サナエトンボは日本最大のオニヤンマを小型にしたよく似た姿をしています。溪流ではよく見られるトンボで、人なつっこく足元の石や岩に止まって、そばに行ってもなかなか逃げようとしないトンボです。このトンボからも川の様子が改善されているのが分かります。また、10月はじめにはアキアカネが乱舞し、先に赤いオス、後に少し色のあせたメスがつながって産卵している姿がありました。

カワセミは始終見られ、先ごろはアオサギが来ていました。

◆第3仲よし広場の怪！

10月19日(月)、トイレに人が閉じこもっている。との通報が「みどりと公園課」にあり、公園課の職員が私の家に鍵を取りにきました。(公園のトイレの鍵を預かっているため)トイレは中から鍵をかける仕組みで、外からは掛かりません。工務を担当する職員がようやく戸を外したが、中はもぬけの殻？

最後に使った人が強く閉めたため、中の鍵が拍子で落ちてしまったようだ。との結論。それにしても人騒がせなこと。

◆「子どもの水辺 WAKUWAKU ひろば」の植生調査、三中自然科学部と行なう。

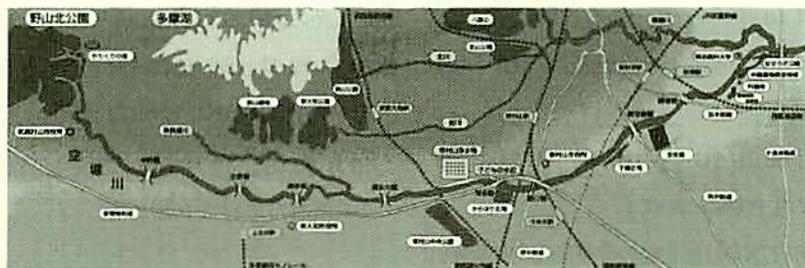
東村山第3中学校、木村先生と自然化科学部の部員10名とともに初めて空堀川の植生調査を行いました。私たち7名は木村先生の調査指導をお願いし、5m升を二箇所、おのおのを1mずつの区画に仕切り、5m区画の大まかな植生分布と1m区間の植生を調べました。分からない植物はビニール袋にいれ、集会所に持ってきて、植物図鑑を引いて調べました。天候にも恵まれ楽しい1日でした。

◆河津ザクラが植えられます。

西武多摩湖線橋梁架け替えの工事に伴う美住陸橋側の改修工事で橋梁上流側に36本の“河津ざくら”が植えられます。間隔は10mで現在の青梅街道浄水橋前から連続したサクラ並木が出来上がります。北北建から河津ザクラの提案があり、花が下向きに咲く、早咲きだ、河津に見に行ったが思ったより良かったサクラではなかった。など意見はありましたが、長い間サクラが見られていいじゃないか、と賛成しました。

多摩湖線下流、馬頭橋の間左岸にはハンノキ4本が植えられます。関東地方に産する種で大きく育ち、夏の日よけになり、一帯を冷やす効果のある樹木です。

空堀川流域図



空堀川は群馬県北村山市の野山北公園付近から流れ出し、東大和市、東村山市を流れ清瀬市内で荒瀬川に合流し、志木まで新河原川となつて、やがて荒瀬川として東京湾に注ぐ、およそ16kmの1級河川です。

空堀川の大きな特徴は平常時に水量が少ないことです。大雨が降ればアツという間に増水して大量の水が流れます。雨が止めば急に水がなくなってしまうことです。このままだと、魚や水鳥が川をすみかとするたくさんの生き物がすみかにくくなっています。

空堀川にキレイな水が流れ、川沿いの生き物が健やか、安全・安心な川を目指して『空堀川・空堀川流域連絡会』がつけられています。流域連絡会は流域自治体、市民団体、流域市民、東京圏によって運営されています。

群馬川 空堀川流域連絡会・事務局、東京都北多摩北部建設事務所

W16724H1048

◆続・掲示板その後

10月4日(水)小林、宮下、小倉三名が北多摩北部建設事務所(北北建と略称)に出向き、工事二課長、大久保課長補佐、麻生維持係長と掲示板の最終の詰めを行いました。

掲示板全面に流域図を入れ、空堀川の概要を説明し、B4 2枚分の余白を設けて実質管理する団体が季節の植物・鳥・魚などの空堀川の自然情報、イベント情報を掲載する予定です。10月末を目標に東大和市第四小学校付近、東村山市からぼり広場、下堀広苑、清瀬市梅坂橋親水階段付近の4箇所に立てることにしました。掲示板の管理は東村山市では当会が責任を持って行なっていきます。ご協力をお願いします。

◆物置の台風対策

河川環境管理財団の助成を受け、北北建の許可を受けて設置した、“ゆりの木”広場の物置は吹きさらしの場所においてあるので倒れたら危ないとの声に、コンクリートで10月14日(土)四箇所足場をコンクリートで固めました。午後1時半から5時まで掛かってコンクリートを練り、穴を掘って設置しました。参加者：土橋、安岡、小林。



◆秋のクリーンアップを11月19日(日)9時30分より行います。たくさんの方の御参加をお待ちしています。

◆これまでの経過◆

(2006/7/15～10/25)

- ◎7月16日「東村山っ子育て成熟」
- ◎7月15, 18, 21日土地開発公社から委託された草刈り。
- ◎7月30日(日) WAKUWAKU講座「水中の生き物について」
- ◎8月7日(月)北北建の今泉氏と共に柳瀬川調整地から浄水橋付近へ植物を移植。小林、有川、島崎、宮下。
- ◎野塩市民センターにて新河岸川流域懇談会。
- ◎8月11, 12, 14日 下堀・ふれあい広苑の除草作業。
- ◎8月16日(水) 北北建にて掲示板についての打ち合わせ。
- ◎8月28日(月)「みどりの市民会議」幹事会。
- ◎9月1日(金)「みどりの市民会議」
- ◎9月6日(水)「柳瀬川・空堀川流域連絡会」
- ◎9月9日(土) 定例会。
- ◎9月13日(水)「柳瀬川市民懇談会」(野塩市民会館)
- ◎9月25日(水)「みどりと公園課」と全生園へ。
- ◎10月1日(日) 22日の直物調査の準備。小林、有川。
- ◎10月14日(土) 定例会。

◎10月13, 16, 17, 18日 下堀・ふれあい広苑の除草および植え込みの手入れ。

◎10月22日(日) 植物調査「子どもの水辺 WAKUWAKUひろば」付近。

◎10月30, 31, 11月1日土地開発公社から委託された草刈(予定)

以下の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。

加藤 敏子氏, 有川 栄子氏
小林 寛治氏

会員募集

私たちの活動を支援し、参加してくださる方をお待ちしています。

◎会費は次の通りです。

個人会員(賛助会員とも)

年会費 2,000円

法人・団体会員(賛助会員とも)

年会費 10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名 : がたろう

口座番号 No, 00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市美住町1-13-14 小林 まで

TEL/FAX : 042-391-4003

がたろう通信

からぼり川

第50号

2007年2月28日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ:<http://homepage2.nifty.com/karaborigawa/>

E-mail:hiro183@nifty.com

発行責任者:安岡建依 TEL/FAX 042-396-9408 東村山市恩多町 3-32-15



子どもの水辺「WAKUWAKUひろば」に植樹しました

空堀川流域の自然環境を少しでも豊かにしたい — そうした想いをもって始められた「内野吉之助みどりの基金事業」も第5回を迎えました。このたびは、以前植えたアオダモの木が残念ながら枯れてしまったので、代わりにユリノキを補植しました。(本文11ページに詳細記事があります)

今こそ...

正路 妙子

京都市が屋上広告・点滅式ネオンを禁止する景観規制の素案を作成し、東京都が景観計画素案に屋上広告撤去を盛り込むなど、今まで野放し状態であった街の景観に対して、遅まきながら行政が改善の手を加え始めました。不動産業界からの反発は、「美」とは無関係の、経済的な利益を守るための反応です。

業者や個人が、思い思いに建造物を建ててきた街を美しく整えることは、至難の業です。しかし、今後建設されるものについては、「景観」を整える第一歩を踏み出すことができます。問題は、「美しい街づくり」についての住民の合意が形成されていないことです。「美しさに対する感じ方はひとりひとり違うから、合意の形成は難しい」と言われます。しかし、美しいものは誰にとっても美しいのです。地中海文明では、「形あるものはすべて美しくなければならない」と考えられて、「街道や橋のような土木事業さえも、耐久性や機能性に加えて、見た眼にも美しいことが不可欠な要素とされた」（塩野七生：ローマ人の物語）のだそうです。その文明に基礎をおくヨーロッパから帰国して、日本の風景の卑猥さにショックを受ける人々が多いのを見ると、日本の姿は、「美」を求める人の声を無視してつくられたに違いありません。

電車の中で化粧する女性は、自分を「美しく」しようとしているのですが、彼女がまずなすべきことは、その心を磨いて美しくすることでしょう。利己的な行為を自由と称する人々の行動を制限することは、いまや地球の環境を守るために必要不可欠なことです。

ドイツ・バイエルン州の河川に「ゴミの不法投棄を禁止する。違反行為に対しては100,000 マルク（1000 万円ほどに相当）までの手数料が罰金として課される：郡役場」という看板が立っているのを10年以上前に目にしました。

空堀川にもこのような看板が必要な時です。

地下水を保全するために、“地下水・湧水保全条例”を！

島崎 よう子

水道水の7割が地下水でまかなわれている小金井市で、2004年に「地下水・湧水保全条例」が制定されました。条例の目的は、「地下水の涵養を更に進めるとともに、地下水脈の分断を防ぎ、汚染のない地下水を適正利用しながら、安全な飲料水を確保し、地下水の保全及び湧水の回復を実現すること」です。そのために、市長は、地下水の水位・水質・流れ及び湧水の現況把握に努めるとともに、地下水に関する情報の分析・提言等のため、学識経験者等の専門家による「地下水保全会議」を設置しています。

最近途切れ途切れとはいえ、空堀川に水があります。しかし、下水が完備した平成10年ごろから水無し川になることがたびたびありました。特に真夏に川底の石が太陽に焼かれているのを見ると息苦しくなります。その水なし川に、大雨が降ると、雨水管から雨水がどっと流れ込み、水の通路となっていくさまがはっきりと見えます。そのたびに、柳瀬川、新河岸川、隅田川に合流して太平洋へ行ってしまうのだと無念に思います。何とか空堀川に水を取り戻せないものか。せめて水深10センチメートルの流れがあったなら！水はすべての生き物に命を与えてくれ、春先の陽光が川の水に反射する煌めきは美しいものです。

私たちの会の調査によると市内の空堀川にある湧水は2箇所となっています。小金井市では雨水浸透事業を進め、平成15年度末の雨水浸透マス設置は46,676個、設置率は44.2%で日本一です。小金井市による雨水浸透策で、三鷹市や調布市では井戸が涸れなくなったと報告されています。小金井市の対策が、地下水の下流域である三鷹・調布の地下水を涵養しているということであり、広域で雨水を浸透させることの有効性を示しています。空堀川の場合、地下水の流れを考慮すると、左岸地域に雨水浸透マスを設置すれば、水量確保にとって有効であるとの説もあります。

宅地化がすすんで地面の被覆面積が大きくなり、雨水が浸透できなくなった現在では、小金井市のように「地下水・湧水保全条例」を制定して市の地下水を守る姿勢“を示して欲しいと思います。

多自然型川づくりから多自然川づくりへ

小林 寛 治

ドイツやスイスから始まった「近自然河川工法」は、日本では建設省によって「多自然型川づくり」と名づけられ、平成2年から実験的に行われ、私たちの会の発足当時は、自然を多く取り入れた川づくりが全盛期で、空堀川でも今にも行われるものと喜んだものでした。しかしながら、10年経っても、空堀川では金太郎船のような同一河川断面の川づくりが行われ、一体「多自然型川づくり」とはどんなものかと色々な河川を見て回ったものでした。この間、平成9年に河川法が改正され、今までの治水・利水の河川管理に加え“河川環境の整備と保全”が追加されました。そしてようやく、多自然型の川づくりへと空堀川も見直されつつある現状になってきました。河川法の面からだけではなく、自然再生推進法や地球温暖化防止対策などによっても、河川の重要性が認識されるようになってきたこともあったのでしょう。国交省は「多自然型川づくり」を更に進め、川の自然・歴史を重視し、今までの表現から「型」を省いた「多自然川づくり」を採用することになりました。平成18年10月には、河川審議会レビュー委員会の提言によって「多自然川づくり基本方針」を策定し、全国に通達しました。

多自然川づくり基本方針

1. 「多自然川づくり」の定義：「多自然川づくり」とは、河川全体の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川本来が有している生物の生息・生育・繁殖活動及び多様な河川景観を保全・創出するための河川管理を行うことをいう。

2. 適用範囲：「多自然川づくり」はすべての川づくりの基本であり、すべての一級河川、二級河川、及び準用河川における調査、計画、設計、施工、維持管理等の河川管理におけるすべての行為が対象となる。

多自然川づくりの具体的施策として次のようなものが挙げられています。

課題の残る川づくりをしない。多様な自然環境、景観・歴史・文化の視点から自然を保全・創出することを基本として、過度の修正やショートカットを避けること。護岸の設置は最小限とし、生物が生息・繁殖できるように配慮する。

参考・引用文書：河川11月号 「多自然川づくり」の取り組みについて

国土交通省 河川局 河川環境課、治水課、防災課

「空堀川に清流を取り戻す会」に仲間入りした経緯と動機

岡田 一郎

このたび皆様の仲間に入れていただいた岡田一郎です。定年後の終の棲家として平成13年春、練馬・大泉学園から富士見町に転居してきました。福島県いわき市の出身で、某製菓会社に勤務し、大阪、仙台、山形、名古屋、千葉、東京と転勤を重ねてきました。4人の子供はいずれも、12年間の山形勤務時代に誕生し、緑豊かな、間近に清流のある自然環境で育つことができました。定年後、米国系の第二の会社での勤務を経験し、昨秋から第三の仕事(就労相談業務)に従事していますが、現在は毎日勤務ではなくなり、時間的に少し余裕ができました。

昨暮に中央公民館で開催された「団塊世代シンポジウム あなたへの応援歌」に、早い時期に申し込みをすませ、当日は楽しみにして参加しました。パネルディスカッションのパネリストをされた小林寛治理事長の、会の設立から今日に至る10年間のご努力やその諸活動に深く感銘し、共感を覚えました。その後小林様にはご多忙にもかかわらず、暮れも押し詰まった28日に会っていただき、会の設立からNPO法人化に至る経緯や活動の詳細を伺い、その活動趣旨に賛同して加入を決意しました。会の設立10周年という記念すべき節目の年に仲間入りさせていただいたことは幸運でもあります。

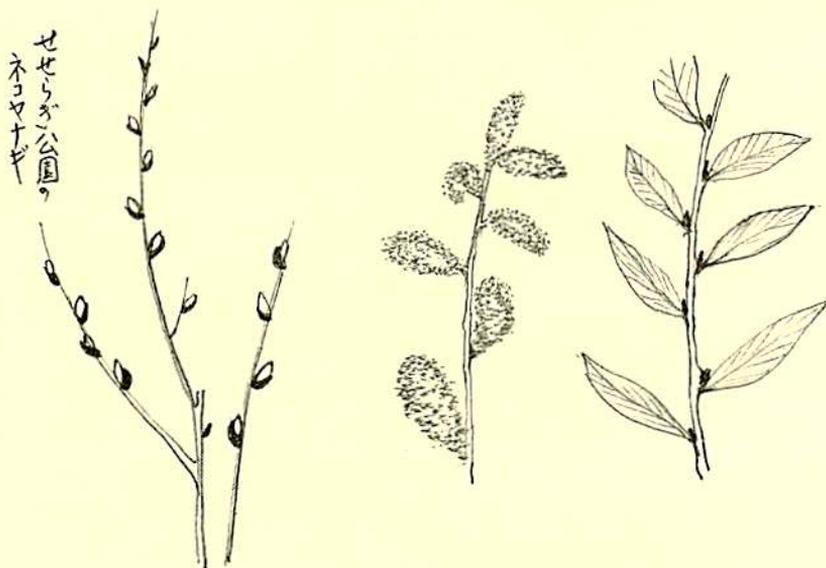
治水対策と水資源開発による成果を優先するあまり、日本中の河川が極度に人工化され、河川生態系と河川の作り出す景観が犠牲にされていることをかねてから憂い、また疑問視してきました。かつて駐在勤務した山形では、母なる川といわれる「最上川」にコンクリート護岸箇所が随所に増えて、「最上川風景」を誇った景観が一変し、職業画家はもちろん日曜画家をも落胆させました。一方、水量が少ないことでは空堀川と似ている馬見ヶ崎川は、水辺の整備等により市民の憩いの場や虫飛び交う環境に変貌しました。クレーン車が出動する“山形いも煮会”の会場として山形観光にも貢献しており、川の通信簿で「四つ星の評価」を得ている事例も間近に見ました。私の少年時代の夏の遊びは専ら川を中心にしたものでした。鮎やハヤ釣りに飽きるとパンツひとつで仲間と夕暮れまで川泳ぎし、子供達の川遊びの終了を見計らって農家が川で米を磨いでいた往時が懐かしく思い起こされます。空堀川が多くの市民の憩いの場となり、子供たちが安心して水遊びができるような川となるよう、研究や行動を惜しみなくしていきたいものです。川が織り成す自然と共生できる、豊かな地域社会をつくるためにも。

今日まで、献身的にご活動されてこられた会員の皆様の活動とその成果に心から敬意を表し、今後の会の発展に寄与できるよう諸活動にも積極的に参加して参りますので、よろしくご厚誼のうえ、ご指導いただきますようお願いいたします。

空堀川の草木 22 カワヤナギ (別名 ネコヤナギ) ヤナギ科

有川 栄子

全国の平野を流れる河川のあたりにはえる落葉低木で、雌雄異株。枝が多く出て、早春に葉よりも早く銀白色のかわいい花穂が出る。別名のネコヤナギは花穂を猫の毛になぞらえたものであろう。空堀川の「子どもの水辺」あたりにはえているヤナギは落葉小高木のタチヤナギやコリヤナギが多い。これらのヤナギは清瀬市金山調整池から伐採した枝を分けてもらい挿し木したものである。やはり雌雄異株で、見分けるのがなかなか難しい。1月末に観察したコリヤナギには、秋に落葉するはずの葉が多く残っていた。これも温暖化の影響だろうか。達磨坂橋近くの川岸には、1本のヤナギ(タチヤナギ?)が上流から流れ着いて大きく成長している。5メートル以上に!皆で見守っていききたいものである。



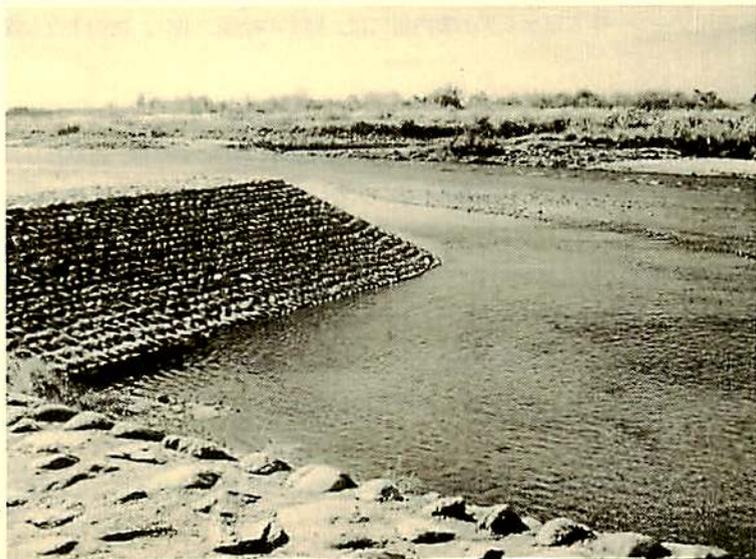
武田信玄にみた治水術

小林 寛 治

2006年11月のある日、かねてから一度見たいと思っていた釜無川の信玄堤を見てきました。以前「河川文化を語る会」で、国土交通省の前甲府工事事務所長、和田一範氏の講演を聴く機会がありました。そのとき、1200年前の武田信玄による治水の原点は、中国・長江上流、岷江（みんこう）の都江堰（とうえん）という、世界遺産にも指定された治水・利水施設にあり、その仕組みが信玄によって使われたと聴き、興味を抱いたからでした。

「信玄堤」は、御勅使（みだい）川と釜無川が山梨県竜王町で合流するところに築かれた堤防を指すようですが、武田信玄の治水は、地形を利用した高岩や将棋頭、十六石という巨石の配置、新たに掘削した流路と数々の霞提（かすみてい）というシステムによって成立ったものでした。

南アルプスから流れ出した釜無川は御勅使（みだい）川と合流し、さらに、秩父連山から流れ出した笛吹川と合流して、富士川となって駿河湾に注いでいます。二大河川がつくり上げた大きな扇状地・甲府盆地は、太古の昔は大きな湖だったと、立ち寄った歴史博物館の学芸員から説明がありました。



釜無川の「信玄堤」には水流調施設として聖牛（せいぎゅう）[注]があります。三本の杭を組み上げ、川中に据付け、流れを弱めるものです。これと同じようなものが瑪槎（マーツ）と呼ばれ、岷江（みんこう）の都江堰（とこうえん）の脇に展示されているのだそうです。竹箆に玉石をつめたもので、日本の蛇箆によく似たものです。日本には大陸から様々な文化が伝えられてきました。聖牛も同様で、中国の治水用の馬も日本ではいつしか牛になってしまったようです。



[注] 釜無川ゾーン、信玄堤エリアの案内板には、聖牛の絵図と共に、次のような説明があります。



富士川は日本でも有名な急な流れの川です。このため大雨のときには、たびたび荒れ狂います。現在のようにコンクリートも機械も無い大昔に荒れ狂った川の洪水を防ぐ事は大変なことでした。

この聖牛は、洪水の流れを弱めるために考えられた日本で有名な古い河川工法のひとつで、戦国時代のこの甲州が発祥の地といわれています。見てのとおり三角の形をしているので、上の部分が牛の角のように見えるためにこのような名前がついたといわれます。

[聖]の意味ははっきりしませんが、現代風にいえばスーパーとかウルトラという意味だろうともいわれています。

聖牛は、大きさで「大聖牛」、「中聖牛」、「聖牛」の3つに分類され、ここに設置されているものは「中聖牛」の大きさのものです。

「空堀川に清流を取り戻す会」に入会するにあたって

津田 俊幸

「夏になったらドブ川の臭いがするから暑くても絶対に窓を開けてはならない！」小学生の自分が決めた数少ない決まり事でした。私の住んでいる場所は空堀川から50m程離れた場所に位置し、風が吹けば川の発する臭いが家の中にまで入り込んでしまう環境でした。鼻が曲がるような臭いだったのを覚えています。

そんな苦い経験のためか、空堀川に近づくことを嫌がり、ましてや空堀川に入って遊ぶことは絶対に無いと決め付けていた私です。しかし、一昨年の夏頃でしょうか、子どもが川に入って遊んでいる衝撃的な光景を目にしました。しかもすごく楽しそう！！これには驚くとともに、今の子どもたちにとって空堀川は身近に感じることの出来る川であることを実感できる大きな出来事でした。それ以来、空堀川をじっくり見る機会が多くなりました。亀がいる、鯉がいる、フナがいる、そしてタヌキまでもがいる！普段目を向けることが無かった空堀川にいつのまにかたくさんの生き物が戻ってきていることが分かりました。生き物がたくさんいる、それは川を取り巻く環境が昔に比べ改善したことを意味します。

自分でも環境を改善していくことが出来るのではないかとそんなことを考えていたある日、川のフェンスに貼られた一枚のチラシを目にしました。「クリーンアップ作戦」と題されており、趣旨は川のゴミ拾いをしよう、というものです。前に川岸を掃除している方を見かけたのを思い出し、こういった地道な努力が川をきれいにし、生き物が戻ってくるための環境改善の重要な役割を担っていることを知りました。このチラシを見てから私でも何か力になれるかもしれない、その考えから入会の決意をしました。

そういえば、いつの間にか「窓を開けては・・・」の決まり事を守らずに、夏でも窓を開けるようになりました。臭いは全くしません。それは会の皆さんやクリーンアップに協力した方々の努力の賜物が背景にあると思います。川をきれいにするためのゴミ拾いというのは、みんながゴミを捨てないように気をつけていけば、やらなくても大丈夫なはずです。「気をつける」の火付け役はゴミを拾う行動を通して、近隣の方々に理解されると思われれます。私の力は微々たるものですが、一人でも多くの方の火付け役になれるように頑張りたいと思います。

空堀川の四季—冬—

田中 開

冬のポストカードは雪景色である。清瀬市境から東村山最終の大沼田橋方向を撮ったもので、先掘防止用の連なる柵杭に積もる雪、兩岸の白一色と冬の冷たい水面は美しい。平成10年1月の大雪の写真で、こんな景観は数年に一度とあってよいであろう。

冬の活動は来春に向けたものが多く、2005年1月に都との協議の結果、浄水橋脇の緩傾斜部にソメイヨシノを4本植栽した。これらは2006年春には開花した。対岸の満開のサクラと合わせて、いずれここはサクラの名所となるであろう。

菜の花の種蒔きは、「春」の項で述べたように、下堀広苑から下流が主力で、上流はクリンアップの掃り路に残った種子をとところどころパラパラと散布した程度であった。唯一のみどころのふれあい広場対岸は、その後のブタクサの繁殖で全滅状態になった。2005年末、第二砂川橋から馬頭橋までの間に有志が菜の花の種蒔きを行なったが、翌春はほとんど咲かなかった。来春を楽しみにしている。

10月末「WAKUWAKUひろば」の植物調査を実施したが、これは自然環境の再生を子どもたちと一緒にこなうことが目的であった。今後会員有志と学生たちによる「冬の植物調査」の計画もある。

空堀川を一層親しみ安いものとするために、都の協力を得て「からぼり広場」と「下堀広苑」に流域図が設置された。

冬枯れ時の水不足には悩まされるが、2005年末「いこいの広場」前の稚魚を野塩橋の水溜りに移動させて救出するなどの地味な活動もあった。

かつて「砂の窟」とか、「からぼり」と言われた溝も、改修工事で34メートルの河川敷となり、このなかに水路も整った。それだけに「渠成って水至る」の如く、水の流れる空堀川となることを願っている。

用水に魚を呑みたる白鷺は、
悠々と飛ぶ
冬の街空（富田八重子）

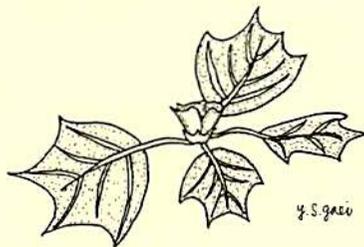


インフォメーション

◆**クリーンアップ**：平成18年11月19日に第19回空堀川クリーンアップが行われました。参加者は第一会場・天王森橋右岸「わかくさ広場」で20名，第二会場・下堀橋右岸「おまつり広場」で45名でした。ゴミはそれぞれの会場で50袋と85袋になりました。今回はゴミの量が通常よりも多く，橋と橋の中間でゴミ袋が一杯になり，重くて持ち運びできなくなってしまったと責任者の方々から報告がありました。地域のたくさんの住民に参加してもらうにはどうしたらよいでしょうか？

◆**植樹祭**：1月28日（火），神山みつ江氏から「内野吉之助みどりの基金」に頂戴したご寄付を記念して，第5回の植樹祭を「ゆりの木ひろば」で行ないました。今回植えたのは，北米原産のモクレン科の樹木ユリノキ（*Liriodendron tulipifera*）です。葉が半纏（はんてん）に似た形をしているので，ハンテンボクと呼ばれたり，黄緑色の花がチューリップに似ているので，チューリップツリーと呼ばれたりもします。日本には明治時代初期に渡来しました。原産地では高さ60メートルになるものがあるそうです。

神山氏をはじめ，有志15名が，交代で穴を掘り，木を植え，土を被せ，水をやり，支柱を立てる等の作業を楽しみながら進めました。芽吹きが楽しみです。



◆**シンポジウム**：当会「空堀川に清流を取り戻す会」は平成8年10月に，理事長小林寛治が，東京都環境局の「環境学習リーダー養成講座」で学んだ同期生と共に，「きれいな水が流れ，たくさんの生き物が棲める環境を！」と願って設立したものです。その後，志を同じくする者たちが集まり，正会員・賛助会員合わせて現在70名ほどになりました。

このたび10周年を迎えたことを記念して，4月28日（土）に，市民センターにおいてシンポジウムを開催することになりました。詳細は追ってお知らせいたします。

たくさんの方がたのご参加をお待ちしています。

◆新会員を迎えました。どうぞよろしく！

- ・岡田 一郎氏
東村山市富士見町
- ・津田 俊幸氏
東村山市恩多町

◆寄付金をいただきました。ありがとうございました！

- ・神山 みつ江氏
- ・小林 寛治氏

◆これまでの経過◆

(2006/11/01~2007/01/31)

◎11月11日(土) 定例会 富士見文化センター。

◎11月19日(日) 第19回空堀川クリーンアップ実施される。

◎12月5日(火) 理事会

◎12月9日(土) 定例会 中央公民館。

◎1月13(土) 定例会 中央公民館。

◎1月23日(火) 北多摩北部建設事務所にて、「WAKUWAKUひろば」の維持管理について打ち合わせ:小林, 宮下, 土橋, 小倉, 安岡。

◎1月28日(日) 神山みつ江氏から、「みどりの基金」に寄付金を頂戴したことを記念し、「ゆりの木広場」に植樹。枯れてしまったアオダモの代わりに、ユリノキを植える。

お知らせ

4月15日(日)に第20回クリーンアップを予定しています。ご協力をお願いいたします。

会員募集

私たちの活動を支援し、参加してくださる方を募っています。

◎会費は次の通りです。

個人会員

入会金 2,000円

年会費 2,000円

賛助会員

年会費 2,000円

法人・団体会員(賛助会員とも)

年会費 10,000円

◎会費振込先

郵便振替 口座名 : がたろう

口座番号 No.00130-3-729803

◎お問い合わせは下記までお願いいたします。

東村山市美住町1-13-14 小林 まで

TEL/FAX : 042-391-4003